

国際ロータリー 第2660地区

1999～2000年度のための

地区協議会

記 録

ガバナー 吉川 謹 司
インカミングガバナー 柏 木 尚

1999年5月15日（土）

於：リーガロイヤルホテル

ホストクラブ：豊中ロータリークラブ

1999-2000年度RIテーマ



ROTARY 2000:	ロータリー2000:
ACT WITH	
CONSISTENCY	活動は—堅実、
CREDIBILITY	
CONTINUITY	信望、持続



吉川ガバナー挨拶



柏木インカミングガバナー挨拶



壇上の様子



エールを交換する吉川ガバナーと
柏木インカミングガバナー



司会進行の青木次期地区代表幹事

会場風景





一七〇〇イム



バストガバナー



バストガバナー

国際ロータリー第2860地区

1999・2000年度のため



会場全景



声高らかにロータリーソングを歌う

国際ロータリー第2660地区

— 1999～2000年度のための —

地区協議会 プログラム

1999年5月15日(土) 於：リーガロイヤルホテル

出席義務者：1999～2000年度当地区各ロータリークラブ会長、幹事ならびにクラブ奉仕、
職業奉仕、社会奉仕、国際奉仕の各担当理事とロータリー財団、米山奨学各
委員長の計8名。

9:00～10:00

登 録

3階 光琳の間ロビー

10:00～11:15

本 会 議

3階 光琳の間

司 会	次期地区代表幹事	青 木 禎一郎
開 会 点 鐘	ガ バ ナ ー	吉 川 謹 司
国 歌 斉 唱	ソ ン グ リ ー ダ ー	小 橋 潔
ロータリーソング「奉仕の理想」	ピ ア ノ 伴 奏	織 田 典 子
開 会 の 挨 拶	地区協議会委員長	橋 田 進
歓 迎 の 挨 拶	ホストクラブ会長	田 中 正 一
来賓リーダーの紹介	インカミングガバナー	柏 木 尚
次 年 度 の 方 針	インカミングガバナー	柏 木 尚
出 席 報 告	登 録 委 員 長	豊 島 了 雄

11:15～11:35

交通問題について

光 琳 の 間

交通問題特別委員会アドバイザー パストガバナー 廣 瀬 勘一郎

11:35～11:50

来る2004年の国際大会について

パストガバナー 古 田 敬 三

11:50～12:00

休憩・食事用意

12:00～13:00

昼食・移動

〔昼食は本会議場
食後各部門協議会会場へ移動〕

13:00～15:00

部門別協議会

(部門別協議会会場にて)

部門別(色)	会場	討論リーダー	サブリーダー
会長 (ホワイト)	ロイヤルホール 3 F	インカミングガバナー 柏木 尚(豊 中)	青木禎一郎(豊 中) 勝本 保(豊 中)
幹事 (ライトグリーン)	桂 2 F	パストガバナー 熊澤 忠躬(守 口)	津江 孝夫(大 阪 南) 岡村 晃明(守 口)
クラブ奉仕 (クリーム)	桐 2 F	ガバナー 吉川 謹司(東大阪東)	多田 昭三(大阪東南) 新津 敬直(大 阪 西) 土井 正裕(大 阪 北) 大川進一郎(大 東)
職業奉仕 (スカイ)	牡丹 2 F	パストガバナー 近藤 雅臣(千 里)	近藤 浩司(大 阪 南) 松岡晃一郎(大阪うつぼ)
社会奉仕 (イエロー)	山楽1 2 F	パストガバナー 中川 章三(大阪城南)	矢橋 弘嗣(千 里) 柳 雄二(八尾中央) 藤井 武治(大阪リバーサイド)
国際奉仕 (オレンジ)	楓 2 F	パストガバナー 山中 文和(大 阪 南)	坂本 旭(大阪東淀) 三宅 一嘉(大阪東南) 笹井 敏之(大阪イブニング)
ロータリー財団 (グリーン)	ダイヤモンドルーム 2 F	パストガバナー 菅生 浩三(大 阪 北)	奥 嘉隆(交 野) 執行 経世(枚 方) 宮田 宏章(大 阪 北) 松岡 茂雄(大阪鶴見) 簡 仁一(茨 木) 大谷 透(大阪西南) 岡本 健治(大阪東南)
米山奨学 (ウグイス)	山楽2 2 F	パストガバナー 中野 董夫(大阪阪南)	三好三郎丸(大阪天満橋) 平田啓治郎(大阪西南) 酒井 宏(大 阪 南) 小竹 靖二(大阪中之島) 中澤 章好(大阪住吉)

15:00～15:20

休憩

(本会議場へ移動・ティータイム)

15:20～16:30

本会議

光琳の間

司 会	S . A . A .	田 中 勇之祐
部門別要旨報告	各部門担当リーダー	各 リーダー
総 括	インカミングガバナー	柏 木 尚
所 感	ガバナー	吉 川 謹 司
閉会の挨拶	地区協議会副委員長	一 瓢 利 男
ロータリーソング「それでこそロータリー」	ソングリーダー	小 橋 潔
	ピアノ伴奏	織 田 典 子
閉 会 点 鐘	ガバナー	吉 川 謹 司

目次

1999～2000年度 RIテーマ……1

写真集……2

プログラム……8

開会の挨拶 地区協議会委員長 橋田 進……12

歓迎の挨拶 ホストクラブ会長 田中正一……13

次年度の方針 インカミングガバナー 柏木 尚……14

交通問題について

交通問題特別委員会アドバイザー・

バストガバナー 廣瀬勘一郎……18

来る2004年の国際大会について

国際大会特別委員会委員長

バストガバナー 古田敬三……20

部門別協議会

会長部門 インカミングガバナー 柏木 尚……21

幹事部門 バストガバナー 熊澤忠躬……27

クラブ奉仕部門 ガバナー 吉川謹司……29

職業奉仕部門 バストガバナー 近藤雅臣……35

社会奉仕部門 バストガバナー 中川章三……41

国際奉仕部門 バストガバナー 山中文和……48

ロータリー財団部門 バストガバナー 菅生浩三……54

米山奨学部門 バストガバナー 中野董夫……60

部門別要旨報告 各部門担当リーダー……66

総括 インカミングガバナー 柏木 尚……71

所感 ガバナー 吉川謹司……72

閉会の挨拶 実行委員会副委員長 一瓢利男……73

地区協議会参加者……74

出席者名簿……76

地区協議会実行委員会……78

地区協議会収支報告書……79



(中巻) 巻頭 田淵 久良子会長挨拶

国際ロータリー 第2660地区

1999～2000年度のための

地区協議会

開会の挨拶



地区協議会委員長 橋田 進 (豊中)

皆さま、おはようございます。豊中ロータリークラブの橋田でございます。

清々しく、緑の映えるきょうこのごろですが、この地区協議会に朝早くからご参集くださいます、たいへんご苦労さまでございます。皆さま方も同じだと思いますが、ロータリーの大切なお役を引き受けますと、だんだん「ご苦労さまです」という言葉を言う機会が多くなります。

さて、本日の地区協議会の開催にあたりまして、吉川ガバナーをはじめ多くのパストガバナー、地区役員の皆さまからいろいろご指示・ご指導を賜りましたことを厚く御礼申し上げます。

本年、私たち豊中ロータリークラブは、創立40周年を迎えますが、この機にあたり、当クラブの柏木尚さんが次期第2660地区ガバナーに就任されることになったことは、たいへん光栄に存じます。既にご承知のとおり、柏木インカミングガバナーは、本年の2月23日から3月6日まで、シカゴおよびアナハイムを訪問され、カルロ・ラビッツァ次期RI会長より、新しい年度の基本方針をはじめ、RIのテーマなどについて十二分に勉強してられました。これを基礎に、柏木インカミングガバナーは、本日、次年度の当地区における理念、方向性、お考えなどを披露される予定でございます。

引き続きまして、廣瀬パストガバナーからは「交通問題について」のお話、またさらに古田パストガバナーから、2004年に当大阪地区で開催される国際大会につきまして、お話をうかがう予定でございます。

また、午後に開催します部門別協議会では8部門に分かれ、討論リーダー、サブリーダーを中心に、皆さま方の個々のクラブの運営、並びに委員会活動などに関して、実務的な討議を行う予定でございますので、十分にご協議くださるようお願いいたします。

終わりに、本日の協議会の設営のため、いろいろお世話いただいた関係者各位、コ・ホストクラブとしてご協力いただきました豊中南ロータリークラブ、豊中―大阪国際空港ロータリークラブ、豊中千里ロータリークラブの方々に深甚のお礼を申し上げます。また、私たちの運営に関しまして、何分慣れない経験でございますので、多々不行き届きな点もあるかと思いますが、ロータリアンとしてのご友情によりお許しくださいますようお願いいたします。

では、本日、この地区協議会が実りある有意義な会議であることを祈りまして、ただいまから国際ロータリー第2660地区、1999～2000年度のための地区協議会を開催させていただきます。

歓迎の挨拶

ホストクラブ会長 田中 正一（豊中）



皆さま、おはようございます。5月半ばの新茶の香りを楽しむころとなりました。きょうは、国際ロータリー第2660地区、1990～2000年度の地区協議会に、公私なにかとお忙しいなか、早朝よりご出席賜りまして、まことにありがとうございます。

この集いを、ガバナー吉川謹司さまをはじめ、討論リーダー、サブリーダー、そして多数のバストガバナーのご臨席のもとに開催できますことは、ホストクラブといたしまして、まことに光栄であり、厚く感謝申し上げます。

地区協議会は、次年度のための出発点となる重要会合であり、次期会長、幹事、理事およびリーダーの方々には、奉仕についての理解を深め、ロータリーの知識を伝える機会でございます。皆さま方の力によって、きょうの協議会が、有意義な実りのある時となりますよう心から願ひたしまして、私の歓迎のご挨拶といたします。

次年度の方針

インカミングガバナー 柏木 尚 (豊中)



今年の当2660地区大会は、2004年の国際大会に向けたリハーサルの意味ももつものでありましたが、近隣4地区連合の地区大会という形で3月12日、13日に開催され、ジェームス・レイシー会長をお迎えし、素晴らしい成果を上げることができました。事務総長をお引き受けいただきました近藤直前ガバナー、並びに吉川ガバナーのご尽力には深く感謝を申し上げる次第でございます。来る2004年に開催が予定されております国際大会に向けても、一つのめどがついたのではないかと考えております。

また5月7日、8日には、京都の国際会議場で、レイシー会長主催のアジア大会がございました。800人以上のロータリアンが出席され、アジアにおけるロータリーの現状、また教育問題等について熱心に論議が交わされました。会員の数では、全世界の4分の1にのぼっておりますし、また寄付等においても3分の1を占める役割を担っているということが確認され、私自身、この大会で、アジアがRIにおいてかなり重要な位置を占めていることを実感しました。21世紀には、ロータリークラブはアジアにおいていっそうさかんになっていくでしょう。

さて、この協議会は、毎年、ノミニーがアナハイムにおける国際協議会に出席しまして、その後、地区における会長エレクト研修セミナー、次期地区委員長会議等を経まして、次年度のために開催されるたいへん重要なアッセンブリーでございます。先ほどもご紹介がありましたとおり、私は2月23日から3月8日にかけてアメリカを訪れ、協議会に出席してまいりました。

アナハイム・ヒルトンを借り切って開催された協議会は、全世界528地区のガバナーノミニーが夫妻で参加し、まことに壮観でした。オープンセレモニーでは、加盟国159の国と地域の国旗が順番に入場してくるわけで、まさに国際大会だなと深い感銘を受けました。

RIの次期会長エレクトでありますカルロ・ラビッツァさんは、イタリア人で、ミラノ南西ロータリークラブの会員です。建築デザインの専門家であり、特に公共施設についてたいへん詳しい方でございます。

テーマは堅実、信望、持続

さて、次年度のRIのテーマ等についてご報告をさせていただきます。

今年のご承知のように、カルロ・ラビッツァさんは新しいプログラム、新しいプロジェクト等を出しておりません。彼の言葉で申しますと、「持続」という新しい指針のため、1999～2000年度は新しいプログラムを導入しないことを決定した、とおっしゃっているわけです。私としては、自分なりにまとめた形でご報告をさせていただきますが、カルロ・ラビッツァ会長エレクトが次年度に向けて強調したことは、大きく分けて2つあると考えるわけでございます。

1つ目は、今年度、すなわち1999～2000年度は20世紀と21世紀との架け橋であり、この年度を、自分自身をもう一度点検し、21世紀を迎える準備の年にしてはどうか、ということであります。付け加えて申しますと、より力強く、より柔軟なスタイルで、新しい時代にふさわしいロータリーをつ

くろうと言っているわけです。そのためには、ロータリアン自身が変わっていかねばならない、ということになります。

2つ目は、たいへん説明しにくく、皆さんからのアンケートにも「？」がついて返ってきたものがあつたのですが、「持続」(continuance)です。私たちロータリーにおいて、役職は1年ごとに交替していきます。その良い面について、私はよく承知しておりますが、カルロ・ラビッツァ会長エレクトは、あえて「持続」ということを強調されたのです。ロータリーの未来をより強力にするため役立つのは持続であり、指導者や目標、プログラムを毎年変えていると、長期的には深刻な困難に直面するであろう、とまで言い切っておられるわけです。これは、まさに大きな改革ではないかなと私は思います。

また協議会では、私たち一人一人が真のロータリアンになるために、次年度のテーマが設定されました。すなわち、テーマは、あくまでもロータリーの過去・現在・将来にとって最良のものであるということ信じつつ、「ロータリー2000」、そして活動は「堅実、信望、持続」と決定されたわけです。

21世紀の変化とニーズに対応

このテーマを私なりにご説明させていただきたいと思います。「ロータリー2000」は、いわゆる21世紀という新しい世紀に向けて、私たちは真のロータリアンになろうではないかということです。そのためには、ロータリーの規則と信念に堅実でなければならぬ。一貫性をもたなければならぬ。なぜかという、大きな変化を遂げるけれども、軸まで動いては困りますよということです。そして持続を大切に、信望を勝ち取れるような行動をしようとするものでございます。

私としては、いつも謙虚さを忘れないで、そしてすべてのものを呑み込める度量を広く養っていかうではないか。すなわち、ロータリーの原点というものはしっかりと踏まえて、21世紀のあらゆる変化と新しいニーズに柔軟性をもって対応でき

るロータリアンになろうということを、自分なりの結論として申し上げます。

部門ごとの方針

次に、4大奉仕、8部門について、順を追って申し上げます。

クラブ奉仕部門ですが、課題は何と申しましてても会員増強です。1997～98年度にはアメリカでも初めて会員が少し減り、RIも非常に危機感をもっているわけです。教会など、他の奉仕団体でも減ったようです。不況社会の到来など時代の背景もありますが、われわれロータリアンとしては、それだけで片づけられない。私たちが本当にロータリーの原則をきちっと守って奉仕活動をしているかどうか、もういっぺん自分たちに問い直してみたらどうだろうかと思います。また、クラブ内部についても、寛容あるいは度量の大きさ、あるいは連帯、また親睦ということをもふまえ、きちっと運営できているかということも考えないといけません。吉川ガバナーは「みんながクラブで汗をかい、て奉仕に集中するという機会をつくると、必ずそのクラブは活性化する」ということを常に言われています。外から見ても非常に活力のあるクラブをつくっていくことが、遠回りのようですが、退会の防止、あるいは新会員の増加につながるのではないかなと、私は考えるわけでございます。

広報に関しましては、特に吉川ガバナーも指摘されるハイテク技術の進化、これに遅れないように、クラブ同士のネットワークも含めて進めてまいらなければならないと思っております。また、それが事務の合理化につながればいいなと考えております。

規定情報につきましては、皆さんも既にお持ちだと思いますが、「ご存じですか」という青色の98年度版が新しく出ておりますので、クラブで十分ご活用願います。2001年は規定審議会の年になりますが、これはもう既に21世紀に入っているわけですから、新しいニーズに向けて新しいアイデアを提案するように準備をしようと考えております。

親睦活動はロータリーの基本の一つでして、非常に大切なことです。会員同士は当然のことですが、さらに、奥様なりご家族も含めた親睦が大事になってくるんじゃないかなと思っております。

職業奉仕でありますけれども、私は、現在のようないやいやこしい時期こそ、職業倫理が光ってくるんじゃないかなと思っております。ロータリーの基本的発想の一つであるボケーショナル・サービスを常に基本的な理念として、各クラブの活動の面で会員一人一人に自覚していただきたいところがございます。

社会奉仕部門ですが、地域社会のニーズの変化をそれぞれの地域でキャッチし、奉仕の輪を広げていただきたいと思います。中でも、特に環境保全の問題については、これから21世紀に向けて継続的に様々な問題が出てくるでしょう。われわれの地球は、宇宙から見ますとたいへん小さい。小さいけれども美しい地球です。これを汚さないようにしなければならない。われわれが日常生活の中で意識を変えていくことによって、大きな道が開けてくるんじゃないかな、と思えます。

国際奉仕部門であります。世界社会奉仕（WCS）におきましては、人道的援助を中心に相当な実績を上げていただいています。これもフォローアップができる仕組みなり、体制なりが大事なのであり、ロータリー財団とのプログラム利用、といった面も大いに研究する必要があるのではと思っております。各クラブからは一人当たり5000円以上の支出が必要だということでございます。

青少年交換委員会ですが、21世紀を担う健全な若者をぜひ育てていただくようご奉仕をいただきたいと思っております。特に私は自分と重ねて願うわけですが、若い人は自国語以外に必ず英語ぐらいはきちっとマスターできていないと、これからは世界に通用しないんじゃないかなと思いますので、青少年交換では語学力をマスターできるようなご指導をこれまで以上にいただきたいと思います。

国際交流平和委員会においては、今年の国際大会はシンガポールで、6時間ほど飛ばば着く近さです

から、一人でも多くご参加いただきたいと思います。平和問題について、大いに論議を交わしてください。

ロータリー財団部門ですが、私自身よく理解していない面もたくさんありますし、皆さんも非常に複雑に感じておられると思いますので、11月のいわゆる財団月間にセミナーを開催させていただこうと思っています。吉川ガバナーや諮問委員会にもご相談申し上げ、菅生パストガバナーにご了解を得まして、徹底的にこのロータリー財団について勉強会をしようということを提案しております。この勉強会には、皆さんもぜひご参加をいただきたいと思います。

米山奨学部門ですが、これも日本独特の組織で、たいへん大きな成果をあげておられるわけです。特にロータリーのない中国からもたくさん勉強に來られております。幸い、大阪のわれわれの地区では、大阪大学がございますので、いろいろご厄介をかけております。また、教育問題あるいはまた米山の問題は、京都のアジア大会でもちゃんとご報告をされておりましたので、そのことも申し添えておきたいと思えます。

拡大部門ですが、新しいクラブが結成されることはたいへんな努力が必要だと存じております。今年度も、ガバナー任務の一つとして新しいクラブが誕生することを期待しているところでございます。

特別奉仕部門へまいります。これこそ今年のテーマに沿った、長期的に構えた奉仕となっております。

国際大会特別奉仕部門については、2004年の国際大会を成功させるためにも、2660地区としての役割等をこれから十分担っていく気持ちを高めていかなければなりません。このあと古田パストガバナーよりご報告をいただけることになっておりますので、よくお聞きいただきたいと存じます。

交通問題特別委員会ですが、この地域の今期の連合地区大会でも決議をされており、交通問題は今年で3年目になるわけでございます。「石の上にも3年」ということで、むしろ具体的な提案をして

まいます。後ほど廣瀬パストガバナーより、この件につきましてもアピールをしていただくことになっているわけでございます。

教育問題特別委員会ですが、戦後半世紀を経た今日こそ、基本的な問題を深く、時間をかけて、あらゆる角度から論議をしていただきたいと思っているわけであります。すなわち家庭におけるしつけの問題であるとか、社会に対するマナーの問題であるとか、そういうことを含め、専門的立場からご検討いただきたいと思っております。これらは過日の京都におけるアジア大会でも大きく取り上げられた問題でございます。

さて、最後になりましたが、当地区の地区大会を、来年2000年の5月12～13日に予定しております。年に一度、地区内の83クラブのロータリアンが一堂に会し、その年度を振り返り、評価すべきは評価、反省すべきは反省し、次年度に期待と展望をもって臨むといった地区大会です。今回は、新装になりました大阪府国際会議場が来年の4月にオープンしますので、そこをお借りしてイベントを開催したいと思っております。時節柄、あまり派手なことはできませんが、RI会長代理もお見えになりますし、今世紀最後の地区大会ですので、それにふさわしい催しにしたいと考えております。皆様にも、年に一度の地区大会の意義を噛みしめていただくと同時に、ぜひとも盛り上げていただくようお願いします。

最後に、4つのテストを復唱して、報告を終わりたいと思います。

言動はこれに照らして、

1. 真実かどうか、
 2. みんなに公平か、
 3. 好意と友情が深まるか、
 4. みんなのためになるかどうか。
- ありがとうございました。(拍手)

出席報告

登録委員長 **豊島 了雄** (豊中)



本日の出席報告をさせていただきます。国際ロータリー第2660地区、83ロータリークラブから代理者を含め664名。ガバナーをはじめパストガバナー、討論サブリーダー並びに本日のホストクラブ会員、次期地区幹事はあわせまして79名。総数743名の出席をいただいております。以上です。(拍手)

交通問題について

交通問題特別委員会アドバイザー
パストガバナー 廣瀬勘一郎 (大阪西南)



交通問題による莫大な損害

一昨年近藤パストガバナーによって、第2660地区に交通問題特別委員会が創設されたこと。そして地区大会において『交通事故防止運動を積極的に推進する』決議案が採択されたことは皆さんご承知の通りです。

そもそも交通問題と一口に言ってもじつに広範にわたる諸問題を抱えておりまして、その重要性は世界的にもますます深刻さを加えています。日本を含めて毎年発生する交通事故死者の数は、合計して広島・長崎のそれより多く年々増える一方です。日本においても、年間の人的・物的その他の損害額は4兆3千億の巨額に達し、そのうち人的損害だけでも2兆円にのぼります。また排気ガス等による環境汚染問題、都市交通問題、とりわけ交通渋滞は年間総時間にして53億時間にもおよび、その経済的損失は12兆円となっております。これは国民経済的問題のみならず被害者の肉体的・精神的苦痛はもちろんのこと、警察や裁判での事故処理等における不備等を数えあげればわが国の社会的有形無形の損害は計り知れないものがあります。

事故防止への取り組み

そうした深刻にして広範な諸問題をすべてロータリーで取り組むことは至難の事業であります。テーマを人的問題すなわち『交通事故をいかに事前に防ぐか』という点に焦点を絞って取り組むことに決めました。さっそく大阪府警、地区の各警察署、交通安全協会、大阪商工会議所、都市交通問題調査会や学識経験者等とタイアップし、各方

面からのニーズや情報を頂き、地区内会合には講師としてスピーチやご指導を賜りながら、試行錯誤を繰り返してまいりました。近藤ガバナー、吉川ガバナー、大森担当パストガバナー、特別委員会委員長をはじめ各委員、そして各ロータリークラブにおいても、それぞれ御尽力たまわりましたことをこの機会に厚く感謝申し上げます。

また、当地区内の活動に加えて当地区以外に対しても交通事故防止運動への取り組みの働きかけを行い、第2640地区、第2650地区、第2680地区、第2690地区、第2670地区の各地区においても決議採択されました。また本年3月の4地区連合地区大会でも改めて『交通事故防止運動への積極的取り組み』が決議されています。

本当の「平和」をめざして

今や世界は人類の幸福のために『世界の平和と安全』を、国連をはじめ世界各国も高く掲げて、その達成のためにあらゆる努力を尽くしております。R1においても国際奉仕部門が積極的に取り組んでいます。

そのような努力にも拘らず、世界の各地では未だに戦争の災禍は止まるところを知りません。

ところで日本は果たして文字通りの平和で安全な国だと言えるのでしょうか。カンボジアやいくつかの国では、対人地雷の撲滅のために巨額の撤去費を供出しています。他国との流血の悲劇は戦後おさまっていますが、同じように日本列島の上でも、車という走る凶器によって、年間1万人の死者、100万人の重軽傷者が出ております。犠牲になった人は50万人を超え、重軽傷者に至っては5000万人

にのぼります。交通戦争による被害は、広島・長崎の比ではありません。しかもある日突然何の予告もなしに悲惨な地獄に突き落とされているのです。今、こうしている間にも、40秒に1件の事故が発生し、1.3人が重軽傷を負い、57分に1人の貴重な人命が失われています。これで果たして日本は真の平和国家だと言えるのでしょうか。

日本人は、水と安全は『ただ』同然のように手に入ると錯覚を起しがちですが、安全は、日本人同士のたえざる努力と協力によってのみ確保でき、保持できるものである事を自覚せねばなりません。

『安全』というものは決して自分だけが保証されていて、危険は他人がみんな被るものではありません。交通事故に限らず一般の事故でも、いつ何時自分に襲いかかってくるかも知れない性質のものであります。その意味では、交通事故防止活動は他の奉仕活動と違って、世のため人のためのみならず、自分自身のためにも役立つ大切な奉仕活動であることを十分にご認識いただきたいのです。この運動の輪を広げることにより、一人でも二人でも不幸な被害者をなくし、国際ロータリーにおいて最高の目的の一つとされている人権主義、人道主義の実践に結び付けることが最も有意義な奉仕であると確信するものであります。

運動は半永久的に

当交通問題特別委員会は、何十年もの歴史と伝統のある他の奉仕部門に較べればまだまだ未完成の面があります。ですから地区委員会、各クラブにおいても積極的にご支援、ご協力のほどお願い申し上げます。

その意味で各奉仕部門においても、たとえば職業奉仕部門はロータリアンの職場で、事業所では従業員に、青少年奉仕部門ではローターアクトとインターアクトとが力を合わせて幼児や少年等に交通マナーの教育をしなければなりません。社会奉仕部門においては、最も被害者の多い高齢者への指導を実施し、国際奉仕部門・ロータリー財団・米山記念奨学会等との接点も設けて頂き、ク

ラブ奉仕部門からはマスコミ等への積極的支援をお願いしたいと思います。そして当特別委員会と総合的・横断的に交通事故防止のキャンペーンを張り、ロータリーを挙げて必要な交通問題に、車社会が存続する限り半永久的に取り組んでいただく事を、特に切望するしだいであります。

終りに、次年度第三年目を迎えるに当たり、我々ロータリアンとしてはまず『隗より始めよ』であると思います。その意味でこの大奉仕活動を展開する前に、我々の基本姿勢として『我々ロータリアンは自ら交通ルールを厳守しよう』と誓い、これを合い言葉として運転免許証の有無にかかわらず、全ロータリアンが次年度柏木ガバナーのもと、率先して日常生活・職場生活の身近かな中で実践していこうではありませんか。

来る2004年の国際大会について

国際大会特別委員会委員長

パストガバナー 古田 敬三 (大阪)

RIの国際大会は、1910年第1回目開催以後一度も欠かすことなく、今日まで世界各地で開催されています。その間1961年と1978年の二回は、日本の東京で開催されており、いずれも大変な成功を収めています。特に1978年の国際大会登録者数は39,834人にもものぼり、この記録は今日まで一度も破られたことはありません。

このたび2004年の国際大会を日本の京阪神4地区(2660、2640、2650、2680)連合で、関西において開催することの招請が承認されました。これは日本のロータリアン諸先輩の努力実績と、4地区ロータリアン各位の熱意が国際ロータリー役員の皆さんに通じたからにはほかなりません。

大会開催期日は2004年5月23日(日)から26日(水)までの4日間です。参加人員は、外国のロータリアン並びに家族2万人、日本のロータリアン並びに家族3万人、合計5万人と推定されます。「開会式」は5万人の収容力を持つ大阪ドームで行い、「本会議」並びに「親善の家」は大阪南港の「インテックス大阪」で行うことが内定しました。「国際青少年交換」その他の諸会議は、大阪・京都・神戸各都市の諸会場で開催されることがRIの理事会で決定されるでしょう。

今後のRI大会開催地としては1999年度「シンガポール」、2000年度アルゼンチンの「ブエノスアイレス」、2001年度アメリカの「サンアントニオ」と、ここまでは決定公表されています。2002年及び2003年の開催地が未だ公表されていないにもかかわらず、2004年の開催地「大阪」が先に決定された事は、京都RC千宗室氏(元RI理事)を委員長とする日本の「2004年RI国際大会準備委員会」と、



京阪神4地区ロータリアン皆様の熱意がRI本部に通じたものです。私も準備委員の一人として関係の皆様へ深く感謝いたします。

RI国際大会のリハーサルとして開催された4地区連合地区大会も、RIレイシー会長の出席と連合4地区皆様のご協力により無事終了しました。しかし本番の準備はこれからです。今後もガバナー会をはじめ日本全国のロータリアンからの物心両面にご援助・ご協力を頂かねばなりません。またわた準備のための諸委員会組織には4地区の皆様から役員あるいは委員として多大のご協力を頂かねばなりません。皆様方のご協力による2004年の当地における国際大会の成功が世界平和へ前進する日本の姿として世界中の人々に通ずることができるよう心から願うものであります。

会長部門

討論リーダー インカミングガバナー **柏木 尚** (豊中)
 サブリーダー **青木 禎一郎** (豊中)
 サブリーダー **勝本 保** (豊中)



2006地区の特色とカルロ・ラビッツの言葉

柏木 2660地区は3つの特色がある地区だと思います。十数名のバスターガバナーがたいへん立派な方で、いろいろお教えいただいて、私たちはたいへん幸せです。2つ目は片道2時間あれば83クラブほとんどを回れるという地区も少ないんじゃないでしょうか。3番目は次のガバナー、エレクトにすぐになれるのですが、大阪北の土井正裕さんという、「歩く手続き要覧」のような規定に詳しい方がいらっしゃいます。日本に34の地区、世界には528の地区がありますが、この3つが2660地区のたいへん大きな特色ではないかと思います。

私はノミニーになり、アナハイムでの協議会に行きました。大会のシンボルマークは、カルロ・ラビッツのデザインです。2000と真ん中に□が4つあり、そこから矢印が八方に散って、エネルギーを放出しています。4つの□は、4つのテストがその□だと。そこへ2000ですから2-0-0-0と入れればマークになっているとのことでした。

2005年はロータリーの百年祭、カルロ・ラビッツは「変化とはロータリーの本質で、革新的変化が新しい世紀には必要になるだろう。人々のニーズは劇的な変化をし、時代の変化にふさわしいロータリーを作らねば」と彼は盛んに言っていました。

また、会員増強について、「草の根レベルのクラブとエバーストーンの本部の指導者の間に考えの差があることは悲劇だ。R Iが headquarter になってはいけないのでは」と。私も同感です。クラブあつての地区であり、地区あつてのクラブであ

るという関係が大切ではないかと思います。

現在、世界に2万9000クラブありますが、そのうちの9248クラブの会員数が25名未満、400クラブは会員数9名未満だそうです。「そういうクラブが地域社会においてR Iを代表できるんだろうか。こうしたクラブに平均5名の会員を入会させられれば4万5000人の増員になる」と言っています。また、「ロータリアンを分析すると100の場合に30%は奉仕に熱心な会員であると思う」と。70%の会員が本当に熱心なロータリアンに変われば、どんなことがなし遂げられるだろうかという意味なのでしょう。

会員増強のところでは「他の奉仕団体も会員の減少を見た。それはいまの時代が悪いからだ」と言っています。それも一因ですが、われわれ自身が振り返って、集まっているクラブが本当にロータリーとしての役目を果たしているのだろうかと考えてほしいと。

カルロがR I会長ノミニーになったときに、グレン・キンロスさんがR I会長で、「会長が、会長エレクトだったレイシーさんと重要な意思決定をするときに、ノミニーだった私を参加させてくれたのは歴史的なことで、いままでになかった」と。だからいまのレイシー会長、それから次のカルロ会長エレクトの3人で相談して決めてきたそうです。そして会長職関連の従事期間を3年にするようR I会長指名日程を変えることを提案しているそうで「トップ3人のロータリーの指導者の継続性が組織について最も安定感を与えていると思う」と言っています。

地区予算について

勝本 ここ数年厳しい経済環境のなかで、これまでの地区の財務委員会および地区の委員長をはじめとして、お金を使うのはできるだけ少なくという方針のもとに、収支の均衡を保つように作成されてきました。1999～2000年度は、前年度からの会員数の減少傾向を反映して、予算規模は前年より若干減額する状況にあります。

予算としてはほんの0.5%、50万程度ですが、前々年度の繰越金の計上が1400万円で、例年に比べて400～500万多かったんです。一つの原因は、前々年度に特別会計の整理という形を取りまして、その余剰金は一般会計のほうに回し、繰越金が多かった。その影響でほとんど予算規模が変わらなかったのでしょう。こういう経緯や現状を考慮し、ガバナーの方針を踏まえて次のような予算編成をしています。

一般会計の基本方針として、地区の会員数を前年度と同じ5300名で予定しています。あとは予算総額が9850万円、前年比で50万ほど減額ですが、これに対してガバナー事務所の経費とか会議費、『ガバナー月信』印刷等の経費を少しでも削減して地区委員会活動のほうに振り向けるということで、地区委員会活動は前年度対比で5%程度上回っております。前年度の地区委員会活動費の予算が2600万円、今年度は2750万円になっています。

収入の部については、5300名の会員に対して、各クラブへの還付金が一人当たり1万5000円ということで、前年度、前々年度と同様据え置きとしております。

支出については、収入に見合った予算を編成しないとだめだということで、各部門の委員長をはじめ、責任者の方に協力をお願いしました。委員会活動費については、2750万円という総額がありますが、これは基本的には各委員会からの活動計画および予算要求額と過去数年間の実績に配慮した予算組みとしています。

その中で、インターネットの問題が出ています。2660地区の1998～1999年度の先般の地区大会の決

議第3号でも、インターネット利用によるロータリーの高度情報化の推進ということが決議されています。これに対応するため、広報雑誌委員会の予算の中にわずかですが組み入れております。広報雑誌委員会の予算の総額で見た場合、前年度の50万円に対して今年度は140万円。この差額が全部インターネットにいくとは限りませんが、可能な限り予算を計上するということです。

1) クラブ事業助成金

勝本 特別奉仕部門については従来の方針を引き継いで、交通問題、教育問題等の予算を計上しています。

クラブ事業助成金は、クラブ独自の主体的活動を支援するために前年度から設けられたもので、今年度も継承するというので、前年度の予算100万円より多い150万円が計上されています。総枠が100万円しかないものですが、少しでも増やしたいというガバナーの方針もあったためです。

2) 会議費・印刷費について

勝本 会議費については2.5～3%程度減額しております。これまでの実績を配慮して可能な限り費用の削減に努めております。3%というと金額にすると20万円程度で、大したことはないのですが。要は委員会活動費以外で、私どもが直接関与している部分で削れるものはたとえ10万でも5万でも削って、他にまわそうということです。

『ガバナー月信』印刷費としては、これはガバナーの方針として従来どおり各クラブの会長幹事に配付することを基本にして予算を計上しております。今年度も希望者には有料で配付します。会長エレクトさまにはホームクラブに帰られたら、ぜひ有料で購入してください。これは前年度の予算が750万円、今年度は700万。7%の減額になっていますので、ぜひご協力のほどをお願いします。

3) 事務所経費

勝本 ガバナー事務所経費としては、前年度650万、今年度630万で、3%減額しています。この経費の中で、これまで構築したコンピューターシステムの維持費を計上しています。これまでは開発費と

して多額の予算を計上しましたが、一応開発が終わり、それを維持管理しておく部分に予算を計上しています。

次年度ガバナーノミニーマニース事務所の資金手当てということで、これは、今年度も継続して500万円計上しております。

4) 特別会計

勝本 地区特別会計については、国際ロータリーの手続き要覧で、一般会計と同様、本日の協議会の皆さんの会長部門で承認をいただくということになっておりますので、ここで説明させていただきます。

特別会計の一つは青少年交換ファンドで、地区クラブ会員数の人頭割り、一人当たり年額2000円で予算組みをしています。これは前々年度、前年度も同額で2000円です。いろいろなご意見もあるようですが、時節柄2000円ということをお願いしております。

5) 世界社会奉仕委員会

勝本 世界社会奉仕委員会としてはクラブの拠出金70万円で予算組みをしています。これはクラブ独自で活動をする場合にはそれを使いますが、しないときにはここへ出していただくという形になります。

6) 米山奨学生活動費

勝本 米山奨学生活動費としては、米山奨学会補助金を主体とした予算組みをしています。米山の寄附金とは別の問題で、寄附金は本部のほうに行きますが、これは逆に向こうから返ってくる補助金を主体にした予算組みということでもあります。

クラブ訪問について

柏木 私より立派な方がたくさんいる中で、ガバナーという肩書で皆さん方のクラブを訪問するのは気が重いものですが、地区委員のご意見を聞いたりするのが仕事ですから、次々訪問させていただきたいと思っています。

この前もあるクラブの周年記念に行きましたら、捨てられた犬を拾ってきて訓練し、聴導犬にする

ということを聞きました。私はそういったものを十分お聞きして帰り、本部への報告書に載せたいので、よろしくお願いいたします。

IMについて

柏木 これは8組に分かれてやっていただきますが、ゼネラルリーダーが、誰を呼んでどんなことをテーマにしようかとお考えいただくわけです。IMはかなり独特な企画が出ていて、それでいいと思うんです。IMは8つなり10とクラブが寄って地区をつくっているの、早く委員会を開いて、内容について地区同士で話し合ってほしいんですよ。その話し合いや連携で、地区の特色が出てきて、非常に大きな産物が生まれるのですから。当然のことながらゼネラルリーダーとはご相談いただくわけですが、そういった雰囲気を作っていただけたらと思っています。

アンケートについて

柏木 たいへんおもしろい文章がありましたのでご紹介します。「“奉仕は、熟年のごとき深慮で、そして壮年のごとき実行力で、青年のごとき熱情で”、我がクラブは今年はこれでいこうと思う」。それから、僕は「素地」という言葉が好きです。お年を召した会長さんからかもしれませんが、「21世紀に向けてロータリーの素地をつくる年にしたい」というアンケートもありました。例会について「質素で品のある例会にしたい」と。皆さんにご賛同いただきたいと思います。

21世紀には助け合い、励まし合いの時代がやってくると思います。各クラブ内でも連帯意識を持っていたいただけたらと、アンケートを見ながら思いました。

2000年地区大会の会場

柏木 2000年5月13日の会場は、府立の国際会議場をもう既に予約しています。ここは4月1日がこけら落としで、新しい雰囲気で行えるのではないかと思います。

私としては、日本の古来の芸能にスポットを当ててみたらどうだろうかと考えています。我が国の歴史や伝統を深めたり、造詣の深い人たちをお迎えして、そういった催しものができたらと考えております。

地区大会の全員登録のお願い

柏木 たいへん申しにくいことですが、今年も前期・後期、3500円ずつ、年間7000円のご負担いただき、全員登録ということで、地区の大会の催しにもってまいりたいと思います。来年は2000年になりますので、今世紀最後の地区大会。きょう、ご決議をいただければ幸せです。よろしく願い申し上げます。

若林 (大阪東) 地区大会の全員登録の趣旨は、20世紀の最後の地区大会に、みな挙げて成功させようということですか。

柏木 それに、1年間、みな営々として各クラブが企画を立ててやってきたので、そういうものを総括し、みんなで成果を讃え合ったり、反省するところは反省しましょうという大会にしたいということも含めています。

若林 (大阪東) 近藤ガバナーのときの全員登録の理由は、地区大会等に関しては、どちらかというと一般会員の自主的参加の運営でもってやると。ただし、一部の会員の負担があまりにも高くなるので、できるだけ参加しておられる方の費用を低減したい。もう一つは全員登録することによって、登録者数が増えるだろうという趣旨のご説明がありました。来年のガバナーのお話については、地区大会そのものは会員さん皆さん方の一種の、お祭的な趣旨があり、総括や反省するといった色彩は、本来はあまり強くないのでは。

だから地区大会そのものが、近年、どちらかというと参加者の意欲を増さないような状況になっているのではと思います。現実には全員登録されたけれども、この4地区合同大会のときに各クラブに対して動員のご要請があったということは、どういう現象なのか。こういうことを私は質問させ

ていただきましたかったです。

柏木 わかりました。私は、だから「お願い」という言葉で申し上げておりますが、基本的には地区大会というのは、実際は自主参加が基本です。これは間違いありません。したがって、私はお願いとして、少なくとも2660地区は、2時間で全部行ける地区のクラブの方が83集まっているわけですから、できれば年に1回ぐらいは全員集まる、という気持ちだけは持っていただきたい。

もし、自主的に行く者だけ払うことになれば、一人当たりの金額も大変なことになりますし、イベントと皆さんとの関係が小さくしぼんでしまう恐れもあります。できたら全員登録で、3500円2回を地区大会としてご拠出していただけないだろうかとお願いを申し上げているのです。細則の15の60-1、2で、この場で4分の3以上の賛成がないといけないので賛成いただけたらなと思いますが、もう少しご意見を頂戴できませんでしょうか。

青木 私のほうに、この地区大会、次年度のことでいろいろ進めていけというご指示をいただいております。昨年の予算は、ご存じのとおり、4地区合同の分でしたので、これはどうすることもできません。実は近藤パストガバナーのときの予算を全てこちらに拾いあげました。過日からいろいろ、大会の会場によってどんな差額があるかということ、いろいろ検討しております。

いま、前期・後期に3500円ということでしたら7000円、近藤さんのときは8000円だったと思います。一人当たり700円の余剰金、一人当たり700円、クラブにお返しになったことが記録にあります。ちょうど幹事をやっていたので。

財務委員長は当2660地区は5300人のメンバー数の予算を組んでいますが、私と財務委員長でこの予算をつくる時に本当にもめました。私は大体5100名ぐらいになるのところがうんかということで。しかし、インカミングガバナーは5300人で組んでみろということでした。5100名、5000名ぐらいになるかもしれません。それについては増強もしな

ければいけない、拡大もしなければいけない、という非常に大きな使命があります。大体5000名ぐらいなら、近藤さんがガバナーのときの予算と同じくらいではないかと思うのですが、本当に五里霧中です。やはりインカミングガバナーがおっしゃる粗相のないような、また「しまった！」という後悔がないような、それなりの地区大会にもっていきたく私も考えております。

全員登録については非常に問題があるかと思いますが、一人当たり7000円、3500円×2ということで、ひとつご協力をお願いしたいと思います。

柏木 ついでに申し上げますけれども、大会の本質は、先ほど、大阪東の方が言われましたように、自主参加です。しかし、皆さんに全員登録をお願いして、何とかやりたいと思っています。したがって、実は金額の問題ではなしに、大会そのものについて、いま、論議が出ているようですので、もし他の方でご意見がありましたらうかがいます。

私の説明の仕方自体が、全員が参加することに意義があると、逆に言うと全員が参加すべきであるというふうにとられたと思いますが、実際、私も勉強してきますと、やはり地区大会の基本は「自主参加だ」ということだけは間違いありません。そのことを申し上げて、今回、ひとつ全員登録という形をとらせていただきたい。そういうことでご理解いただけたらと思います。

メイクアップについて

質問 メイクアップのことでお尋ねしたいのですが、皆さん、もうご経験がおありだろうと思いますが、よくメイクアップに行きますと、卓話の時間になりますと、潮が引いたようにメイクアップの方が席を立ってタツと出ていかれるということ、私もよく目の当たりにします。

あるいはクラブによると、かねてからそういう覚悟で行っておりますが「これからクラブ内部の話し合いがあるので、よろしければお引き取りください」というふうな……1時ちょうどですよ。だから60%ということになれば、大体1時10分ぐ

らいまででしょう？ そういう、なんか矛盾がまかり通っていると。それはまだいいのですが、たとえばお願いした卓話の方が壇上に立って、いままさにしゃべらんとするときに、潮を引いたようにみんなが席を離れてしまう。これが社会の模範とは言いませんが、模範たるロータリアンの姿勢かなという矛盾を、私は感じるんです。規則は厳しくても実施は緩やかにという常識は、私も心得ないわけではないのですが、そのへんは次期ガバナーさんはどのようにお考えでしょうか。

柏木 これは、特に外部へ頼んでいる卓話者なんかもお見えですので、例会に出た以上はその例会が終わるまではおるというのが、やはり原則です。多少用事のあるときには、それなりに断って、こういうことで帰りますとか。クラブのほうで、後はクラブ内部でやりとりしますので、という言葉をしちんと申し上げてご退席いただくということはあってはいいとは思いますが、原則はやはり1時間つぶして行くんだということで来ていただいておりますので。

僕も、ときどきメイクアップするんですが。よそのクラブへ行くと、そのクラブの匂いというか、特色がありまして、面白い卓話を聞くときがあるんです。それも楽しみにして行っていただくようにして、原則は、私としては、メイクアップさせていただくについてはビジター料を払って、最後の点鐘まで緊張して聞いていただけたらなと思います。その方針でいきたいと思いますので、よろしくご協力をお願いしたいと思います。

全員登録の承認

柏木 ご意見がないようですので、先ほど大阪東から出ました意見、私も十分お聞きしましたが、4分の3以上の方のご賛成が必要なので、この私の提案に対しまして、もし賛成しかねるとおっしゃる方は挙手をいただいて、その数を勘定したいと思います。よろしゅうございますでしょうか。

それでは全員登録、金額も含めて、ご賛成しかねる方は挙手をお願いします。

(賛成の挙手、4分の3以上)

わかりました。4分の3以上の賛成がござい
ますので、いろいろなことがありますけれども、ひ
とつご賛同いただいたということになりました。
ご協力なり suggestion なり、いろいろな面、われ
われのほうにご意見を頂戴しながら立派なものに
仕上げていきたいと思っておりますので、よろしくお願
いいたします。 ありがとうございます。(拍手)

青木 ただいま予算案、そして地区大会の全員登
録、皆さん方の非常なご理解の上で成立したとい
うことを、心からお礼申し上げます。ありがとう
ございました。

連絡・変更届について

勝本 新会員、退会者、職業分類、住所等の変更
届けや、事務所、例会場、例会日、会長・幹事の
変更について、ロータリー財団への寄付について、
それから『ロータリーの友』代金送金について申
し上げます。そして最後にガバナー事務所になる
べくファクシミリでご質問なりご連絡をお願いし
たいと思います。

電話は、やっている仕事が途中で切れてしまう
ため、事務局のほうは非常に困っているような状
態でございます。

大阪東さんがおっしゃっていることも十分わかっ
ております。それをよくわかりながら、あえてお
願い申し上げます。

何分とも次年度1年間、よろしくご指導、また
ご協力をいただきまして、柏木尚ガバナーの“第
2660地区丸”が無事に6月30日まで航海できます
ように、皆さん方のご協力をお願いします。これ
をもちまして会長部門の討論会を終わらせていた
だきたいと思っております。

幹事部門

討論リーダー パストガバナー 熊澤 忠躬 (守 口)

サブリーダー 津江 孝夫 (大阪南)

サブリーダー 岡村 晃明 (守 口)



ロータリアンとしての基本的情熱

熊澤 只今より幹事部門協議会を開始します。83人全員出席で安心しました。実は、この協議会は次年度クラブ運営で最も重要な会ですので、一人でも欠席があれば、他日その方に来ていただいてマンツーマンで話し合いをしようと考えていました。

昼食後、気候も暖かく睡魔が襲ってくるかもしれませんが、約2時間お付き合いをお願いします。

私はただいまご紹介いただきました95-96年度パストガバナーの討論リーダーの熊澤で、津江サブリーダーとともに今回で3回目のお務めです。岡村サブリーダーは守口RCの現幹事で、新しい豊富な経験を明快に説明していただきます。新庄、松坂のように、ルーキーの登場です。

“各クラブの問題点”について皆様へのアンケート、熱心にお答え下さりましてありがとうございます。中には白紙、または特になしの回答が4通ありました。さぞ立派なクラブだと思いますので、特別に発言して教えてもらいましょう。

全体的に見て、例年にはない特異な点が目立ちます。

それは経済不況下で会員増強どころか、退会が続出している、例会の欠席者も多い。中には厳しい経済環境の中でクラブ運営の資金は低下し、自分の企業を守るのが精一杯で、それ以外の奉仕活動をする余裕がない、というような悲愴なムードが漂っていることです。

そこで本日は特別に、この機会において、まず第一にもう一度「ロータリアンとは何か？」を再考

してみたいと思います。

まずロータリーは営利事業ではないことを理解してください。この点を誤解するととんでもないことになります。

それからロータリーの正会員の資格条件は善良な成人で、職業を通して評判の良い人であるのが基本です。つまり皆様はその条件のかなった人達から選ばれたエリートであることを自覚していただきたいのです。ちょうどプロ野球の二軍選手となって、これを育ててエースにするのがロータリークラブの責任であります。

ロータリークラブに入り、よき友人、よきリーダーを得て、その美しい雰囲気の中で、自己の道德的水準を高め、少しでも社会に貢献しようという高い志を抱いた人がロータリアンです。ホームラン打者でなくてもよい、チームに貢献してクラブをよくする心構えが要求されるわけです。

この基本的情熱を失ったら、もうロータリアンである必要はないので退会して貰って結構です。悪貨は良貨を駆逐することになります。

幹事はクラブ運営の要

折角のロータリアンを失望させないのがクラブ運営の努力であり、その要（カナメ）をなすのが幹事なのです。脱会者が多く、入会者が少なければ、それこそ幹事の責任です。

ですから幹事はクラブの中で最もルールを理解し、しかも人を攻撃しない寛容の気持のある人、心くばりのできる人、手っ取り早く言えば、クラブの中でもっとも仕事ができ、仲間に好かれた人

物と評価された人なのです。

この意味で、本日は皆さまにおめでとうという賛辞を贈りたいと思います。実際に皆さまに接してお顔を拝見しているだけでもうれしくなって参ります。

もちろんクラブのロータリアンにとって一番大切で偉い人はRI会長でも事務総長でもなく、各ロータリークラブの会長であることを忘れてはなりません。どんなボスのパスト会長がいても、どんな強引な委員長がいても、現会長の方が偉く、その意見は最も尊重されねばなりません。ただし、この一年限りです。これがロータリーの他の組織に類を見ない良い制度です。この会長に最高のリーダーシップを発揮させるのが幹事の仕事であることを銘記すべきです。もし悪評があれば幹事が表面に出て処理すべきです。意見調整は会長と二人でやって、自分の意見と合わない場合でも、決して会長の悪口をいったり、会議の席、他人の前で会長にたてついたりしてはなりません。このためにも報告・連絡・相談（ほう・れん・そう）に徹する覚悟を、本日ここで誓ってください。

「Staff勤務の参考」を教典に

伊藤忠の重役になり、臨調で有名な瀬島龍三氏は、戦後11年のシベリヤ抑留より帰国し、昭和37年取締役の時「staff勤務の参考」という教典をつくり、それは今もって若手社員の教育に利用されています。

①Staffの本質は補佐である。「功あれば主体に、過ちあれば己に」の気概が必要である。

②Staffは周到であらねばならぬ。情報収集、周到綿密な判断、しかも秘密の保全、とくに人事については慎重。

③主体は多忙で重責を荷っているなので、重要業務に専任出来るように配慮する。

④積極的意見具申は誠意をもって行い、意見の強要があってはならない。

Staffを幹事に、主体を会長に置き換えると、この教典はロータリー社会にも通用するものです。

どうぞ人間修養と思ってこの教典を一年間実行してみてください。それは自分の職業においても活用できるもので、自己事業の発展につながるわけで、ロータリーは、自己職業への修練の場と理解できるわけです。

もう一つ重要な問題は、ロータリー運営サイドにあります。急激な社会情勢の変化に適応した方針の変更も考えねばならないと思います。一つフォーラムを設け、検討する必要があるでしょう。

クラブ奉仕部門

討論リーダー ガバナー **吉川 謹司** (東大阪東)
サブリーダー **多田 昭三** (大阪東南)
サブリーダー **新津 敬直** (大阪西)
サブリーダー **土井 正裕** (大阪北)
サブリーダー **大川進一郎** (大 東)



吉川 四大奉仕というものがありますが、そのなかで最も基盤をなすものがクラブ奉仕ではないだろうかと思います。

このクラブ奉仕の委員会によって、職業奉仕、社会奉仕など、いろいろな奉仕活動が活発に行われ、クラブはより活力を得ることができ、会員の方がクラブに魅力を感じることができます。それは会員の増強、もしくは退会防止にもつながっていくと思います。

私は昨年、83のクラブを公式訪問させていただきました。それぞれのクラブのご事情も承らせていただきました。そのなかで、情報の伝達のあり方や、会員の方々の奉仕活動に対するご参加の度合い、会員間の年齢の格差、クラブの歴史を踏まえての新しい奉仕活動のあり方など、いろいろなことをお聞きしてきました。そのあたりを踏まえながら、これからしばらくの間、サブリーダーの方々にお話を承ってまいりたいと思っております。

会員増強について

多田 新年度のR I会長カルロ・ラビッツァ会長が「21世紀においてロータリーが直面する最大の挑戦の1つは会員増強である」とアピールされています。2年前から世界的に会員数が減っています。危機感が非常にありましてR I会長も心配されています。

ご承知のとおり、会員が増えることは、資金が増えるわけですから非常にいいことですし、それから職業的才能の知識を持ち込んでいただけますから、これも非常に大きなプラスです。また、地域

に対する活性力、奉仕力も増えてまいります。ということで、会員をどうしても増やしていかなくはないという大きな使命があるわけです。

反面、このロータリーも約100年を超えているわけで、平均年齢がどんどん上がっています。当然、自然に人数が減っていくわけです。年齢とともに体力的な問題が起きることから、また会社を離れて職業的なことから、そしてまた会社そのものの存在や事情といったいろいろの問題から、大体10%ずつ退会していくとされています。しかし、そのうちの6割はどうしようもない。亡くなられた方呼び戻すわけにもいきません。しかし、4割は絶対にとめることができる、退会防止ができると言われております。

現在、アメリカは大体40万人のメンバーがいます。日本が13万人、イギリスが5万人、オーストラリアが4万人、フランスが3万5000人、イタリア、ドイツが同じく3万5000人ぐらい、カナダが3万。それがいずれも一昨年、去年と、若干ですが減少しています。アメリカで0.53%、日本で0.43%、イギリスで0.61%、オーストラリアが0.77%ということで、非常に困っているわけです。

ただし増えているところもあります。たとえば、ドイツ、カナダ、スウェーデン。なかでも台湾、韓国は非常に増えています。だからバランス的にはそんなにマイナスではないのですが、全体に危機感が漂っています。

当地区を見てみますと、過去5年から今年の3月までの人数の動きについて、平成7年9月の時点がピークで5659名。現在は、3月末現在で5300

名。当地区では 359 名が現実にマイナスになっているわけです。

女性会員は 1969 年の 12 月、119 名から始まりまして、現在 139 名になっています。女性会員は、毎年増えてきております。83 のロータリーがこの地区にあるわけですが、女性が入っておられるクラブは現在のところ約 3 分の 1、29 クラブです。

退会の特徴に新年度に入る前にやめるというのがあります。毎年、会員数に、6 月末から 7 月 1 日の間で約 60 名の差があります。

現在、3 月末現在で 5300 名ですが、本年度（98 年 7 月 1 日から）は 5292 名でスタートしております。だから数値的にはまだ 8 名プラスです。しかし、今年度、東大阪緑ロータリークラブが新しくできて、そのため 53 名増えたのです。これは既存ロータリーだけで考えると、45 名の減少ということになります。少しでも歯止めをかけるために、増強に向けて努力をしていただきたいと思います。

さる 2 月 6 日には地区セミナーを行って、本年度増強委員長の方々に出席していただき、会員増強と、退会防止についてバズセッションを行いました。「会員増強セミナー報告」という形で、皆さん方の意見を書いたものを各クラブへお送りしております。ぜひ、ご覧になって参考にしてください。

それから、今年はこういう経済情勢にありますので、無理に大きな数字の増強をするのではなく、少数でもいいからマイナスにならないようにしようと思います。そこで会員増強の目標を地区で純増 100 名とし、これをぜひお願いしたく思っています。

純増ですから、退会された人も計算に入れ、プラスマイナスで 100 名残らないといけないということです。『ガバナー月信』でご覧いただいたと思いますが、去年の 7 月から 3 月末までの間に 268 名の方が既に退会されているわけです。4 月から 6 月までにも退会される方が出ますから、少なくとも 400 名以上の方に入会していただかないと 100 名増えないだろうと思います。現在 83 ロータリーあり

ますから、少なくとも 1 クラブ当たり 5 名以上の増強をしていただきたい。

そして、先ほど言いましたように、退会防止をするためにはどうしたらいいかということをぜひお考えください。特に今年は、金融機関の支店長クラスで、本部の命令で退会がやむを得ないとおっしゃっておられる方々がいらっしゃるようです。けれども、私は逆だと思うんです。こういうときこそ、ロータリーには優秀な方がたくさんおられるんですから、逆にメンバーとしてコミュニケーションを十分されて、一人でもお得意先を獲得されれば金融機関はプラスになります。希望を持ってロータリーで活躍していただくよう、それぞれクラブの皆さん方によくお話していただければ有り難いと思います。

それから、新年度の活動方針ですが、8 月が会員増強拡大月間となっております。8 月 7 日に会員増強セミナーをまた行います。このときは会長と会員増強委員長のお二人に来ていただくような形になると思います。

8 月の会員増強月間には、皆さん方それぞれのクラブで、卓話と増強についてのフォーラムをぜひやっていただきたいと思います。卓話について、資料不足で自分たちだけでは難しいということでしたら、私のほうへ申し込んでください。卓話を 30 分、しゃべらせていただきます。2 月 5 日にも会員増強セミナーをやる予定にしております。

また、インターシティ・ミーティングの機会が 8 回あります。この席上にも増強委員会は出席して、その都度、会員の増強の状況を皆さん方に報告させていただくことになっております。新年度、皆さん方とともに増強ということについて頑張っていきたいと思いますので、ご協力のほどよろしくお願いしたいと思います。

広報について

新津 R I では、いままでは広報をしないような陰徳がモットーだという方針でやっておりました。しかし、最近は R I 本部から広報するようにとい

うお話ですし、また手続要覧でも、地区の有力な報道機関と提携して広報をやってほしいという方針になっております。ですので、本年度は私が全国紙の産経新聞と折衝いたしまして、1月初めには吉川ガバナーの「100人の主役」というメッセージを載せてもらいました。

ぜひ皆さまも、クラブで優れた奉仕事例がございましたら、お申し込みいただければと思います。早速、取材に来て載せてくれます。大阪西南の、ベトナムの小学校に関する活動の記事は東京の新聞にも載りました。

また、連合地区大会についても、始まる前に予告を載せてくれました。4地区のガバナーが市長に表敬訪問されたときも掲載してもらっています。いままで全国で新聞社がこれだけ提携してくれるのは初めてで、「ロータリーの友」の方々もびっくりされています。この内容を6月の「ロータリーの友」に掲載してもらう予定です。

それで、奉仕活動の事例がありましたら産経新聞の企画室の山田氏に申し込んでいただきたいと思います。連絡先の電話番号は06-6343-3571、ファクスは06-6341-3123です。朝の9時半ごろ電話しましたら担当の山田氏につながり、迅速に対応してもらえますので、ぜひ取材の申し込みをお願いいたします。

規定情報について

土井 ロータリーを変えるには規定の改正が必要ですが、その規定の改正を審議する規定審議会が2001年4月に開かれます。本年度は、その規定審議会に出席する地区の代表議員一名を、地区大会で選ぶ年度であります。また、規定審議会が審議する案件をR Iに提出する期限が、来年の年度末です。提案権を持っているのは各クラブ並びに地区大会、R Iの理事会、規定審議会そのものです。

1998年のニューデリーの規定審議会では、職業分類や会員の種類などに関連した大きな改正が提案されたのですが、R Iの定款を改正する3分の2の賛成が得られず、否決されました。ただ、次の

2001年の規定審議会では、この件をR I理事会が検討して再提案しようということになっています。それが、手続要覧に注1として書いてある点です。

それから手続要覧では職業奉仕部門の名称が「新世代のための部門」というふうになっています。次の世代の若い人たちを育てていかなければならないという認識から変わっているわけです。この部門をこれまでの4つに加えて5番目の奉仕部門として位置づけることが適切かどうか、R I理事会で検討して結論を出して、適切であれば規定審議会に提案されると思います。

また、クラブの区域限界、こういうものが必要だろうかという点についても疑問が投げかけられています。十分調査した上で、これを削除するのが適切であれば、そのような提案をしようという決議も成立しています。

いずれにせよ、ロータリーのあり方につきましては、一つの変革期にあると思います。それが2001年の規定審議会では形としてあらわれるのではないのでしょうか。

その次に手続要覧の改正事項です。1998年の手続要覧が改正されまして、今年の1月ごろに各クラブを通じてお手元に届いたかと思います。そのうち、特にクラブ活動に関係の深い事項を、7つほどとりまとめました。

まず1番目はクラブの出席競争です。各クラブごとに出席競争をすることをR Iは奨励すると、従来なっていたわけですが、それが削除されました。手続要覧の2ページ目に「R I理事会は100%出席を余りに奨励し過ぎることは会員候補者や新会員の意欲をそぐし、会員の退会につながりかねないと考えられるものである。クラブ指導者には、会員や会員候補者に次のことを強調するよう奨励する。まず規則正しい出席の価値とその意義……」とあります。知り合いを広めて親睦を深めるからこそその例会出席です。これは手続要覧のR Iの基本的性格というところに書かれています。そのことを正しく認識しようというわけです。「100%の出席を強調し過ぎることなく、できる限り、クラ

ブの全活動への全会員の積極的参加がクラブにとっても地域にとっても重要であるということ。このことも会員に強調してください」ともあります。

また手続要覧に「60%の出席規定」が書いてあります。つまり、例会に出席したと認められるためには、例会の時間、たとえば60分であればその60%である36分間はいないとだめだということを述べています。

これがよく問題を生じているんです。36分いればいいということは、それを過ぎれば中途退席してもかまわないとみなされかねません。実は、去年の地区大会では、中途退席を自粛する申し合わせがなされました。この60%出席規定を利用することは、本当にやむを得ない理由がなければ慎みましょうということです。

2番目は職業分類の解釈の拡大です。従来の手続要覧では職業分類の冒頭部分に「職業分類の原則を守ることは必要不可欠である」とありました。これを今回削除して「職業分類の原則を守ることは望ましいが、R I 理事会は各ロータリークラブ職業分類の慣行を注意深く考慮し、現代の事業及び専門職務慣行に合わせ、必要に応じて職業分類の解釈を拡大していくことに同意した」としました。

つまり、1業種から1人の正会員を選ぶという原則は動きませんが、1つの職業分類とは何かという解釈について、最近の慣行などに合わせ、必要に応じて解釈を拡大してもいいということです。現に職業の専門化が進んでおります。例えば医療の世界では、外科、内科と専門化、細分化しています。西宮に「西宮えびす」というクラブが去年の3月にできましたが、30数名の会員のうち約10名が医師です。これがR Iの方から認められているのが、一つ、象徴的なことだと思います。

3番目はロータリーの綱領についてです。綱領そのものは変わっておりませんが、綱領中の4項目の解説は等しく大きな意味を持つこと、また同時に行動を起こすべきものであるということで、R I 理事会の意見が一致しました。クラブ奉仕、

職業奉仕、社会奉仕、国際奉仕はすべて等しく大きな意味を持ち、一つの奉仕に重点を置くのは、本来、望ましいことではないということです。

4番目はクラブと地区の社会奉仕活動への参加です。R I 理事会がクラブに対して財政的貢献ばかりでなく、実際に汗を流すような社会奉仕プロジェクトを開始、推進することを奨励してほしいということであります。

5番目は「例会に訪れるロータリアンの配偶者などのゲストを歓迎することをクラブに奨励する」です。

6番目は「クラブにゲストの出席を認める裁量権があるが、このようなゲストの出席でクラブの奉仕活動が一般の人々に知られるようになるし、親睦も深まるし、新会員の入会につながることもある」ということです。

クラブによりましては、例会に夫婦同伴でゲストが来られた場合に配偶者をお断りするクラブもありますけれども、そういうことをせず、配偶者もゲストとして迎え入れるようにということです。

7番目は、R I のマークを使ったテレホンカードの製作というのはR I としては認めていないということです。

次に、今日ご出席の皆さま方に、アンケート調査を出させていただいた結果について、報告いたします。83クラブ中、75クラブの回答を頂戴いたしました。

質問の1は、ご覧いただいてそのとおりでございますが、質問の2はクラブ奉仕部門の委員会のなかの職業分類、会員増強、会員選考、ロータリー情報の各委員会に関するものです。何年か前に、会員増強に重点を置くためにクラブ奉仕委員長さんがこれらを所管するというのは大変だろうから、これを会長エレクトの方、あるいはまたクラブ奉仕委員長の副会長さんがおられるクラブならその方の所管にされるようにと、通知をしました。その後の当地区のクラブの実情を今回のアンケートで調べた状況です。

質問3は、1998年の規定審議会において、例会を欠席した場合にメーキャップになるケース、クラブの奉仕活動のプロジェクトのなかでクラブの理事会が承認したものをメーキャップと認めることになった件についてです。

ご回答いただいた75クラブのうち、理事会でそういった新しい奉仕プロジェクトは承認していない、従来どおり運営しているとお答えになられたところもあります。一番多い回数は14回でしたが、10回を超えるクラブは数クラブ程度で、どのクラブも比較的、慎重に運営しておられると感じました。

それから、クラブ協議会、クラブアッセンブリーについてです。吉川ガバナーからの通達では、アッセンブリーはクラブの役職にある人が役職上、必要のために出席する会合であるから、入会后何年か以内の新しい会員が出席されたときにそれをメーキャップとして認めるのはよいが、そうでなければメーキャップとして認めるのは適当ではないということでした。アンケートでは、アッセンブリーは「新会員に限定している」と「していない」の両方がありました。「限定している」クラブにつきましては、地区としては、ただいまご説明申し上げましたような考えでいるということをご了解いただきたいと思います。

また、会員懇親会や家族会をクラブの奉仕活動のプロジェクトとして認めることが妥当かどうかという問題があります。当地区の考え方は、プロジェクトという言葉はあくまでも外国の言葉でありまして、何がプロジェクトで何がプロジェクトでないかということは非常に判断しにくいということです。私は、これが規定審議会で通過いたしました趣旨から見て、認めてもいいのではないかと思います。と言いますのは、例会の出席の意義というのは、仲間と知り合いになり、親睦を深めるということ、そしてそれが奉仕活動へ結びついていくということです。出席できない場合に、例会で知り合いになり親睦を深めるのと同じ効果が、会員懇親会や家族会で期待できると思います。し

たがって私は、理事会が認めさえすればメーキャップにしてもいいと判断いたしまして、ガバナーにもそのような案を起案させていただいたわけです。

ただし、クラブの理事会で、あくまでも承認しないということであれば、勿論、それで一向に差し支えないわけです。

まだこういったことを質問するには早すぎたからかもしれませんが、次年度は「見直す」と回答したクラブが数クラブありました。

親睦活動について

大川 委員長になった時、最初に趣味別アンケート調査を皆さんの各クラブに取らせていただきました。それが今日でもいろいろ役に立っております。

まず始めたのはカラオケ大会です。今まで大阪北と南が対抗でやっていたらしいのですが、これを地区全体でやろうと思いました。今年で3回目になります。昨年は23クラブ、36名の参加。各クラブで予選をして、そこで勝った人が出場するという形で、盛り上がりました。決勝に出る人たちはそれぞれとてもうまく、甲乙つけがたいものがありました。優勝した大阪阪南ロータリーの吉山さんには、3月12日のレイシー会長が出席した合同地区大会の前夜祭に出演していただきました。「ザ・ベリーグッドマン」の楽団のコーナーで歌っていただいたわけです。レイシー会長も非常に喜んでらっしゃいました。

「ザ・ベリーグッドマン」というのはカラオケ優勝者のバンドです。ロータリアン8名で組ndます。善人ばかりですから、ベニー・グッドマンじゃなくて「ザ・ベリーグッドマン」でして、ベニー・グッドマンの前で演奏させていただいているわけです。東大阪の緑クラブのチャーターナイトや箕面中央クラブのクリスマスパーティー、大阪堂島クラブの年度末のパーティ、地区の青少年交換学生のクリスマスコンサートのときなどにもやらせていただいています。ユニホームとエンブレ

ムもつくりましたので「ザ・ベリーグッドマン」を今後ともお願いいたします。

カラオケ大会のほうは今年もまた12月ぐらいにやりますので、どうか皆さん方もふるって参加してください。

また、今年で11年目になりますが、9月の下旬から11月中旬に、ガバナー杯の争奪野球大会があります。今年のホストは大阪うつほロータリークラブです。昨年の吉川ガバナーのときから、始球式はガバナーがやるということになりました。土井さんが、小渕さんみたいに一生懸命、稽古されておられました。大阪中之島ロータリーでは剣道大会をクラブでやっておられると聞きました。大東ロータリーでも剣道大会をやっているの、両方マッチングして対抗の大会を開こうという機運が出ています。またほかのクラブも集めて剣道同好会をやろうという話もあります。

あと、城東ロータリーで6月25日に「麻薬撲滅キャンペーン」を行う予定です。

それから、2680地区の田中パストガバナーが、「ロータリーで囲碁の同好会を国際的にやっていきたいんだ」とおっしゃったそうです。それで吉川ガバナーから私のほうに話が来ました。いまのところ日本支部は305名、韓国では141名、台湾若干名、合計500名で発足したいということでした。当クラブから1人理事を出してほしいと言われておりますので、地区委員の福西さんに理事として出席してもらうことになっております。

昨年に続きまして、今年も美術展を開催しました。場所が大阪ドームでしたので、会場の構造上、入り口を二つに振り分けまして、3塁側のほうは美術展、1塁側のほうは美術のチャリティーをやりました。絵画を18点、書道を5点。写真を37点、陶工芸品を13点、彫刻を2点、俳句を13点、計88点、飾らせていただきました。チャリティーのほうも、最終的には85万5100円、集まりました。

単にお金が集まったということ以外にいろいろなことがありました。普段は100万円で売っているものが47万円で落札したんですけど、結果的に、

出品した人は「額縁代2万円だけでよろしい。あと全部チャリティします」と言われました。また2640地区の平岡パストガバナーの奥さんが描いた絵が売れて、礼状を出したいから連絡先を教えてくださいとおっしゃってくるなど、親交も生まれました。

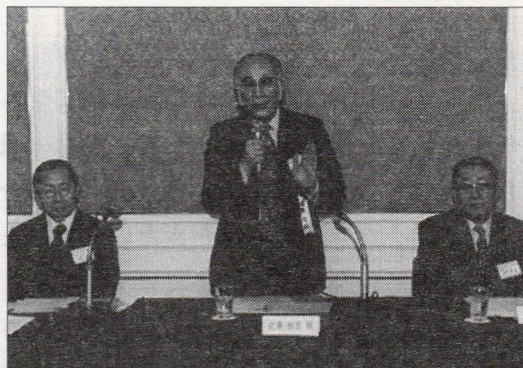
もう一つ、皆さんのお手元に茶道同好会結成趣意書というのをお渡ししております。下に発起人を書いてありますがこれは趣味別アンケート調査をした結果選んだ方々です。

最初に茶道同好会の結成を提案したのは、大阪東淀ロータリーの浜野さんです。ロータリーには裏千家、表千家、官休庵、武者小路の方、茶道の家元、教授といろいろいらっしゃいますが、そういった方々が一堂に会することこそ、ロータリーならではの良さだと思います。いろいろな角度で茶の道を見ることができていいのではないのでしょうか。ご興味のある方はぜひ入会してください。

アンケート調査に報告して下さったなかから選ばせていただいただけですので、まだ不十分な点があるかもしれません。このなかに我こそはという人がいらっしゃいましたら、ぜひまたご報告いただきまして、発起人の一人、また世話役になっていただき、親睦を深めていきたいと思っております。

職業奉仕部門

討論リーダー パストガバナー **近藤 雅臣** (千里)
サブリーダー 職業奉仕委員長 **近藤 浩司** (大阪南)
ボランティア委員長 **松岡晃一郎** (大阪うつば)



近藤雅臣 皆さん、こんにちは。たいへんお忙しいところをお集まりいただきありがとうございます。職業奉仕部門を担当ということになりましたけれども、私なりに全力を尽くしてやりたいと思っていますので、ひとつよろしくお願いしたいと思います。

一昨年、私が公式訪問で皆さん方のクラブを回らせていただいたときに、「職業奉仕って一体何ですか、さっぱりわかっておりません」というご相談がありました。「職業奉仕の理念をしっかりと把握して、クラブ活動に利用したいと思っているのだが、昔からの職業奉仕の理念が途中で変わってしまっている。特にアイ・サーブがウィ・サーブになって、これではライオンズクラブと同じじゃないか」というご質問を承ったこともあります。

その当時は私なりのお答えをしたんですけれども、その骨子は「やはり、ロータリーというのはアイ・サーブに尽きる」というものでした。ウィ・サーブのウィというのは、いろいろ異なった個人が集まっているということです。アイの場合だと、一つの理念に固まった場合に、そのアイがいくらたくさんいても、やっぱりアイです。したがって、「ロータリーはあくまでアイ・サーブでいったらいいんじゃないですか」というお答えをしていたんです。私の考え方はいまもそう変わっておりませんが、近ごろの国際ロータリーを見ますと、だんだんとルーズなほうに偏っていったように感じます。

規定審議会が出てきます案件というのは、楽しそうにしようという方向に向かっているのが

非常に多いようです。私はロータリーはそういうものじゃないと思っています。やはり原点をわきまえたきちとしたロータリーを再建していくべきです。

そういう意味から言って、この職業奉仕部門は、アイ・サーブで貫くべきであると考えております。

きょうの委員会で、職業奉仕というものはどうあるべきなのか、思いきり皆さん方にディスカッションしていただいて、われわれの地区なりの職業奉仕の理念をつくり上げ、それを皆さんのクラブで広げていただくということになれば有り難いと思っています。

職業奉仕について

近藤浩司 もともと発足当時の、職業奉仕の基本理念は自分の職業を成功させて、地域あるいは業界での模範となって、それを地域から国へ、あるいはほかの人々へ、社会へと広げていこうというものでした。今年はそのロータリーの基本理念を身につけて、ロータリーと一体になっていこうという方針を立てました。それをするには、やはりロータリーの職業奉仕の変遷の歴史を勉強したり、あるいは皆さんで討議し合っていくなかで、自分のロータリアンとしての考え方を身につけられるのがいちばん早いのではないかなと思いました。しかし、職業奉仕月間に各クラブを回らせていただいたり、あるいはこの後で報告させていただきますアンケートなんかを見ておりましたが、これは私の単なる印象かもしれませんが、本当の意味でのロータリアンになるための勉強というのが余

りなされていないというふうに感じました。

ですから、おこがましいかもしれませんが、今年は勉強をしていただきまして、10月の職業奉仕月間にはぜひ各クラブの委員長に、ご自分のクラブで卓話をなさっていただきたいと思います。そのための勉強会が、10月までに1回あります。資料も用意いたします。R I から随分たくさん資料が来ておりまして、千差万別のそれを前年度の丹羽委員長に非常によくまとめていただいております。それに基づきまして、ひとつこの1年間、私も一緒に勉強させていただきたいなと思っています。

ボランティアについて

松岡 ボランティアの方針を述べる前に、まずボランティアとは何か、それをまず説明して皆さんに理解していただき、それから次年度に向けての方針をお話ししたいと思っています。

ロータリーのボランティアというのは、ご存じと思いますが、3 H プログラム、保健・人間尊重・飢餓救済という枠組みのなかから出発したわけですから。そしてそのなかから、国際奉仕・社会奉仕・職業奉仕と順番に進んでいきまして、1992年、約10年近く前に、職業奉仕委員会の部門の小委員会としてR I が位置づけを行いました。このような歴史的背景があります。

しかし、地区のボランティアとして活動を振り返ってみますと、民族的なものがあるのか、日本人の考え方にボランティアは適していないということを私は感じます。これは4～5年前の調査ですが、全国の34地区のなかでロータリーボランティアの委員会があるのが9地区で、ないのが25地区です。「ロータリーボランティアを活動したことがあるか」という質問については、14地区だけで、していないのが24地区あるわけです。日本のロータリーのなかのボランティア活動というのはいまだに黎明期、まだ発足したばかりであると言えると思います。

じゃ、どうしたらロータリーボランティア活動

はできるか。これは非常に大事なことなんですが、地区ボランティア委員会に各クラブの会員の方がボランティア登録をしていただくことがまず第一だと思います。まず登録していただかないと、ロータリーのボランティアとしての活動ができませんから。そこで、この2660地区でもロータリーボランティアの登録をお願いしたわけですが、現在で約280名弱になっています。登録いただいた資料はガバナー事務所に全部保管しています。

そして、その登録したボランティアに対して、今度、各クラブがボランティアニーズを検索して探すことです。地区委員会は登録されたボランティアのなかから適切なボランティアをクラブに報告する。それでクラブが、そのニーズと——ここが大事なんですけれども——ボランティアとを仲介、実践し、ロータリーボランティアとしてのプロジェクトが成立するわけです。

去年1年、悩んだ点は、なかなかそのニーズが出てこないということです。私自身、大阪市の福祉協会などに足を運びまして、盲人の福祉協会のボランティアを1年間やりました。これは、こちらから探したからこそ、ボランティアニーズが出たわけなんです。

探しているうちにいちばん感じたのは、まずロータリーがボランティアをしているということを世間の人に知ってもらう必要性です。例えばインターネットのホームページなどに入れまして、広報活動をするのが非常に大事だと思います。

そこで来年度の活動計画としましては、各クラブでの、地域社会におけるボランティアニーズの検索と、ボランティア登録を進めていただきます。また、地区ボランティア委員はボランティアの啓蒙活動をしていくこととします。卓話の要請があれば、こちらから委員が出掛けていきます。

それともう一つボランティア委員会からお願いがございます。8月の上旬ごろにボランティアの委員長会議を開きます。ボランティア委員長を置いているクラブで、もし委員長がおられないときは職業委員長か代行か、だれか必ずボランティア

委員会に出席していただきたいと思います。

そのときにボランティアの申込書を配付しますので、ボランティアニーズをできるだけ検索していただいて、書き込んでいただければと思います。

職業奉仕のアンケートについて

近藤浩司 ここに、2660地区の83クラブが、1987年度以降のR Iの方針に沿い、どんな職業奉仕活動をなさっているかを質問したアンケートがありますので、ご報告します。

○質問1

貴クラブ職業奉仕委員会として、本年度どのような活動をしてこられましたか。また、今後どのような活動をされるご予定ですか。これに対する答えとして、

- ・「例会で職業奉仕に関する卓話を行った」

時期的には職業奉仕月間の10月が大半ですが、卓話は大体のクラブでしているようです。卓話者は地区の委員会の方15%、各クラブの職業奉仕委員長41%、他クラブの会員8%、ロータリークラブ以外の方が36%です。

卓話のテーマは職業奉仕に関するテーマが42%約7割、その他が3割ぐらいです。

- ・「職場見学」

74%、58クラブの方が優良な事業所の見学を実施されています。種類は工場、事務所がいちばん多く、公共施設が後に続きます。

- ・「地域のなかで職業表彰」

職業上の優れた実績をあげた人を表彰しました。これが、だいたい4割の42%。表彰された方は、化粧品会社の主任、タクシー乗務員、化学工場主任、製油工場課長、区役所広報事務員、警察官といった人たちです。

- ・「職業フォーラムを開催した」

これは50クラブ、64%でした。やはり「リスクマネジメント」「高齢者の雇用」など、職業奉仕の関連のテーマが多いです。

- ・「外部から参加者を呼んで講師とした」

これは7クラブ、1割です。青年海外協力隊員、

警察署交通課長、公共職業安定所所長といった方々をお招きしました。

- ・「ロータリーボランティア活動をした」

これは23クラブ、約3割でした。内容は「障害児童学園での奉仕活動」「開発途上国の医療奉仕活動の支援」「交通安全運度の推進活動」などです。

- ・「それ以外の職業奉仕活動をした」

これは20クラブ、約4分の1が行っていました。例として「会員と家族の健康診断」「献血運動への協賛」「交通安全の街頭でのビラ配り」などです。このほか、各会社の社是を集めて、1冊の小冊子にして会員に配ったところもあります。

○質問2

ロータリアンが職業奉仕を実践していくのに役立つべく作成された種々の標語や指針の内容、あるいは職業奉仕のあり方に影響を及ぼした方針の内容が貴クラブ会員に十分理解されているでしょうか。

これは項目がA B C D Eとあります。

A 「He profits most who serves best」について。

- ・「十分、理解しております」…17%
- ・「だいたい理解している」…73%
- ・「もう一つだ」…9.2%

B 「Service above self」について。

これはAと同じ比率になっています。「だいたい」と「十分」を合わせるとほとんどのクラブの方が理解していると答えています。

C 「4つのテスト」について。

- ・「十分理解しております」…4割強
- ・「普通には理解しております」…6割弱
- ・「不十分」…ゼロ

D 「職業宣言、職業は奉仕の一つなり、職業の倫理的規範、国の法律、地域社会の道德基準に對し名実ともに忠実であれ。職業の品位を保ち、自ら選んだ職業において最高度の倫理的基準を推進す

べく全力を尽くせ。雇い主、従業員、同僚、同業者、顧客、講習等、事業または職務上関連するすべての人々に対し等しく公平ならんことを旨とせよ」について。

- ・「十分」…6%
- ・「普通」…73%
- ・「不十分」…26%

E「職業奉仕における新方針」について。

- ・「十分に理解している」……5クラブ
- ・「普通」……49クラブ
- ・「不十分」……22クラブ

「職業奉仕における新方針」、つまり、アイ・サーブからウイ・サーブへの変化や、自分の職業活動を通じて社会に奉仕することから、弱者あるいは恵まれないところへ奉仕の力を直接持つていくことへ変わったのをご存じない方も結構いらっしゃったようです。しかしご存じなくても、いまの活動は、この新方針に従ってやっているわけですので、知らず知らず、それに従っているということになるかと思います。

○質問3

上記いずれかの項目について会員の理解を深めるために特別の工夫や努力をしておられる場合、その具体的内容についてご記入ください。

これは、回答のあったのが14クラブ、18%で、回答のなかったのが64クラブ、82%でした。具体的な回答例を挙げると、

- ・メンバーの方に優良図書を推薦した
- ・定期的に4つのテストを唱和した
- ・職業奉仕の歴史を解説した
- ・小冊子の紹介をした
- ・職業奉仕フォーラムのレジュメを会員に配付した
- ・職業奉仕関連小冊子を配布した

○質問4

四大奉仕部門のなかで職業奉仕活動が最も不活発という意見も多く聞かれますが、貴クラブの職

業奉仕委員会として、職業奉仕活動を推進していくのにあたり、最も難しいと思われるポイントは何でしょうか。具体的にご記入ください。

これは回答のあったのが64クラブ、82%でした。具体的な回答は大体の項目でまとめてあります。

- ・職業奉仕の意味が非常にわかりにくい
- ・幅が広くて焦点が絞りにくい
- ・明確な指針がない
- ・理念はわかるが実際の活動では難しい
- ・個人の活動であるから具体的成果が出にくい
- ・ほとんど会員が個人々々で行っており委員会としての方針が出にくい
- ・個人で行うので表面に出にくい
- ・クラブとしても成果が出にくい
- ・クラブを挙げての活動が少ない
- ・ボランティア委員会との区別が不明
- ・クラブとしての活動方針、具体的目標が出にくい
- ・社会奉仕との区別がはっきりしない
- ・会員に啓蒙する機会が少ない
- ・他業種の人の集まりであり、個々に具体的な行動指針が決めにくい
- ・いまの経済状況では奉仕そのものがやりにくい
- ・地区委員会でも精神面での指導が多く具体的な行動指針が少ない

○質問5

地区職業奉仕委員会の役割について希望される点、注文される点があれば具体的にご記入ください。

回答のありましたのが30クラブで約4割、39%ぐらいでした。具体的な内容は、

- ・地区の活動はできるだけ簡素化してほしい、簡単に説明してほしい
- ・職業奉仕活動の具体例を毎年小冊子にしてほしい、例を知りたい
- ・方針が漠然としている、具体的な活動方針を出してほしい、マンネリ化している

- ・事業所見学を地区で推薦してほしい、卓話にきてほしい
- ・地区としてフォーラムなどを実施してほしい

しかし、地区というのはあくまでも連絡機関の役割が一番の主です。RIの姿勢からも、クラブの活動に我々が立ち入ったり、一緒になって何かをやるということはできません。我々自身、そういう気持ちもあります。それよりも、できるだけ一人でも多くの方に、ロータリーの思想を本当の意味で身につけていただいて、少しでも社会がよくなればと思います。

海外での事例

近藤浩司 新方針に基づいた4つの小委員について、海外でこんな活動があるというのを報告させていただきます。

○職業相談

- ・モロッコ……ほとんどのロータリークラブが職業見本市を主催。この見本市で、毎年多くの学生が実用的な職業情報を受け取っています。日本では就職する学生に企業説明会がありますけれども、それと似たものではないかと思います。

- ・メキシコ……英国のクラブとの合同プロジェクトとして、1000名を超えるストリートチルドレンが教育と職業研修を受けています。

- ・フィリピン……職業研修センターを開設して、人々が婦人服の仕立て、肉の加工処理、コンピューター、紳士服の仕立て、バーテンなどの仕事を学んでいます。低所得家庭の学生にはクラブが奨学金を全面的に支給しています。

- ・オーストラリア……失業者に対し、経営と販売の研修資金の貸し付けをして、小規模の自営業を始めることができるようにしています。

○職業活動表彰

- ・英国……96歳の実業家が、毎日自分の会社に出社して生涯にわたって貢献し続けたことを、表彰しました。

- ・フィリピン……TOWOR賞、「Ten O

utstanding Works Of the Republic」という賞を設けて、優秀な熟練労働者10人の生産性と指導力に対して、トロフィーと賞金を贈りました。

- ・オーストラリア……家具製作者、実業家、ボーイスカウト隊長等の地域住民を対象にして、「仕事への誇り」という賞をつくって表彰をしています。

○職業情報

事例としましては、各一業種一人ということですので、毎回メンバーの方が自分の職業のことにについて卓話をするというのがあります。また、職場の見学会もあります。さまざまな分野の代表者たち同士が、具体的問題にどのように取り組んでいるかをグループ討論したり、異業種間でのパネルディスカッションなどを行ったりしています。他クラブロータリアンとの同好趣味、同職種間での親睦活動などもあります。

○職業指導

- ・南アフリカ……中小企業振興団体と協力して新しい雇用の機会の門戸を開きました。この振興団体は有望な事業計画、ベンチャービジネスのようなものに資金を提供しています。

- ・インド……「雇い主と従業員の関係」というテーマでセミナーを開きました。講演者たちは、常習欠勤者、対立の積極的対応方法、政府の介入なしの労使関係の解決などについて討論したそうです。

- ・米国……従業員援助プログラムの研究集会への出席を推進することでアルコール依存症防止対策などに力を貸しています。

また、イギリス、オーストリアを初め、ヨーロッパ各国、南アフリカ、ニュージーランドの多くのクラブがプロバスクラブを提唱しています。プロバスクラブというのは、プロフェッショナルビジネスのクラブです。専門職務と事業に従事し、引退した人が関心を持つ問題について話し合う会合を毎月開いているとのこと。日本の場合ですと、定年退職された方の会合を開いているというようなものみたいです。

ディスカッション

乗光（住之江） 施設との親善ソフトボール大会と特別養護老人ホームの慰問、区役所への車椅子の贈呈、それとボーイスカウトのゴミ拾いといった4つのボランティア活動をしています。もう5年以上同じことを続けているんですけれども、この前も参加しましたら、何か当たり前のような感じになってきて感謝の気持ちが少なくなり、後で金一封をいただくのも当然のようになりました。これをずっと続けていいものか、来期の方針で決めたいと思っているんですけれども、よろしくお願いいたします。

近藤雅臣 5年もお続けになっているというのは大変結構なことです。けれども、私たちの奉仕活動は、それが果たして本当に有効なのかどうか、毎年きちっと見直していくことが大事だろうと思います。もらうことが当たり前で、出すことが当たり前、私は、それは奉仕じゃないと考えます。確かに役立っていて皆さんに喜んでいただいているなら、お続けになることがよろしいでしょう。しかし、そうでなければ現場の方とお話し合いになって、それを切ってもいいと思います。

中川（枚方くずは） 交通問題とボランティアの2つについて申し上げさせていただきたいと思います。交通問題につきましては、枚方で私は「迷惑駐車条例」というのを、市、安全協会、商工会議所の3つにスクラムを組ませてつくりました。市のほうから専門的な人に10名ほど参加していただいて、委員会を開いていろいろやったわけです。いまでは大阪府のモデル地区になりました。

もう一つ、ボランティアの問題なんですが、年を取ってきたら、口はえらくなっても体は動かないというのが現状だと思います。ですから、上手に相手をその気持ちにさせなくてはならないということです。

実は今年、8月に大きなイベント、市民祭りを開催し、私がその実行委員長をやるわけなんです。けれど、いままで23年間やってきてマンネリ化し

てしまっているんです。そこで私がやる以上は、市長から会議所から理事長から専務からみんな出てきてくれということで声をかけました。それが本当のボランティアだと私は思うんです。

ですから、皆さんがどんどん前向きの姿勢で取り組んでいただいたらいいんじゃないかなと思います。自分以外、ほかの人のことはどうでもいいという考えを改めさせて逆転させるように人間づくりをしなくてはならないと思います。これは子供たちへの教育にもあてはまります。

近藤雅臣 ありがとうございます。今日はボランティア活動が継続することの功罪もディスカッションされましたし、事例紹介もございました。皆さん方、たいへんご参考になっただろうと思います。今後、各クラブに頑張っていただき、事例をどんどん地区のほうに報告していただくようになれば思っております。よろしくお願いいたします。

社会奉仕部門

討論リーダー パストガバナー 中川 章三 (大阪城南)

アドバイザー
パストガバナー 広瀬勘一郎 (大阪西南)

サブリーダー 矢橋 弘嗣 (千里)

サブリーダー 柳 雄二 (八尾中央)

サブリーダー 藤井 武治 (大阪リバーサイド)



ロータリーの社会奉仕活動

中川 ロータリーにおいて、社会奉仕とはどういうことなのか、皆さんも委員長に任命されて、何から始めたら良いかを考えられたことでしょうか。まずは手続要覧をひもとかれたのではないのでしょうか。この要覧は、昨年度の規定審議会において改訂されているのですが、社会奉仕の項では前年度とあまり変わりはありません。定義として「ロータリアンのすべてが、その個人生活、事業生活および社会生活に常に奉仕の理想を適用すること」と書かれています。これはロータリーの4つの綱領のうち、第3に掲げられているもので、社会奉仕はロータリーの金看板であるということです。我々は先輩達から「決議23-34」や「決議92-286」などをロータリー情報委員会の席上でよく聞かされましたが、これに至るまでの歴史的経過はご存じでしょうか。

理論派と実践派の対立と調和

ロータリー運動を「奉仕の心」として捉えた理論派は、ロータリークラブの使命は、各ロータリアンに「奉仕の心」を持ち、自分の職場や地域社会の人々の幸せを考え、職業人として生活していけば良いとしました。

しかし社会奉仕活動に重点をおく実践派は、実施した社会奉仕活動が成果を挙げていることを根拠に、理論派と対決しました。実践派から見ると、奉仕の機会を見いだして、それを実践するのがロータリー運動の神髄であり、単に「奉仕の心」だけを説いている理論派の態度は責任回避とだけし

か映らなかったのです。

この論争が「個人奉仕」と「団体奉仕」、さらには金銭的奉仕の是非にまで発展して激しい対立が続きしました。この異なった二つの考え方の調和を図るために、当時の理事会はあちらこちらと微妙に揺れ動いて、ようやく1923年のセントルイス国際大会の時に「決議23-34」となって成立しました。この決議が採択されなかったら、理論派と実践派に分裂して、今日のロータリーはなかっただろうと言われております。

この内容は、『続要覧の社会奉仕の項の「社会奉仕活動に対する方針—社会奉仕に関する1923年の声明」』、すなわち「決議23-34」を読んでいただければ良く分かります。要するにロータリーの奉仕とは、ロータリアン個人個人が、この哲学を基盤として個人奉仕に重きをおいていくという決議であります。

将来に向けた社会奉仕のあり方

ところが最近では急激な社会情勢の変化に伴って、世の中の価値観や奉仕活動の対象が大きく変わってきました。RIが3Hプログラムやポリオプラスのような大規模プロジェクトを実施するためには、この「決議23-34」が少し邪魔になってきたのです。

そこでこの決議の撤廃が過去3回に涉って規定審議会に出されました。しかしこれを撤廃することはロータリーの基本哲学を否定することだと日本が独り反対し、理事会はこの提案を諦め、代わりに「社会奉仕に関する1992年の声明」すなわち「決議92-286」を採択して、「決議23-34」と一緒に

このように、社会に高齢者が増える中で、「高齢者は被扶養者ではない」と考える高齢者や「元氣なうちはいつまでも働きたい。社会のために尽くしたい」と考える高齢者が増加している状況のもと、「ACTIVE AGING（活力ある高齢化）」という考え方が生まれてまいりました。

この「活力ある高齢化」(active aging)という考えは、平成9年6月のデンバーサミットの8カ国声明においても取り上げられております。

こうした観点から、高齢者が生き甲斐をもって自立した生活が送れるように、また、高齢者が社会を支える一員として社会の活動に積極的に参加できるように、地域社会を構成するものそれぞれが努力する必要があるといわれております。もちろん、私どもロータリアンも、地域社会構成員の一人として、この「活力ある高齢化」のための奉仕活動を展開できればと考えております。

では、わが国の高齢化の現状はどうなっているのでしょうか。

一昨年、平成9年には、65歳以上の人口が、15歳未満の子供の人口より多くなり、今年（平成11年）4月1日現在では、総人口に占める割合は65歳以上が16.5%、15歳未満が14.9%であり、少子高齢化が一層進展しております。

また、平成9年のわが国の平均寿命（0歳の平均余命）は、男77.19歳、女83.82歳と男女とも過去最高を更新いたしました。現在70歳の方々の平均余命はそれぞれ13.50年、17.53年で、皆さんが優に80歳を越しておられます。

このように高齢者が増え続けている中で、「長寿化した一生をいかに健やかで充実したものにするか」、また「いかに健全に生き甲斐をもって過ごすか」という問題、つまり「活力ある高齢化」が今日の社会での大きな関心事になっているのではないかと考えられます。

私どもロータリアンが奉仕活動を展開するときには、まず地域のニーズを十分に把握するようにと常々教えられておりますし、また1998年版ロータリー情報集『ご存知ですか』にもありますよう

に、RI理事会は「汗を流す社会奉仕プロジェクト」を奨励しております。

奉仕活動の展開の方法としては、いろいろあると思います。各クラブそれぞれに、長年培われた方法をおもちでしょうし、地域の方々になじみの方法もあると存じますが、会員が得意とされる職業上の能力や趣味を生かされて、年度を通じて、少なくとも1日を高齢者のニーズのために「活力ある高齢化」(active aging)のための「汗を流す奉仕プロジェクト」を展開していただくことをお願いいたします。

「活力を失わずに年齢を重ねる、健やかに年齢を重ねる、不安なく年齢を重ねる」ということになってまいりますと、各クラブにそれぞれのことに非常にすぐれた知識をお持ちのメンバーさんがたくさんおられると思います。そういうことでございますので、この問題は今年、次年度一年やっていただいたらそれですべて完了するテーマでもございません。先ほどの柏木ガバナーノミニーがおっしゃったような「持続」というテーマになっていくようなかたち。つまり、いまの方がそのことを心がけていただいたら、あと20年、お元氣でおられる。あと15年、元氣に社会で活動をしていただけるということになってまいるわけでございます。ささやかな奉仕活動というよりも啓発活動でも結構ですし、いろんなことが手法論としては、皆さま方おわかりと思いますので、何か考えていただいて、ぜひ次年度、7月から以降の年度内に地域の中で「アクティブエイジング・活力ある高齢化」という流れがわき起こるようにご活躍をいただきたいというふうに思います。

次に、この2660地区は共同奉仕作業といたしまして、毎年、海遊館招待行事というものを考えて行っております。その他「ユネスコ寺子屋運動への協力」「ローターアクト・インターアクトの皆さんとの共同奉仕」と、いろいろ掲げております。

それから、今回の協議会をするにあたりまして、各クラブに「新年度、どういうことをお考えですか」というアンケートについて「委員長になって

すぐで、まだ十分考えていない」というお答えが過半数でございました。お礼だけ申し上げて、ご報告に代えさせていただきます。

環境保全運動の取り組み

柳 環境保全委員会は今回半数の委員が交代となりました。地球温暖化問題、オゾン層の破壊、ダイオキシンや環境ホルモンのこと、廃棄物の処分場がなくなってきたこと。さらに最近では、ISO（国際標準化機構）など、さまざまなテーマが取り上げられております。私どもの世代が多くの環境問題を引き起こし、次の世代が親になるころには、もう対策が立てられなくなるのではないかと危惧されているわけで、そうならないために、今何とかしなくてはいけないということです。

当委員会は、90～91年度に設置され、今年で10年目になります。この間各年度さまざまなテーマを取り上げ、廃棄物焼却場や埋立処分地、浄水場、環境学習センター。また前年度は関西電力で見学や研修をやってきました。3年目には「環境ガイドブック」を作成して皆さまの参考にしていただきましたし、例年、各クラブの皆さまにアンケートをお願いして、活動状況をご報告し、参考とさせていただきます。

これからの活動ですが、まず、皆さまの机の上のアンケートに記載をお願いいたします。FAXなりでガバナーノミニーまでお送りください。昨年度実施された環境保全運動や本年度の活動計画について、それと今回は環境マネジメントシステムについても調査したいと考えております。

皆さまのクラブの会員さんの会社で、ISOを取得されている会社の有無と、もしございましたら会社名をお教えいただきたいと思います。この「ISO（国際標準化機構）International Standardization Organization」は『ロータリーの友』4月号に載ってございましたからご覧いただいた方もあると思います。ジュネーブに本部があり、国際的な規格作りをしているところです。日本には従来JIS（日本工業規格）があり、ISOで決まっ

たことは全面的にJISに取り入れるというのが政府の方針ということです。

「ISO-14000」は1996年に制定された環境に関する新しい規格ですが、環境の数値や規制値を決めているわけではなく、環境管理の進め方を決めているもので、わが社はこういう目的で環境管理をします、と決め、それを第三者が認証する、つまり、企業が社会と環境管理を正しくやりますという約束をすることになります。

“ロータリーの友”によりますと、品質を保障する「9000」があり、また、安全に関する「16000」が予定されるとありました。ともかく、環境についての「14000」の調査をする予定です。

現在、「環境ガイドブック」第2版を印刷中で、遅くとも7月前後には会員の皆さま全員にお配りします。地球温暖化のこと、ダイオキシンのこと、環境マネジメントシステムについて、また環境カウンセラー、そして、当委員会の今までの活動状況や各クラブの活動事例などを記載しております。大阪府が主宰する団体に「豊かな環境づくり大阪府民会議」というものがありますが、当委員会も一昨年にここに加入しました。

この府民会議には、ボランティアネットワーク、子供連合会、青年・婦人のほか、われわれロータリーなどの府民団体と、経済や商工会など事業者団体、さらには環境フォーラム、みどりのトラスト協会、リサイクル推進会議や自動車対策会議などの関連団体で構成され、これは府民をあげて環境に取り組もうというものです。

昨年度、この府民会議は五つのテーマを提唱しました。私たちの地区では、そのうち三つを取り上げました。一つは「スイッチオフ推進運動」。これは家庭やオフィスでこまめにスイッチをオフするという。二つ目が「エコイベント運動」。これは、いろんなイベント運営で環境配慮を徹底すること。会場の温度が必要以上に冷えすぎているか、会場で配付する資料は両面コピーにするなどの配慮をして欲しいというもの。三つ目は「グリーン購入推進運動」。これは環境への負荷の少な

い商品を購入することにより、ゴミの減量化やリサイクルを促進し、地球環境の悪化を防止することです。

その他「アイドリング・ストップ運動」。最近、このステッカーを貼った車を見かけるようになりました。それからもう一つは、「マイバッグ持参運動」で、買い物に行くときに、マイバッグを持って行って、無駄な袋を使ったりしないようにしよう、ゴミを少なくしようということですが、府民会議は平成11年度の最重要課題として、グリーン購入推進運動を指定しています。

昨年度は、企業に目を向けようということで、関西電力南港発電所を訪問しましたが、本年度は10月14日（木）午後に、高石市にあります大阪ガスの泉北製造所とガス科学館を訪問いたします。ここは、昨年秋にISO-14001（14000の核で企業活動、製品・サービスの改善を継続的に行うシステムを企画化しその承認を得る）の認証を受けておられますので、その辺の事情を学び、ガス科学館ではエネルギー問題について、興味深く見学いただけたと思います。

それから、6月5日というのは「環境の日」でございます。前年度には、大阪府民会議が募集している「おおさか環境賞」に、大阪柏原クラブご推薦のサークル「くるくる」を推薦させていただきましたが、本年度も、候補者の推薦方をお願いすることになろうと思います。その節は、各クラブに関係されている団体や個人について、推薦をお願いいたします。当選しますと、6月5日の環境の日に合わせて表彰が行われることになります。またこの日には、各クラブでも卓話やシンポジウム等を取り入れていただきますようお願いいたします。前年度には、大阪環境基金のご案内をいたしましたが、特にお申し込みはなかったようです。この基金は継続して行われていますので、機会がありましたらご検討ください。

とにかく、環境問題については、地球温暖化、オゾン層の破壊、地球の砂漠化など、地球上の生命の存続が問題になっています。特に、開発途上

国が開発を進めるにつれ、事態は深刻になると思われます。日本人の環境破壊は現在それなりに大きいといわれておりますし、日本人もしっかりと考え自覚して行動しないといけないということです。

高齢者を始めとした交通災害問題

藤井 地区の交通問題特別委員会ということで発足いたしました。各クラブで委員会もつくっていただいているところもございますし、当大阪リバーサイド・ロータリークラブもそうなんですが、独立してなかなかおつくりいただいていないようでございますので、先ほどお話がありましたように、社会奉仕委員会の中で環境問題、環境保全と同じように交通問題の特別委員会をおつくりのところも多々あるというふうに聞いております。この場をお借りしまして、この地区の交通問題特別委員会のお話をさせていただきたいと思います。

一昨年からの第2660地区におきまして交通問題特別委員会が創設されました。交通問題というのは、今日は他人事でありますけれども、あしたは我が身になる危険性を含んだ問題でございます。決して他人事ではないということを、ご認識いただきたい。この交通問題特別委員会として、テーマを三つに絞り込んで問題に取り組んでまいりたいと考えております。

まず一番目は、ロータリアンの所属する企業における交通災害防止運動。それから二番目に、青少年に対する交通災害防止のための教育。三番目に、高齢化社会における高齢者の交通安全問題。今年度は基本方針の第三番目であります。

実は、平成10年度の大阪府下の死者が394名いらっしゃるわけですが、このうち高齢者が108名。率にしますと28.9%で、今年度、この1月から3月において、大阪府下で交通事故で亡くなられた方が92名いらっしゃいます。そのうち、高齢者の方が29名。ということは、率にしますと3割を超えている。

このへんの問題とどう取り組んでいくか。一般にドライバーの方でしたら、春と秋の交通安全週

間というのがあり、そこで交通安全の講習とか、あるいは免許の更新時の講習ということで、それぞれ、いろんな講習があるんですが、高齢者の方にはそういう交通安全講習というのはございません。実際に免許をお持ちでない方がたくさんいらっしゃるということです。これについては、高齢者のための「ひやり地図」を作成することでスタートしたいと考えております。

現実にはまず2地区、港警察と都島警察をモデル地区として始めております。当リバーサイド・ロータリークラブの担当エリアが港区でございますので、港区の警察とタイアップしまして、港警察と港交通安全協会に依頼し、港区の老人クラブの代表の方に呼びかけました。港区には11地区ございましたが、その地区の代表の方に集まいただき、「ひやり地図」を作成するにあたってのガイドをお願いしました。

実際に各ロータリークラブとしてどう関わっていくかということですが、その地区の警察なり交通安全協会に、「ひやり地図」をつくるということで老人会に呼びかけていただき、実際にできあがった地図を、たとえば区役所なり老人クラブの会館に掲示していただいております。

青少年における交通災害防止については、毎年9月23日に大阪府主催の交通安全ファミリーフェスティバルというのが、千里の万博記念公園で行われております。当地区もパンフレットと交通安全にかかわる風船を配らせていただきました。

それと、例年秋に大阪府主催の母と子の交通安全大会というのがございます。これは、幼稚園と小学校の低学年を対象に、交通安全の標語、あるいは作文を募集しまして、優秀作品を表彰するというものでございます。

その他ロータリアンの所属する企業での交通災害防止運動。これは次年度、一つの活動計画で取り上げていきたいと考えております。具体的には、各地区の警察で「無事故・無違反チャレンジコンテスト」を実施しております。これは春と秋の交通安全運動の期間中のスタートから6ヵ月間無事

故・無違反であった事業所、ないしはグループに対して表彰を行うものでございます。

コンテストの結果は、この6ヵ月間の交通事故、人身事故は6件。これは対前年比でマイナス9件。交通違反は212件、対前年比でマイナス44件で、両方合わせて219件、対前年比で52件のマイナス。ですから、19.2%の減少ということで、このコンテストをやることによって、交通事故なり交通違反が少なくなったという結果が出ております。

質疑応答

今川（八尾） 当クラブも環境保全委員会が社会奉仕委員会、それから交通安全対策委員会が職業奉仕委員会となっています。こういう詳しく説明していただいているにもかかわらず、私は社会奉仕委員長を来年仰せつかるわけですけれども、職業奉仕委員長が交通対策委員長として当クラブではやっていくわけです。本当にもったいない機会だなと、私自身思っておるわけです。地区といたしまして、社会奉仕委員会にこの部門は入るんだというようなご指示があると、非常に有り難いと思うんですけれども。いま、二つの委員会、本当にすばらしい事業展開をされるということをお聞きして、当委員長が聞くことができないというようなことであっては、これをどうやってクラブに持ち帰ればいいのかと思うわけです。

矢橋 最初は特別委員会ができる前は、職業奉仕の中に交通問題を取り扱うというようなセクションもあったりしたという経過が地区としてはあるようです。

特別委員会は、他に教育問題もございまして、2004年のための国際大会のことは別にいたしまして、この地区の特別委員会は教育問題と交通問題が二つできたわけでございます。この地区協議会という場での発表の場、討議をする場としては、特別委員会をどこに入れるというふうな場所がございませんので、たまたま、この交通問題特別委員会ができたときに、そのときの職業奉仕の委員会、それから社会奉仕の委員会、青少年の委員会

等の委員長・副委員長が集まりまして、交通問題は、ご出席の廣瀬パストガバナーの会社の事務所をお借りして、交通問題をどういうふうに取り上げたらいいかというような検討会をいたしました経過がございます。

今年度に関してはこの社会奉仕のセクションで交通問題委員会の委員長さんにご説明をしていただいたということになっております。ですから、交通問題特別委員会として、きょう、ご説明していただいたようなことは、再度、ご説明いただけるんだらうというふうに私は理解しておるわけでございます。

飯田（大阪中央） 実は私どもは「里親クラブ」、里親を担当しているクラブなんです。いま担当されているクラブ同士の協議の場みたいなものを設けていただけないか。

矢橋 地区の委員会として、「地域発展」の里親の問題として取り上げております。震災のときに7クラブさんにお引き受けいただいて、年数が経っていけば問題がだんだん風化していく部分もあるし、子供さんのいちばん小さい方が小学校の方だと、何十年もやっていただかなければならないという話もある中で、地区の委員会としてお引き受けいただいたことを、ほかのクラブの方々にもずっと知っていただくという意味合いも含めまして、この項目をあげさせていただきました。

そのときの社会奉仕の委員長の大橋委員長と新津前委員長さんとお世話いただいて、例年4月から5月ごろに、お世話いただいている7クラブから委員長さんにお集まりいただいて、いろんな経過をお聞きして、ご苦勞の情報交換をしていただく場というのは、2660地区として委員会はありませんけれども、そういう場を設定して、年1回、必ず情報交換をさせていただいております。

飯田 要は、実質的にイニシアティブをとってやっていただければ有り難いのです。

矢橋 時間が大分迫ってまいりましたので、まだご質問もあろうかと思いますが、これで本日の1999年から2000年のための地区協議会におけ

る社会奉仕部門の協議会を終わらせていただきたいと思います。

終わりにあたりまして、この部門の討論リーダーの中川パストガバナーから一言、まとめをお聞かせいただきたいというふうに思います。

中川 それでは、時間になりましたが、本日は長時間にわたって社会奉仕部門の部門別協議会に参加していただきましてありがとうございます。

地区の社会奉仕委員会は、ただいま矢橋委員長さんがおっしゃいましたように、地区のニーズに基づいた奉仕活動を繰り広げていこう。それにはやはり活動計画として、高齢者の「アクティブエイジング」、いわゆる活力のある高齢化、そういったものに取り組んでいきたいという計画でございます。

また環境保全委員会は、ただいまの柳委員長さんがおっしゃいましたように、今までのガイドブックを改編しまして、会員の皆さんにお配りをする。そして、ISOに関係ある大阪ガスの見学をする。そういったことでもございました。本日は、長い間、3時間にわたってお話を聞いていただきまして、ありがとうございました。これで散会させていただきます。どうもありがとうございます。（拍手）

国際奉仕部門

討論リーダー パストガバナー **山中 文和** (大阪南)
 サブリーダー **坂本 旭** (大阪東淀)
 サブリーダー **三宅 一嘉** (大阪東南)
 サブリーダー **笹井 敏之** (大阪イブニング)



国際奉仕の喜びと意義を感じて

山中 国際奉仕は、非常にやりがいのある奉仕の一つです。ご担当になられた皆さま方、国際奉仕を通じて奉仕の喜びと意義を感じていただけることを願っています。

坂本 一昨年、貧困問題における統計がR Iから発表されました。それによると、世界人口の約20%は1日に米賃1ドル以下で暮らしています。1分間に約50人が貧困家庭で誕生しており、1日にすると7万2000人、1年では2628万人が生まれている計算になります。

発展途上国では、9500万人を超える15歳以下の子どもが家庭を助けるために働いていると推測されています。約1億人の子どもたちはホームレス、約1億2000万人の人々が失業者であり、多くは不完全就職者です。

そして毎年1500万人が餓死し、その大半は児童です。5歳未満の児童の34%は栄養不良、世界で20億人以上が栄養不足のために学習能力の欠如、失明、精神停滞、早産による死亡の危険にさらされています。貧困のため養育できない親に捨てられ路上生活をしている児童が約1億人。アフリカの何百万人という児童はA I D Sの蔓延で孤児となり、ストリートチルドレンが増加すると予測されています。また、11歳から15歳までの推定9000万人の貧困家庭の児童が就労しています。

では、世界社会奉仕委員会の活動方針と活動について一緒に勉強していきたいと思います。現年度のR I会長ジェームズ・レイシーさんは、「世界の飢餓、貧困を放置しておいては平和はない」と

いう不退転の決意を秘めて会長に就任されました。次年度のR Iのテーマは、「活動は堅実・信望・持続」です。過去の実績に矛盾のないことを確認し、その信憑性に基づき事業を持続するとW C S委員会は解釈しています。そこで、他の国のロータリークラブやその地区と共同で貧困と飢餓の地球規模の救済を旗印に、「ロータリーの夢を追い続けよう」のテーマを引き続き実施します。

当地区委員会やクラブは、飢餓、貧困、疾病で苦しむ人々に生活改善のための職業訓練や識字教育、保健衛生教育プログラムを、虐待されている子どもたちには愛の手、緊急災害等の援助は国際援助機関を通して支援を行い、国際理解と親善を深めることを通してロータリアンとしてのアイデンティティを高めていくことができればと願っています。

当地区の世界社会奉仕活動の基本方針と各クラブの活動予算に関してですが、各クラブは自発的に独自のプロジェクトを実施されることを勧めています。各クラブの活動予算は会員一人当たり5000円以上の拠出を目標に実施していただきたいと思います。単独でプロジェクトを実施されないクラブは、地区世界社会奉仕委員会との共同で実施をしていただきます。この場合、会員一人当たり5000円を拠出していただきたいと思います。クラブ単独でプロジェクトを実施され、会員一人当たりの活動予算が5000円未満であった場合、その差額について、地区と共同のプロジェクト事業費に拠出していただきます。

担当と任務については、国際奉仕部門の中に世

界社会奉仕委員会を設置することをお勧めしたい
と思います。国際奉仕委員会はあるのですが、そ
の中にWCS委員会がないというクラブがたくさん
あります。ぜひWCS委員会を、国際奉仕部門
の中に置いていただきたいとお願いをします。

実施にあたっては、3年委員、2年委員を置く
ことを推奨しています。その役割は、世界のどこ
かで飢えに泣き、病に困っている人々のことを具
体的に情報として会員にお伝えいただくこと。そ
して、プロジェクト実施のために地区WCS委員
会は、被援助国から情報を得て事業計画を立て、
募金活動を奨励して実施準備とする。クラブ単独、
あるいは地区と共同の事業を実施していただくこ
と。事業資金は、全会員一人当たり5000円以上の
特別寄付金として募るか、ニコニコ箱募金、その
他多くの方法がとられています。

皆さんにお願いしたいことがいくつかあります。
まず第一に、必ず現地を訪問すること。それが困
難な場合は、現地の事業責任者を確認し、収支報
告を必ず得ていただきたいと思います。

第二に、必要な物資の現地調達情報を得ておく
こと。現地で調達できる商品もありますし、部品
等もあります。

第三に、相手国の文化や習慣をよく調べること。
言葉の違いが不必要な誤解を招くこと等について、
十分注意を払ってください。

地区WCS委員会では、援助事業の紹介をして
います。多くのプロジェクト資金を獲得すること
ができる「同額補助」という制度もあります。地
区主導の共同事業も行っています。それは皆さま
方と一緒に、または共同でその事業を推進してい
くというものです。

現地事情の研修と視察の旅も計画しています。
今年度は11月に実施します。

WCSプロジェクトの進め方については、何よ
りもまず信頼できる海外のパートナーを選ぶ必要
があります。長年お付き合いのある姉妹クラブや
友好クラブと進めたり、海外のロータリアンとの
個人的交流を通じて進めたり、またRIの世界社

会奉仕プロジェクト交換を通じて進めるというこ
ともあります。

現物出資、情報ネットワークもあります。国際
大会や地区大会で交流を進めていただくと
いう方法もあります。

プロジェクト実施に伴うその他の条件としては、
プロジェクト実施先へのアクセスは比較的容易で
安全なところを選んでください。それに、相手先
でのコミュニケーションが確実に行えるところ、
またWCS活動に熱心に取り組む会員が両国に必
要です。

個人が恩恵を受けるもの、少数の者のための利
益をはかるもの、また不動産購入、給料等の支払
に該当するものは避けていただきたいと思います。

最後に一つ申し上げますが、私たちがたとえ物
質面において貧しい者であったとしても、貧しい
国の恵まれない人たちのことを思って心を尽くし
て何かができ本当に喜びを分かち合えるのではな
いかと思うのです。地区委員会の委員たちがカル
カッタのマザー・テレサさんを訪問したとき、シ
スターからいただいたしおりの一部を読みたいと
思います。

「沈黙の実は祈り、祈りの実は信仰、信仰の実
は愛、愛の実は奉仕、奉仕の実は平和」とありま
して、世界社会奉仕活動の本当の目的は、私たち
ロータリアンが本当の喜びを体験することであり、
世界平和への礎を築くこと。この働きを、ロータ
リアンの特権として受け止めてはいかがでしょうか。

アメリカ留学で得たもの

三宅 青少年交換委員会の話をさせていただく前
に、1997～98年度にアメリカへ交換留学で行って
帰ってこられた池田佳子さんから1年間の青少年
交換がどんなものであったか、お聞きいたきた
いと思います。

池田（交換留学生） 私は、97年から1年間、大
阪本町ロータリークラブから、アメリカのアイダ
ホ州にあるエルモア・カウンティーというホスト
クラブに受け入れられて、留学をしました。

私は4つのホストファミリーに恵まれました。一番目の家族はディスカッションを日々大切にされているご夫婦でした。私が学校に行くとき、必ずホストのお父さんが言ってくれた言葉があります。“Learn something.”、つまり「何でもいいから毎日何か一つでも学んでいっちゃい」という意味です。その言葉を聞いて「ああ、きょうも頑張ろう」と思って、毎日学校に通っていました。

すごく嬉しかったのは、私を一人の人間として意見を聞いたり言ったりしてくれたことです。これがアメリカ人の誰でも受け入れるという人間性なのかなと思ったものです。

二番目のホストのお父さんは外科医で、お母さんはお父さんの診療所や自分の家も設計を手がけてしまう人でした。乗馬を教わったり、雪山に連れて行っていただいてスノーモービルを楽しんだり、娘さんの結婚式にも連れて行っていただいたりしました。

三番目のホストは政治に関心のあるご夫婦で、二人の支持する党が違ったんです。「私たちは愛し合っているけれども、本当は敵同士なのよ」と言って、選挙のときには白熱して議論されていたのを覚えています。

学校の授業のなかでも、一番私が気に入っていたのはコーラスの授業です。学期末に皆でサンフランシスコへ旅行に行こうと計画があって、そのためにいろいろ企画をしてお金を貯めました。皆で一つの目的に向かっていく過程は、とても楽しいものでした。一人が「こうしたらいいんじゃないかな」と言えば、皆が「じゃ、それを実行してみようよ」といった感じで、何事にもこんなふうに取り組めたら楽しいだろうなと思いました。

頑張ったかいあってサンフランシスコ旅行は実現し、現地では合唱コンクールに出ることができました。各州から代表の高校が参加していたのですが、私の高校は「いちばん楽しそうに歌っている賞」というのをいただいて、皆大喜び。打ち上げのダンスパーティーは、とても盛り上がったのを覚えています。

帰国して10ヵ月弱がたちました。すごく嬉しく思っているのは、たくさんの人に出会えたことです。留学中は友だちやロータリーの方、ホストファミリーや町の人全員に、すごく親切にされました。帰国後も、ロータリーの方はもちろんたくさんの方からいい影響を受けたりするので、留学させていただいてよかったなと思っています。

その後は、交換学生のグループであるROTEXの一員となって活動させていただいています。皆さんの前でお話しする機会をもたせてもらったり、留学し終えた後も自分の経験を生かしていろいろな活動に取り組む機会を与えてくださっているロータリークラブとロータリークラブの皆さんには、本当に感謝の気持ちでいっぱいです。

活発な青少年交換プログラム

三宅 池田さんが派遣されたアイダホ州は、10年ぐらいの間、当地区とずっと交換を続けています。

青少年交換プログラムは1920年代の後半にすでにヨーロッパおよびアメリカで始まっていて、正式にRIで承認されましたのは1970年代になってからです。現在、8000人ぐらいの交換があり、世界じゅうのロータリアン150人に1人ぐらいの割合で交換されています。現在、日本では300～400人に1人という割合で交換されています。これは、ロータリアンの子弟が参加できる唯一のプログラムです。もちろんロータリアンの子弟だけではなくて一般の人にもご参加いただけます。

このプログラムは、当地区では皆さん全員にかかわってもらっています。ご存じのように1人2000円の拠出をいただいて、来日した学生に1人80万円の補助をクラブに対してさせていただくことになっています。

当地区で交換があるのは、アメリカ、アルゼンチン、オーストラリア、オーストリア、カナダ、ドイツ、ニュージーランド、フィンランド、ブラジル、フランス、ベルギー、ロシア、ハンガリー、ノルウェーなどです。

1999～2000年度には、12名の高校生が派遣学生

として選ばれています。

中委員長が就任されてからは、海外に出ていく子どもたちに熱心にオリエンテーションをしています。日本に関する知識はもちろんのこと、留学してからの心構え等を、ROTEXの諸君にもお手伝いいただいて、年6回のオリエンテーションを実施しています。

海外から来日する学生もすでに決まっていて、大阪東南クラブでは、1月に来日したブラジルの女の子をお預かりしています。8月には12名が来日する予定です。来日した学生たちにも、二泊三日の泊まり込みで日本についてのオリエンテーションをやったり、集中的に日本語を勉強させています。

短期の交換もやっていて、夏休みを利用してお互いに相手のロータリークラブと交換を行っています。今年の夏休みには6人の短期の派遣を計画しています。派遣先はアメリカ、イタリア、ベルギーを予定しています。

青少年交換委員の各国間の連絡については、国際大会の開会式の前日、前々日の2日間にわたって、世界じゅうから集まってきた青少年交換委員の皆さんと交換について話し合いをもっています。

また、国内では年に1回、全国の青少年交換委員長が集まって会議を開いています。

奉仕活動を活発にするポイント

笹井 国際交流・平和委員会は字のとおりで、世界の国々のロータリアンと、またその家族と仲良くしていただき、奉仕活動を活発にするため、次の5つの事項についてPRをしていきたいと思っています。

1. 国際大会への参加依頼
2. シスタークラブ、友好クラブへの締結
3. 友情交換
4. 趣味・職業別親睦活動への参加依頼。
5. 世界平和

1. 国際大会への参加依頼

今年度の国際大会は、シンガポールで6月13日

から16日まで行われます。来年度(2000年)は6月4日から7日で、アルゼンチンのブエノスアイレス、2001年度はアメリカ・サンアントニオ、2002年はヨーロッパということになっています。2003年は豪州となっています。2004年が日本。大阪地区、京都、和歌山、神戸、合同で開かれます。そして2005年が100周年ということでシカゴになっています。国際大会には、ぜひ参加していただきたい。その際、バナーなどを持って行って交換していただきたいと思います。

2. シスタークラブ、友好クラブへの締結

現在83クラブ中17クラブが、まだ未締結のようです。できるだけ締結していただいて、WCS等にご活躍いただきたいと思います。現在いちばん多くやっておられるところは、台湾が25クラブ、アメリカが20クラブ、韓国が20クラブ、オーストラリアが11クラブ、フィリピンが10クラブ。あとは5クラブとか4クラブに落ちています。2660地区のクラブとしては、21カ国とシスタークラブ契約を結んでいます。

3. 友情交歓

シスタークラブ契約をしていただくと、相手の国とシスター契約をしているロータリアンの家族のところへボランティアみたいな感じで泊めていただくとか、本人同士の話し合いで、家族と一緒に日本へ来てもらったり行き来をするということだけで、別に費用は全部自分たちで持つことなのです。

地区対地区と個人対個人の二つの方法があります。地区対地区はいまのところあまりやっていません。個人でやっているのは、友好シスタークラブをやっておられたら皆シスタークラブ契約をやっておられるところの家庭等へお泊まりになったりと、自然とそういう行いをやっておられるのではないかと思います。

4. 趣味・職業別親睦活動への参加依頼

当地区でもスキー、ゴルフ、無線、ヨット等が非常に多く入っておられます。ヨットの場合は、いま淡路島のクラブの方がやっておられます。大

阪、和歌山、神戸、そして今度は北海道にもクルーができました。

日本ロータリーゴルフ親睦大会というのがあって、6月には北海道、4月、9月には東京、1月には沖縄で、大阪大会も2年に1度開催していますので、ぜひまたご参加ください。

5. 世界平和

最後は「平和」です。7月の委員長会議のときに、平和についての小冊子を皆さま方にお配りしたしたいと思います。

平和について、私たちがいちばん大切にしたいと思っているのは、第一に家族との強い絆で平和をまず築いていかなければいけないということです。そして、近所の人、それから地域社会、そして職場、それから国際的に平和を築いていくのではないかと思います。

われわれが国々を近づける一つの方法は、国際交流プログラムに参加していただくことです。青少年交換、GSE、友情交換、そしてロータリー財団、その他のプログラムに参加することではないでしょうか。海外のロータリー、パートナーと提携する世界社会奉仕プログラムは、世界社会に貢献する重要な方法でございます。

2月23日のロータリーの創立記念日を「平和の日」と位置づけて、またその1週間を「平和週間」としています。どうか2月には世界理解と平和について、フォーラムまたは卓話をしていただくようお願いします。

山中 当財団の中で、奨学生は、財団で集めたお金の60%を3年後にこの地区で何に使うか選択ができます。60%というと現在約60万ドルぐらいです。そのなかで、来年度も人道目的に13万5000ドルの予算がとられました。3万5000ドルはポリオプラスにお使いになるそうですが、10万ドルほどがほぼこのWCSの目的に合致します。そのなかに3万ドル、いわゆる1件3000ドル、10件分3万ドルの予算があるのが調査費用です。ぜひとも申請して利用していただきたいと思います。

ベトナムで実を結ぶ、奉仕活動

米田 (大阪平野) ベトナムは戦争が終結して24年になりますが、社会的にも数多くの問題が山積みになっています。貧困と飢餓、劣悪な環境、社会情勢のなか、明日を背負って立つ子どもたちが、何とか教育を受けて成長する必要があるだろうということで、ベトナム訪問への私たちの里親制度が始まりました。

まず、大阪平野ロータリークラブでは、WCSについては、行動を伴う愛のある奉仕を、というのが基本になっています。1984年、85年にタイのロータリークラブと姉妹締結をさせていただいたのを機会に、毎年WCSの活動をタイで実施してきました。特に目の不自由な子どもたちに9年間、眼鏡を贈呈しました。黒板の文字さえ見えなかった子たちが、「新しい世界が広がった」と泣いて喜んでくれ、私たちもものすごく感動しました。

小さな奉仕に参加した会員一人ひとりが、本当にすがすがしい気持ちにまずなったということ。喜びを逆に与えられたということをいま覚えています。

その支援が9年続いて10年目に入るときに、このへんで一度、発掘調査支援をしようということになり、ベトナムに目を向けてみました。そこで96～97年に、貧しいベトナムの人々への人道的支援の活動と実施を掲げて、“Love on School”（愛のある学校）での支援をベトナムで開始しました。

97～98年、同じくベトナムの12名の大学生に奨学金を贈呈しました。そして、98～99年、フォスターペアレントに入ってしまったわけです。このときにいちばん嬉しかったのは、私どものクラブの参加者の中から、次年度は一人ひとりフォスターペアレントとなって、ベトナムの恵まれない子どもたちへの経済的な支援活動を実施してはどうだろうかという、自発的な沸き上がりがあったこと。現在の国際委員長が委員ともども企画立案を進めました。最終的には私どものクラブがいま51名。38名のフォスターペアレント、78名のフォスターチャイルドがいます。6月15日、タイで式典をさ

せていただくことになりました。子どもたち一人ひとりに手を差し伸べて、感動して帰ってきたいと思っています。

まず、各人ができる奉仕活動から

三宅 いま世界で非常にアンバランスが起きております。例えば、1950年には西ヨーロッパとアメリカと日本が全世界の人口の22%を占めていました。現在は、それがわずか12%に過ぎません。21世紀の中ごろになりますと、先進国が7%か8%になるといいます。これは大変なことです。

しかも現在、豊かである国、12%のうちの10%が世界の富の90%を占めています。このアンバランスはどうなるのだろうか。これも大きな国際的問題だと思います。

まず日本でも、たくさん子どもが生まれなくてはいけないわけですが、皆さんのお子さんにでも言っていただきまして、大いに富める国の人口を増やしていただきたい。そうしなければ将来、非常に国際的なアンバランスができと思うのです。

ロータリーの国際奉仕というのは、素晴らしいプログラムです。私も担当を何年かやりましたが、どうぞ皆さん、来年度は各クラブで本当にできるだけの奉仕を皆さんでしていただきたいと思います。

山中 2004年の世界大会は関西で開催されます。大阪だけではなく、4地区でやります。おそらく閉会式も大阪で開催されるのではないかと思います。会場をはじめ、輸送のことなど問題は多々あるのですが、これも国際奉仕の一つです。また何かとご協力いただけますようお願いいたします。

個人の奉仕活動のバックアップを

大西 (北梅田) 国際奉仕は個人的に、私自身やっていることと非常に重なるところがあります。昨年11月に初めてフィリピンへ行って、そういう子どもたちの実態を調査してきています。東南アジアにおける子どもたちの人身売買や少女売春がいま現実に行われています。そういう恵まれない

少女、特に5～6歳から15歳までの少女を救おうというカスパル (CASPAR: アジアの児童買春阻止を訴える会) という支援団体があります。そのカスパルを、私も微力ながら2年前から応援させていただいています。この4月7日に大阪府からNPO非営利事業団体の認証も受けて、いま現在、活動しているわけです。

そういったことを所属する北梅田ロータリークラブのフォーラムで取り上げていただいたのですが、プロジェクトが大変大きすぎると。クラブとして取り組みはできないけれども、会員個人で支援していきましょうということになり、意のある人はいま支援をしていただいています。

個人的に活動している支援について、この国際奉仕部門でどのように取り組み、またご相談していけばいいのか、これからいろいろお知恵を拝借したいなと思っています。

ロータリー財団部門

討論リーダー	パストガバナー	菅生	浩三	(大阪北)
	サブリーダー	執行	経世	(枚方)
	サブリーダー	奥	嘉隆	(交野)
	サブリーダー	松岡	茂雄	(大阪鶴見)
	サブリーダー	岡本	健治	(大阪東南)
	サブリーダー	宮田	宏章	(大阪北)
	サブリーダー	簡	仁一	(茨木)
	サブリーダー	大谷	透	(大阪西南)



財団が大切な理由

菅生 今朝方も柏木さんから「財団はわかりにくい」というお話がありました。私にとっても、皆さまにとっても同じだろうと思います。だから、お互いこういう討論会をやって少しははっきりさせる必要があるというわけです。また「本格的なセミナーを」というご用命ですので、10月23日には時間をかけてみっちりやる予定でございます。

さて、なぜ財団がそんなに大切なのかと申しますと、ロータリーの成立と深く関わっているからです。

ロータリーは、4人の男の考えと行動から出発しました。いちばん初めが、ご承知のようにポール・ハリスという人です。この人は、人間愛のない生活に幸せはないという信念で人生を送った人で、ロータリーをつくった“the first rotarian”でございます。

ところが、人間愛といっても、それ自体は非常に主観的なとらえにくいものです。1908年に彼は2人の友人をシカゴクラブに引き入れますが、その1人アーサー・フレデリック・シェルドンはハリスに、人間愛は大切なことだが、それだけでは世の中に訴えていく力がない。やはり理論の支えが必要、ということを行いました。そして、人間愛をもっと具体的に「人間は人のために働くということに本当の幸せがある」と表現しました。主観的な気持ちに、社会的な裏付けを与えたわけですね。

それでできたのが「サービスの理念」です。サービスというのは人のために尽くすということで、

ロータリーというのはそのためにあるわけです。ただ日本では、大正時代「奉仕の理想」と誤訳してしまい、いまだにそのままですが、ちょっと違うと思います。“the ideal of service”という原語をそろそろちゃんと理解したほうがいいと思います。

もう1人は、事務総長として30年間務めたチェスリー・フェリーです。われわれはルールに基づいて行動しているわけですが、こういう仕組みをつくったのがこの人です。定款の最初の部分をつくったし、クラブだとか、地区だとか、国際ロータリーの組織だとか、規定審議会だとか、平和会議だとか、もう全部、今日の手続要覧に書いてあるようなことをみんなつくりあげたのです。

夢と志

しかし、これだけならロータリーは偉大なるボランティア組織にとどまったわけです。それを現在みるような組織にしたのが4人目のアーチ・克蘭フという人で、ロータリーができて12年後、財団を設立し、これにより、財政的な運営とサービスの基盤が確立したのです。そんなわけですから、財団に関わる人は、「ロータリー自身の基礎作業をやっているんだ」という認識のもとで仕事をしていただきたいと思います。

今日のロータリーは非常に大きく、細分化も進んでいますが、その原点には「夢」があります。「夢」は英語では dream ですが、両者の意味するところはやや違います。日本語で「夢」というと、あまり現実性がないととられがちですが、

dreamは具体的な実現性をもっています。しいて訳せば「志」のほうが近いかもしれません。レイシーさんは、ロータリーは4人の男の「夢」によって出発していると言っていますが、その「夢」は「サービスという思想を持って、人のために働いていく志向」ということでしょう。

こんどのラビッツァさんは、“Consistency, Credibility, Continuity”とおっしゃいましたが、これも「夢」について言っておられるわけです。だから歴代のRI会長は同じことを言っているのです。夢に固執しなければいけないというのが consistency、その夢が社会から信じられるものであるというのが credibility、そしてcontinuityは、その夢をどこまでも追いつづけなければいけないということです。われわれはその意図を正しく酌まなければいけないと思います。

さて、この財団委員会には7つの小委員会があります。「情報」「増進」「国際親善奨学生」「学友」「GSE」「人道的支援」「ポリオプラス」ですが、これらはそれぞれ、財団の機能に対応しています。

財団には、まず原資がいりますね。だから、寄付していただかなくてはならない。アピールを行って寄付を促進することが必要です。で、集まったお金を今度はいろいろなプロジェクトに使うわけですが、その使いみちが3通りあります。第1が「教育的プログラム」で、奨学制度等で教育に貢献する。第2は「人道的プログラム」で、世界の飢餓や貧困に苦しむ地域に援助を行う。3番目が「文化交流プログラム」で、異文化同士交流しあって理解を深める。だから、7つの小委員会は、情報、寄付集め、3つの用途に対応しているわけです。ちなみに来年度からは、あまり細分化しないほうがいいのではということで、小委員会の合同が図られています。

では、各小委員会の方々に報告していただきます。よろしくお願いします。

本年度の事業計画

1.情報について

宮田 実は今年度、財団の大ベテランの増田 鼎さんが急逝されまして、来期は私の担当ということで、現在ファイルを一生懸命読んでいるところでございます。頼りない委員長でございますので、ご支援のほどお願いしたいと思います。

菅生パストガバナーのおっしゃったとおり、「情報」と「増進」は密接な関係を持っており、私たちも財団増進委員会の方々と連携しながら、各クラブの財団委員長委員会を通じて、ロータリー財団に対する理解の浸透をはかっております。

本年度の事業計画としましては、まず、パストガバナーもおっしゃいましたが、「財団セミナー」を10月23日に予定しております。これはまったく新しい企画で、寄付の促進の一助となるよう、最大の努力をはかりたいと存じております。また、「クラブ財団委員長会議」を、皆さま方に集まっていただきまして年2回開催する予定です。各地区の財団委員長に委員会の動きを説明してご理解をいただく会議になると思います。

私たち自身も、財団増進委員会との合同委員会を随時開催して、情報交換に努めます。さらに、IMの活用もはかり、皆さんに向けて財団の新しい情報をどんどん流していきたいと思います。

これらにくわえ、財団情報委員会では、毎年やっておりますアンケートを来年度は2回実施したいと思っております。まず、来年度早々に、今のこの期の結果について実施します。内容は、年次寄付の地区実績、ベネファクター人数、ポール・ハリス・フェロー表彰を受けたり申請手続きをした会員の数などです。こういうアンケートを7月早々にお出しします。もう一つのアンケートは、11月の財団月間がいかに有効に使われたかを調べ、今後の資料にもいたしますので、それについてお願いしたいと考えております。

2.寄附増進の計画

執行 各クラブのご協力を得て財団の寄附の増進

をはかる立場といたしまして、来年度財団のことを引き受けて下さる皆さま方には、まずお礼を申し上げたいと思います。

地区の年次寄附の目標額は68万ドル、1人当たり145ドルです。財団の基金へ1000ドル以上積み立てますと、ベネファクターという称号をいただくわけですが、これは各クラブ1名以上が目標です。これらは、ここ3年ばかり変わっておりませんが、来年もよろしくお願いします。

ご参考までに、今年度につきましてはお手元の「RI財団寄附一覧表」をごらんください。これは今年4月30日に私どもの手元に届いた英文を訳したものです。

いつもご質問を受けるのは、最初のところにある会員数ですが、これは実は、1998年つまり昨年1月1日のクラブの人数なのでございます。同様に、今年の1月1日の人数が次年度の寄附のクラブの人数になります。したがって、実情とは差がありますが、どうかご了承いただきたいと思います。

実際、昨年1月1日と比べるとメンバー数かなり減少しているクラブもあり、1人当たり145ドルという数字は実情に合わないこともあるかと思えます。そこは、アメリカとの間のレートの変動や日本で数字を直したりすると余計に混乱する等の事情がありますので、「当クラブはこれだけやっているのに数字がおかしいじゃないか」という話も毎年いただくわけですが、私どもではこれはあくまでこの表を基本としていることをご理解いただきたいと思います。

さて、年次寄附の実績について申し上げますと、この3月末で59万6309ドルとなっており、目標の68万ドルに達していません。昨年は3月末ですでに目標の100%を超過していたことと比べると、非常に厳しい状況であるといえます。それでも目標の87%には到達しておりますので、どうぞ皆さま方、クラブにお帰りになりましたら、今年度の目標をなんとかクリアできるよう、クラブの皆さん方にいっそうの奮起をお願いしたいと思っています。

る次第でございます。

3.奨学生委員会から

奥 当奨学生委員会は、私の記憶ではほぼ50年に達するのではないかと、歴史のある制度なのですが、50年間に時代も大きく変わりましたし、今後の奨学制度のあり方を、9人の委員さんと一生懸命、勉強していきたいと思っている次第でございます。

本年度、従来と変わった点は、財団学友会の委員会との共同でのお仕事をたくさん持つようになったことでございます。

あらましを申し上げますと、来年の夏に出発する奨学生の試験を現在、行っているわけですが、そこで合格した人は3回のオリエンテーションを受けます。そのオリエンテーションを、財団学友会さんと共同でやらせていただくわけでございます。従来は、奨学生委員会と財団学友会で2種類のオリエンテーションを実施しており、重複もありました。両委員会が一緒に仕事をし、さらには一つの委員会となっていくのは、予算や時間の節約になり、非常にいいことだと思っております。

さて、きょう財団の皆さん方をお願い申し上げたいのは、まず、財団奨学生の募集の件でございます。11月ごろにはポスターの配付を始めますが、クラブによっては事務局に放ったらかしのままであるとか、全然ポスターが掲示されなくてどこにいったかわからないとかいうようなことで、せっかく奨学生が応募してきても十分対応できないケースがかなりあります。何といいましても、クラブからの奨学生はそのクラブの親善奨学生でございますから、地域を代表していただくわけですね。そのように非常に意義のある制度ですので、ひとつ担当の皆さん方の心意気で、新年度が始まったら委員会報告等を利用して、奨学生の募集を各会員さんに呼びかけていただきたいと思います。この次第でございます。

奨学生の選出については、最終的には12～13名の選考委員で決定をいたしますが、同点で同レベ

ルの候補が何人かいて、そこから1人選ぶとなった場合は、まだ奨学生を出していないクラブを選ぶようにしておりますので、ひとつ自分のクラブからは何人出ているのかよく調べていただきまして、もしまだでしたら、自分の担当のときにぜひ奨学生を出すという意気込みで会員さんに呼びかけていただきたいなと思います。

4. 学友国際親善奨学生について

簡 国際親善奨学生やGSEは寄附金をもとに運営されていますが、プロジェクトに参加しても、帰ってきたらもう何の関係もないということでは、ロータリーの発展につながりません。そこを何とかしようということで作られたのが、学友委員会です。

先日、京都で催されたアジア大会の夕食会で、財団学友によるミニ・コンサートが行われました。その時、RIのバース会長が講演をされたのですが、そこでは、ロータリーのサービスにも give and takeという考え方を持たなければいけないというような話をされました。プログラムに参加してもらったら、それを還元してもらおう考え方も必要ではないかという意見だったので、ご紹介しておきます。

それでは本題に入ります。現在、国際親善奨学生のOBは、留学中の奨学生を含め 360名います。またGSEでは、今回までで約90名近くを派遣しています。合計で約 450名のメンバーがロータリー財団の学友会におりまして、そのなかにはカンボジアで亡くなった中田厚仁さんなど、いろいろ活躍されている方がいらっしゃいます。また、昨年には、松下電器で定年になられて、JICAの技術指導員としてマレーシアに行くことにしたという元奨学生の方がおられました。ロータリー財団の制度がいろいろなところで実を結んでいることがわかります。

11月のロータリー財団月間では、留学から帰ってきたばかりの奨学生たちにそれぞれのクラブに卓話に行ってもらい、皆さんに少しでもロータリ

ー財団の奨学制度を理解していただくようにしております。奨学生を推薦されているスポンサークラブの方には、帰国時のスピーチをお聞きのことと思いますが、奨学生を推薦していないクラブの方は、ぜひ地区のほうに言っていただければ、11月に限らずいつでも奨学生のOBの方を卓話に行かせていただきますので、お申し込みをいただきたいと思います。

最後になりましたが、ロータリーの財団学友会は、新しい委員会で地区予算の配分が少ないため、毎年、奨学生を出したスポンサークラブに1名につき2万円の寄附をいただいてPSC (Past Service Club)を運営しています。次年度も合格者のいるスポンサークラブの方はよろしく願いいたします。

5. 研究グループ交歓について

松岡 GSEは「研究グループ交換」ということで、文化交流プログラムの目玉でございます。訪問団がガバナーの代理として相手の地区を訪れるという、ロータリーとして非常に重要な役割の事業であります。

団長と、男女を問わず25歳から35歳まで専門職業人の方を4名以上選びまして、お互いの地区に派遣します。各団員は、社会、文化、教育、医療など、各自の専門職業に応じた職業研修を1週間に1日の割で勉強します。本年度は、カナダのオンタリオ州とGSEを行っております。

この交換に要する費用のことを簡単に申し上げますと、皆さま方がロータリー財団にご寄附いただきましたお金のうち60%が、3年後にDDFという形で地区に戻ってきます。これを利用いたしまして、もっと大きな団を編成することもできますし、特定分野の人でかためた団を送るとかもできますが、当地区ではとりあえずのところ、いちばんオーソドックスなものをやっております。

従来、当地区は2年を1単位として往復の交換を行っていたのですが、数年前より、単年度の交換でなくては相手地区が見つからず、交換を1年度内でやってしまいますので、皆さま方へのお願いも

頻繁になっております。皆さまのお力をお借りする事業ですので、その報告書は、この2年ほど全員にお配りしております。また、インターネットの当地区のホームページにも、派遣したチーム、向こうから来たチーム、両方の報告書をすべて掲載しており、これは世界各国から反響を呼んでおります。

次年度は、イングランド北東部のダラムというところと実施します。派遣と受け入れと両方のサイドがあるわけですが、受け入れのほうは来年度、当地区の地区大会への出席を前提に、5月5日に到着し、6月4日に出発する4週間を考えております。これについて、皆さま方へのご協力をお願いいたします。派遣については、然るべき方をご推薦いただき、受け入れのほうはホスト家庭の立候補を、どうかお勧めいただきたいと思います。

6.人道的支援について

大谷 人道的支援は1997年に新たに始まったものです。奨学生支援は、ロータリー財団ができたところからされており、いまでも発展途上国のロータリーではDDFのほとんどを奨学金に使っております。しかし、先進国のロータリーは、だんだん、人道的目的にシフトされつつあり、私たち2660地区も3年前始めたわけでございます。わかりやすくご説明したいと思いますが、ここで皆さま方にぜひ、財団のWF（World Fund）、DDF（District Designated Fund）という言葉覚えておいていただきたいと思います。

われわれが、たとえば今年度100万ドル寄附をしたとします。そうすると3年後にはDDFとしてその60%の60万ドルが返ってくるわけですが、あとの40万ドルはWFとして国際ロータリーにプールします。それは各世界社会奉仕とか、GSEなどに使われます。同じ財団の人道的目的ための資金源にもいろいろあるわけで、その請求方法には「同額補助」「3H補助」「カール・ミラー」「ヘルピング・グラント」「人道的補助委員会」「ロータリーボランティアのための補助金」等々、さまざまな

方法があります。

私たちとしては、これらの制度を利用し、インド、フィリピン、カンボジア、バングラデシュなどアジア各国に対し、援助を行ってきました。

たとえばバングラディッシュでは、非常に立派な仕事をしているクリスチャン系の病院がありまして、そこには手術台とか、无影灯などを主体とした4万ドルばかりの医療器具を寄附しに行っていたのですが、だいたい2万ドルを使いました。

インドの3040地区では、向こうにある43のクラブからそれぞれお金を寄附させて、その地区のいちばん貧しい学校に机を100個ずつ寄附するというプロジェクトがあり、それにぜひ乗ってこれということで、協力いたしました。当初は2万3000ドルぐらいこちらが出したらいいということで、今年度の初めからずっとやっていたのですが、いつまでたっても返事がこないの、どうなっているのかなと思っていたら、向こうのほうでお金が集まらないということでした。私たちのほうでもいろいろ対策を講じた結果、プロジェクトは動いております。

他の例も含め、簡単にはいかない問題に多く遭遇していますが、その手続きをよく理解すれば皆さん方のクラブでも、いろんな形で援助を行うことができます。各WCS(World Community Service)の方から、こういう使い方があるんだということを宣伝にいくと思いますので、そういったこともよくご理解いただければと思います。

7.ポリオプラス委員会について

小林 ポリオプラス委員会の岡本委員長が、本日、所用で欠席でございますので、私が代わって説明させていただきます。

ポリオというのは、ウイルスが脊髄を侵しまして、機能の障害が起こるという病気でございます。ウイルス感染でありますので、弱毒のウイルスの生ワクチンを投与すれば、免疫が得られます。わが国では、1960年から1961年にわたり非常なポリオの大流行が起こりまして、社会問題になりました。

たが、それ以後、生ワクチンを一斉に投与することにより、1980年代以降患者が発生しなくなっております。しかし、本年4月に施行された「感染症新法」では依然としてポリオを危険な感染症に位置付けており、世界には今も、ポリオの発生に悩んでいる地方がかなりたくさんあるのです。

国際ロータリーでは1985年に「ポリオプラス」という新しいプログラムを創設し、ポリオワクチン接種のための募金活動に着手しました。これは、麻疹、ジフテリア、結核、百日咳、破傷風の5つにポリオをプラスして、これらの病気を同時追放することを目的としたWHOなどのプロジェクトと連携したものです。1988年、世界保健協議会は、西暦2000年までにポリオを撲滅する目標を制定しましたが、ロータリーでも同じ目的のもと、ロータリーの創立100周年にあたる2005年までに、このポリオ撲滅を証明することを優先課題にしております。ロータリーは2005年までに5億ドルにのぼる寄附をすると言われており、さらに数十万人のボランティアを動員して、地域の予防接種やポリオ撲滅プロジェクトを支援しております。

この結果、国際ロータリーがポリオプラスを開始した1985年には、患者の届け出ゼロの国は85カ国しかありませんでしたが、1997～98年には160カ国と倍増しております。地球の西半球に限れば、ポリオはもう撲滅されているわけですが、先ほども言いましたように、アフガニスタン、パキスタン、インド、ナイジェリア、コンゴなどいくつかの国では、患者が出ています。また1996年に、それまでポリオ撲滅地域と言われていたアルバニアで、突然100人の患者が出たケースがございます。ポリオウイルスは国境など関係なしに飛んでいくので、完全に根絶されない限り、無発生地域に再び持ち込まれる可能性があり、ポリオプラス計画は、ポリオウイルス撲滅まで継続遂行されなければ意義を失うというわけでありです。

WHOはポリオ撲滅のために、1999年から2005年の期間に10億ドル以上が必要であると推計いたしております、この資金ニーズは1999年から2000

年に最大になると報告いたしております。私どもポリオプラス委員会としましても、これを看過することなく、何らかの協力を考えないといけないのではと思っております。

米山奨学部門

討論リーダー	パストガバナー	中野 董夫	(大阪阪南)
	サブリーダー	三好三郎丸	(大阪天満橋)
	サブリーダー	平田啓治郎	(大阪西南)
	サブリーダー	酒井 宏	(大阪南)
	サブリーダー	中澤 章好	(大阪住吉)
	サブリーダー	小竹 靖二	(大阪中之島)



米山奨学会の理想と現実そして問題点

中野 日本にロータリーを導入した米山梅吉という方の功績を顕彰する意味で奨学金制度をつくったのが米山奨学会の始まりです。

最初は東京クラブだけの事業でしたが、その趣旨に賛同した国内全クラブが、合同事業としてロータリー米山奨学委員会を結成しました。1957年のことです。1958年の新学期から8名の奨学生を採用しました。これは日本だけの事業ですが、ロータリーの精神からいって、世界に誇れる制度だと思っています。

発足したときには、ロータリークラブがある国からの留学生が対象でした。しかし後には、かつてロータリークラブのあった国も含めることにしています。ただしロータリークラブのある国とない国とが同等では不公平だから、ロータリークラブのない国は制限をし、全体の15%、年に7%ぐらいの採用にしました。しかしこれも昨年の募集からやめ、制限を一切はずすことにしました。

ロータリー米山記念奨学会は、いろいろな国との大使役を務めて、一年ないし二年の援助をします。しかも普通の奨学金と違い、各クラブに世話役がつきます。さらに月に一回、クラブの例会出席を義務づけることになっています。ただ金をもたらうだけの留学生とは違って、日本における文化や社会の仕組みについて正しく理解されることを期待しているわけです。

米山奨学金は、できるだけ多くの国々の多くの方々を奨学生に採用したいのです。全国組織になった当初8名から出発しましたが、昨年から1100

名になりました。今年も1100名です。昨年の募集から制度を改め、直接募集から大学推薦としました。今までは書類審査で絞っておりましたが、一次の書類審査という手続きを大学にお任せしたことになります。また各地区の奨学生の数には決め方があり、米山奨学会への寄附金一人の平均額がひとつの指数になります。奨学生1100名のうちの6割は、その平均額に比例して分けます。残りの4割は、これまでは応募してきた数で比例配分していたのですが、あらかじめ大学に推薦をお願いすると、応募者の数は出てきません。そこで在学留学生の数で比例配分しました。現在この制度は試行中です。いろいろ問題がございましたら、ご指摘いただきまして、理事会で反省を加え、改めるべきところは改めていくつもりです。

次に問題になりますのは、各クラブで合格者にカウンセラーをつけ、学生のお世話をお願いしなければいけないことです。奨学生たちの国と日本との違い。文化の違いは実際に接してみますと、意外に大きいものです。初めは驚いて、理解できないところがあると思いますけれども、お互いに知らない文化を知ることですから、決してマイナスにはならないと思います。それから「過去に留学生を預かったけど、ひでえやつがきて、えらい目にあった。もうごめんだ」というクラブも時々あります。過去にそのようなことがあったのは事実です。特にある国の留学生は、日本で援助してもらったけど、国に帰ってそれを知られると、出世の妨げになるということがあったようです。しかし今はそのようなことはなくなりました。いや

な経験を昔なされたクラブも、印象を直して欲しいと思います。

また「日本に來ている留學生は、その国の恵まれた子供でないと日本に來られないんじゃないか。貧乏で日本に來れない優秀な學生がいるはずだから、各国で推薦してもらって、その人たちにお金を出したほうが有効ではないか」という議論もあります。しかし日本全国で1100名の米山奨學生を、もし外国から直接推薦をお願いするとすると、旅費なども考えねばいけません。いま支給しているのは、日本における生活費だけです。そこから旅費を差し引くと、奨學金を与えられる総人数が減ってしまうことが問題です。それからどの国にどれだけ割り当てるかという問題もあります。すでに日本に來て、日本語のできる留學生のみを対象にしている現状ですが、でないと各クラブにお願いしたときにカウンセラーと意思のやりとりができません。海外から直接呼ぶとなれば、信頼のける日本語の試験ができる制度もつくらねばならないでしょう。試験官をどうするかという問題もありますね。今の米山奨學制度の規模でどれだけのことができるかは問題かと思います。

奨學金制度について

奨學金制度については、以下の種類があります。昔はDY (district Yoneyama)という制度がありました。ガバナー推薦制度ですが、現在はクラブ推薦はなくなりました。

●学部奨學金YU

学部3～4年対象。医学系（医学部・歯学部・獣医学部）は6年制度のため、最後の二年間（5～6年）が対象です。

●大学院奨學金YM・YD

・YMは大学院の修士課程対象です。大学院5年間の内、最初の2年間のことですが、今は修士課程ではなく、前期博士課程という呼称が普通かと思います。前期だけしかない大学では、修士課程という呼称のままです。

・YDは後期博士課程あるいは大学院博士課程が

対象です。医学系には修士課程はなく、ドクターコースしかありません。通常の大学院の博士課程は3年ですが、医学系は4年ありますので、最後の二年間が有資格となります。最終年度だけでもいいわけですが、その場合は一年間しかもらえません。

●クラブ米山奨學金CY

世話クラブが、後一年以内に博士号の取れそうな奨學生を、奨學金支給期間が過ぎても引き続いて世話したいとクラブが望むときの制度です。指導教官が認め、クラブの理事会での決議が必要ですが、奨學會とクラブとで半分づつ費用を負担することができます。

●特別米山SY

・SY-1…受け入れ団体が決まっておりますので、当地区ではありません。

・SY-S…日本で博士号を取得した人たちが研究者になって、もう一度日本に戻ってきた研究者の短期研修に対するものです。

・SY-J…日本を研究している研究者が対象です。

・SY-AのAは alumni(同窓会・校友会)で、そこから選ばれた研究員。こういう方々の制度もあります。

奨學金は、大学院生で15万円、学部生で12万円を支給します。各クラブには奨學生を月に一回招待してもらいますので、食費として一回について2500円として、一年分の3万円をお渡ししています。またカウンセラーの方にも、奨學生とお茶を飲むときの費用として2万円を支給します。それから奨學生には、国内旅行用・研修用として、奨學金とは別に5万円を渡してくださるよう、お願いしています。

寄附金委員会について

平田 寄附金委員会の要望としては、普通寄附金5000円と特別寄附金1万5000円、合計2万円の寄附金について、83クラブ、インターシティミーティングが開催されるところで、各委員が割当て5

分間の時間をいただきまして、お願いしております。

■ 昨年(2019)の12月末も、たいへんな経済情勢ではありますが、本部から送ってきた実績によれば、普通寄附金で1483万3000円、特別寄附金で6619万6000円、合計8102万9000円の寄附金を上半期いただいております。会員数が12月末現在5292人ですから、1人あたり1万5311円。全国34地区の第2位です。ちなみに1位は1650地区です。これを1人あたりにしますと、全国第3位となります。不況にもかかわらず、ここ数年間、常に2位から3位となっております。

2660地区では、米山奨学生も過去の累積で450名にも達しています。通算で843名のお世話させていただいております。これも皆さん方のご寄附による賜物です。

■ 米山の場合は奨学金ですから、免税制度が適用されます。ぜひご利用いただきたいと思います。3万円以上からの適用ですので、ご寄附をいただきますと、3万円以上については本部から自動的に領収証が発行されることになっています。それ以下のご寄附の場合、トータルで3万円以上となっても、一単位が1万円のために領収証がもらえません。そのような場合には、本部に請求していただければ、領収証を発行いたします。

奨学生の募集と選考について

■ 酒井 今年度、奨学生に採用された留学生の数は27名です。その内、男性が13名、女性が14名となっています。

■ それぞれの出身国を分けてみますと、韓国14名、中華人民共和国8名、台湾2名、インドネシア、香港、ウクライナが各1名という内訳です。さらに専攻別で見ても、医学専攻が4名、歯学専攻が1名、教育専攻が4名、文学専攻が3名です。大学の専攻分野は、このところ接近している部分がありますから、どのように振り割るべきか分かりにくい部分もありますが、社会学分野専攻が4名、理数系(理学部、数学)専攻が6名以上

と、それ以外となっています。

学校別に見ますと、大阪大学が21名で大きく偏っておりまして、大阪市立大学が2名、関西大学が2名、ほかに大阪教育大学が1名、外大が1名となっております。

■ またこれから始まる年度の選考のスケジュールの概略は以下の通りです。

申し込み期間は今年10月1日から10月7日までの1週間。それと同時に選考する委員の人選を行い、専門委員として文科系、理工科系、医学系それぞれ2名の方々にご参加いただきます。それぞれ専門分野のロータリアンをお願いして、委嘱を申し上げるわけです。一般委員としては、ガバナー、ガバナーノミニー、地区の米山奨学部門の担当パストガバナー、地区の米山奨学委員長、副委員長、この6名で構成して、それを米山の本部へ提出し、了承をもらいます。11月の末ごろには、地区の選考委員会によって応募者の書類選考をします。書類選考も、専門委員と一般委員とそれぞれによる書類選考会議をもちます。そして来年の2月3日に面接のための会議を開催し、2月6日に面接試験を行う予定にしています。2月14日に最終的に可否を決める会議を行うことになっています。

奨学生委員会から

■ 小竹 奨学生委員会は、オリエンテーションやレクリエーション、また米山奨学生の修了者に対しての歓送会のお世話をするというのが主な仕事です。

■ オリエンテーションで、奨学生とカウンセラーあるいはクラブ全体とのお付き合いが始まります。私も3～4年前からお世話させていただいておりますが、特に米山奨学生はドクターになろうという人が多く、頭のいい、礼儀正しい人が多いと思っています。そういう人たちと触れ合うことによって感激がわきまして、奨学生のお世話をしてよかったなと考えております。ぜひとも皆さまにも感激を味わっていただけるようなお世話を、委

員長あるいはカウンセラーとしてやっていただきたいと思います。

学友会からの報告

中澤 学友会というのは元米山奨学生が組織する会です。修了してから、日本で就職したり、日本で研究をしている人たちが中心の組織で、機関紙も出しております。

主に2660地区は全国的な組織ですから、「学友会関西」という名称をつけています。大阪（大和川以北）・京都・福井・滋賀・奈良・兵庫を集めた組織です。学友会の大きな事業は総会です。今期新しく入られた奨学生の歓迎会も、そのとき一緒に行われます。

秋には学友会関西主催のレクリエーションがあります。それは毎年、行かれる場所が違いまして、去年は宇治・京都方面へ行かれたそうでございます。卒業された奨学生は優秀で、韓国ではガバナーになられた方もいらっしゃいます。台湾にも組織がございまして、台北ロータリークラブでは日本語で例会を行っていらっしゃるそうでございます。組織が大きくなって、喜ばしいことだと思います。

これまでの質問について

三好 過去の協議会あるいはいろいろなところで質問が出ました。過去の「質疑応答集」が残ってしまして、10年間ぐらいのものを要約していくと、一番多い質問は「なぜ韓国の学生が多いのか」というものです。米山本部に行ったり、いろんな資料を見て調べたんですが、過去には台湾の学生が多かったんですね。最近では中国で問題が起きておりますので、台湾の学生は日本を避けて、アメリカ、カナダ、オーストラリア方面に移っております。台湾の学生の数が減って、韓国が浮かび上がってきたということです。過去の累計の数字をみても、いまだに台湾の数のほうがはるかに多くて2500人ぐらい。韓国からは1500人ぐらいしかまだ来ておりません。今年から申し込みが大学推薦に

なったんですけれども、大学推薦になったら、どういうふうになるのかと思っておりましたが、やはり韓国の人が14名と多いですね。27名のうち14名ですから過半数を越している。中国が8名で、台湾はたった2人なんですね。だから、どうしても韓国が多い。しかしさすがに大学推薦で、優秀な学生ばかりです。大学の先生がはめておられました。「いまの日本にはこんな学生はもうおらん」とね。そういう人が何人かおまして、私も一緒にいろいろと質問に対する応答の方法、態度、マナーを見てましたら、優秀な学生が多い。それでちょっとうらやましいなと思いました。

それから二番目に多いのが「帰ったら、音信不通になる者が多い。便りもよこしてこない」という問題ですね。皆さんがせっかく浄財を寄附されて、それをもらった奨学生が帰ったら知らん顔ということで、あんまりやないかというご意見が多うございました。この点についても、また米山本部へ行って、お聞きしました。そうすると、まず帰国後の住所はいいんですが、どこかに移転すると、移転通知が来ない。外国の習慣かどうかしらんけれども、まず来ないとのことでした。

いままでに米山奨学生で卒業した学生はざっと8120何名。このうちの15%は学友会に通知がございません。25%は日本に在住しております。日本で就職しているんですね。ざっと60%が本国に帰ってますけれども、学友会には登録されているそうです。1000人ぐらいの学生は学友会にも記録がないので、学友会でもいろいろ手分けして住所を探しているそうでございます。

この間、アジア大会が京都でございまして、その分科会に出席しましたが、香港の学友会の人たちが中国とかそれぞれの国に、いま現在8000人余り出ているわけです。将来、これを何倍にもふやしていくと、それぞれのお国で、やがてはこの人たちがロータリアンになるわけです。またはロータリークラブをつくる。中には米山奨学生ばかりでつくったロータリークラブもできているそうでございます。そういう趣旨で、皆さんにいただ

いた奨学金に対する感謝の気持ちを持っている学生もおるわけでごさいますて、その人たちがそれぞれの国に帰って、実践しているわけです。だから百点満点はちょっと無理ですよ。どこの世界でも3~4割の人たちがいろんな活躍をされるんじゃないでしょうか。800人という数をもっと増やしていけば、その3~4割の人たちの数もどんどん増えていくわけです。その人たちが国際交流あるいは社会に対する貢献を実行してくれる。そういうものの見方もあるんじゃないかと思います。だからもっと大きな気持ちで、温かく見ていただきたいと思います。

2660地区の米山奨学金は、一年間に1億2600万円ぐらい集まります。地区の会計が1億円ちょっとですから、地区のお金よりも米山奨学金のほうが多いんじゃないかという声もよく出るんですね。それでも毎年、これだけのお金がどんどん寄付されている。これは日本のロータリアンとして直接、世界奉仕または青少年奉仕につながっているような感じがする。そういう意味で、米山奨学金の集まりがいいんじゃないかと私は思っています。

質疑応答

○質問

面接の件で質問があります。奨学生は面接をして人格をある程度評価をした上で、選ばれてくるわけですよね。でも実際にはロータリー活動に参加するのが、忙しくてできないという人が多かったんです。そういう点はちょっと残念に思いましたので、その点についてご配慮をいただければと思います。

三好 米山記念奨学会として行事に参加するのは月に1回ですね。「例会には最低でも月1回出席すること」は義務づけられておりますので、それに出てこないようですと、資格を喪失する可能性があります。それは厳密に言っております。例会に出てこない人は、過去に何人もいましたが、それは許していないんです。「例会には必ず出ること」です。それで具合が悪ければ、お互いに留学生と

クラブで、都合のいい日に出てきてくれという要求もできますが、それにさえも出てこないようでしたら資格に抵触すると思います。

私が9年前にクラブ米山委員長になりまして、同時にカウンセラーもやっているんですね。それで7人ぐらいの奨学生と接してきました。先ほどご質問があった、選考のときに「例会やいろいろな行事に参加せなあきませんで」ということは、皆さん、口を酸っぱくして言っておりますけども、それを果して実行するか実行しないかということは、面接のときにはわかりにくいですね。

私の体験でいきますと、やはり人柄ですね。人柄のいい人は、行事であろうと、RACであろうと、全部参加しますね。そういう人は絶対に人気が出ます。いろんなクラブの会員さんから引っ張りだこで、いろんなところへ連れて行かれますね。その人が修了して本国へ帰るときには、送別会を十何回やってましたね。これはかわいい子でした。かわいいといっても、女の子と違いますよ。中国系のインドネシアの男性ですけど、阪大でバイオの勉強を10年間ほどやってました。日本語はペラペラですね。タイの人と結婚しまして、送別会には夫婦を招待しました。

今度は、ある国の女性ですけども、例会でお金をもらっただけですわ。レクリエーションには参加しましたね。それ以外はほとんど参加しない。ほとほと困りました。私は直接に面接はしておりませんけれども、朴訥で、ええ感じやなと思って、「カウンセラーするわ」と引き受けたんですが、あにはからんや、さっぱりでした。

その人からCYの申し込みがあったんですけどね、理事会でパーンと一発で蹴られましたね。「あかん」と。

だから、いまの質問はなかなか難しい問題です。私も面接に参加させてもらっているんですけど、ええとこばかり見せますよね。15分や30分ぐらいではね、裏の裏は見えまへんで(笑い)。それが現実やと思います。

○質問

以前カウンセラーをさせていただきました韓国の方なんですけど、「あなたの国は日本の悪口ばかり言うてるけどね、それはもうあなたの時代にはやめて、日本と一緒によくなるようにやったらどうですか。そのほうが仲良くなれるんじゃないですか」といって別れたんですね。ところが帰国したら最後、うんとともすんとも……。全然お付き合いがないわけですね。

そういう人を見ていると、さみしい気持ちするんですけども、それじゃ日本人がフルブライトで奨学金を受けて、果してどれだけフルブライトに対してお礼をいっているかと考えると、まあそういう人もいて、そうでない人もいるけど、先ほどおっしゃったように、人柄の問題だということになりますね。

先程の韓国の方に、「日本人の感覚からいうたら、次に会ったときには『この間はあるがとうございました』というのが日本の常識や」と言ったらね、「1回してもらったことに、それ以上礼を言うのは恥や」と言いますのでね、やっぱり国情が違う、文化の違いがあるなと思いました。その瞬間が終われば、あとは関係ないんだという国民性かなと思うと理解できるんですけども、そんなことを乗り越えて面倒をみるのがロータリーの仕事かなと理解していますので、礼を言うてくれなくてもいいと私は考えています。

三好 そういう大きな心でおってほしいですね。先ほどお話がありましたように、韓国の人にはなんか言いますわね、昔の話を。ぼくははっきり言うんですよ。「国籍は違うけれども、こうやって日本に来て勉強するんやったら、心の国境をとりなさいよ。同じ人間やないか。日本人であろうと、アフリカ人であろうと、南米の人であろうと、エスキモー人であろうと、どこの人でも同じ人間やないか」と。だから、心の国境はとってほしい。

そして韓国の人に「あんた、日本に何しに来たんや。勉強に来たんやちがうんか。そういういやみを言いに来たんか。あんたも私も同じ友だちや。人間やないか」と食ってかかったら、びっくりし

ましてね。それからそういうことは一言も言わんようになって、いまだに手紙が来ますよ。

これも米山本部に問い合わせをしたんですね。そうすると、付き合っているときに、どういう付き合い方をしたかということ。その人とロータリーとの付き合い方ですね。いろんな付き合い方があるわけです。だから個人的に「あの学生はいい学生だった」というのは、われわれレベルの話で、全体を見て、もっと大きな視点から指導していただきたいと思います。

部門別要旨報告

◆ 会長部門 ◆

討論リーダー インカミンガバナー 柏木 尚 (豊中)

会長部門においては、いろいろお話が出ましたが、最大の問題は、やはり会員増強で、皆さんからもいろいろ意見が出たり、私からも細かく申し上げたところでございます。

これ以外では、8つの地区に分かれておりますIMについて、独創的なアイデアでみんなで集まって相談しながらやってもらえませんかと提案しました。相談すること自体が非常に地域の連帯を深めるのではと考えまして、そのことを強調いたしました。

2000年の地区大会につきましては、ここも力を入れて申し上げたのですけれども、全員ご参加ということで、前期・後期3500円ずつということで、何人かは賛成しかねる方もいらっしゃいましたが、4分の3以上ということでご決議を頂戴しました。

また、アンケートが随分きておりまして、それを読んでおりますと、たいへん素晴らしい言葉なり智恵がたくさん入っていて、非常に参考になりました。一つだけご紹介申し上げますと、例会について「質素で品のある例会をしたい」と。これを結びの言葉といたしまして、ご報告を終わります。

◆ 幹事部門 ◆

討論リーダー パストガバナー 熊澤 忠躬 (守口)

幹事部門の協議会は、次年度のクラブ運営にとって最も大切な会ですので、全員参加を希望しておりました。一人でも欠席があれば、もう一度その方だけ呼びして、マンツーマンでお話しようと思ったんですが、幸いなことに83名全員来ていただきました。

そしてアンケートでも熱心にお答えいただきました。中には、白紙や「特になし」という回答もありまして、これは立派なクラブだろうから、後から説明してもらおうと思ったんですが(笑)、時間がございません。ただアンケート結果には、この不況下に非常な危機感をもったお答えがたくさんあり、中には「自分の仕事に精いっぱい、奉仕活動なんて考えられない」と書かれた幹事の方もおられ、考えさせられました。

これらの意見に対し、私は2つのことを考えました。

まず第一は、ロータリアンとは一体何かということです。ロータリークラブでいちばん偉いのは誰かということ、会長です。会長は1年ごとに変わりますが、クラブの中の古いボスよりも偉い。そして、その会長の独自の運営を支えるのがあなたたち幹事であるということを実感していただきました。

サブリーダーの津江さんからは、陽明学のお話をとおして、ロータリアンらしからぬ考え方が起こってくるのは、情熱を失い、基本を忘れているか

らだということを説明していただきました。

第二には、この不況下における問題には、ロータリアン一人一人が対処すべきであると同時に、地区のテーマとして取り上げて、時勢に沿った改革をすべきであるだろうということです。ひとつフォーラムをつくって検討してみようじゃないかと考えをまとめてまいりました。諮問委員会の皆さま方には、よろしくお願いいたします。

それから、今年は特別な企画といたしまして、守口の現役の幹事である岡村サブリーダーに、新しい知識や苦勞なされたこと等を話していただきました。手を抜かずに自分だけがわかる充実感を味わっている、ということを報告され、「自分が変わればまわりが変わる」ことを喝破していただきました。このお話をとおして、幹事の皆さんにもひとつ、自分を変え、クラブを変えるんだという姿勢をお願いしたわけでございます。

◆ クラブ奉仕部門 ◆

討論リーダー ガバナー 吉川 謹司（東大阪東）

クラブ奉仕部門ではまず、会員増強について検討しました。例年、何パーセント増という表現をとっていますが、次年度については、純増100名をぜひとも達成していただきたく、そのためにも、増強セミナーにいつそう力を入れることになりました。

広報・雑誌については、いままでロータリーは「陰徳」を良しとしてきましたが、昨今は、活動をより多くの方々に理解をしていただくため、広報に力を入れるようになっていきます。本年度は、新津委員長のご努力により、マスコミとの関係が非常に密接になりました。たとえば産経新聞からは、各クラブが奉仕活動をされたことをご報告されれば喜んで掲載するというお話も頂戴しておりますので、こぞってご投稿いただくようとの話がございました。

そのほか、クラブ例会の出席率についてもお話があり、今までは、たとえばこの地区でも「1位はどのクラブ」などという形で、出席率競争を奨励するようなところがあったけれども、今後はそのようなことはなくなるだろうという事でした。

最後に、親睦委員会のほうからですが、各クラブの中にもたくさん同好会があるようですので、各クラブの交流試合をやったらという意見もありました。また、先般の4地区連合地区大会で、美術品等の展示等やオークションがあり、素晴らしい実績を上げているので、来年度の地区大会でもやらせていただきたいというようなお話がございました。

◆ 職業奉仕部門 ◆

討論リーダー パストガバナー 近藤 雅臣（千里）

まず、職業奉仕委員長のほうから、職業奉仕の理念の変遷、新方針について、また、職業奉仕に関するアンケートの回答について説明がありました。このあとに、これからの活動についての解説があり、職業奉仕の基本理念を、各クラブの委員長がまず身につけるため、職業奉仕の歴史をご自身で勉強していただきたいという結論になりました。

特に、10月の職業奉仕月間においては、各クラブの職業奉仕委員長がみずから卓話をしていたく、ということです。文献その他資料は、地区からご提供申し上げるので、みずから勉強していただくというのがその趣旨でございます。

ボランティア委員長からは、まず各クラブを通じてボランティア登録をしていただきたいということです。と同時に、各クラブで、その地域のニーズを十分調査していただき、この2つを上手に組み合わせ実践に役立てたい、とのことでした。先ほど広報についてお話がありましたが、ロータリーがボランティア活動を行っていることを、地

域の方に知っていただければ、要望も出てくるでしょう。そういう意味での広報活動は、ロータリー精神に反しないもので、ぜひお願いしたいということになっております。

そのあとのディスカッションでは、マンネリ化の防止が話題になりました。また、奉仕の実例についてもご提案があり、駐車違反などの交通問題に関し、効果を上げておられるクラブがあるということでした。そういう実践をして効果が出たということ、ぜひ参考にしていただければと思ったわけでございます。

いずれにせよ、職業奉仕は、クラブが単位になるものです。クラブ自身がしっかりと勉強され、その地域の状況を把握していただいた上で、職業奉仕の実を上げていただきたいと、このような結論になったことをご紹介します、報告を終わります。

◆ 社会奉仕部門 ◆

討論リーダー パストガバナー 中川 章三（大阪城南）

地区の社会奉仕委員会には2つありまして、それぞれ本来の社会奉仕と環境保全を扱っております。

社会奉仕のほうは、地域のニーズに基づいた社会奉仕活動を繰り広げ、明るいまちづくりをしていきたいというのが次年度の活動目標でございます。テーマには、高齢化の問題が一番にあがってまいります。アクティブエイジングと申しまして、すこやかに、活力のある、不安のないような高齢生活をお助けしていくということでございます。

一方、環境保全の委員会のほうでは、次年度はISO-14000についての調査をやりたいということです。また、7年前に環境問題についてのガイドブックが作られたのですが、古くなりましたので、これを作り直します。今度、パストガバナーをはじめいろいろな方に見ていただきまして、改訂版を皆さんにお配りするというところでございます。

それと、わが地区の国際ロータリーは大阪府府民会議の環境会議に入っております、こまめにスイッチを消すというスイッチオフ推進運動、そして、空調が行き過ぎていないかこまめにチェックするエコイベント運動、さらにグリーン購入推進運動が上がっています。これらを府民会議と連動してやっていきたいということでございます。交通問題では、ロータリーの会員また企業・団体等で貢献のあったところを表彰していくこと。それから青少年の交通災害、さらには高齢化社会における交通安全問題にも取り組みたいということでした。

◆ 国際奉仕部門 ◆

討論リーダー パストガバナー 山中 文和 (大阪南)

国際奉仕部門には、世界社会奉仕、青少年交換世界平和国際親善という3つの委員会がごぞいます。

世界社会奉仕では、地区だけではなく各クラブがWCSの世界社会奉仕プログラムをもって活動しておられ、2660地区では62のクラブがクラブ単位で活躍されています。

ただ、WCS活動に際しては、どうか先方の国のロータリー、あるいは現場のいろいろな方に書類としてのバランスシートをもらっていただきたい。お金やら物を送りっぱなしではまずいので、どうか先方から書類をもらってくださいということでごぞいます。

地区としては8つの問題点をプロジェクトとして取り組んでおり、各クラブと共同、もしくは地区のプロジェクトに参加いただくというような形でやっております。奉仕活動にどれが大事ということはありませんが、国際奉仕は非常に意義を感じやすい、奉仕の喜びを身をもって感動できる奉仕の一つだと思っております。

青少年交換は、現在、われわれの地区では62のクラブが世界の20数か国との間で実施されています。去年は派遣が13名で、受け入れが12名。来年度の分は両方とも12名ずつの青少年交換を行うことになっております。この青少年交換は、ご存じと思いますが、ロータリーの留学生制度の中でも唯一の、ロータリアンの子弟のための制度でごぞいます。どうか、今後ともご留意を賜りますことをお願いしたいと思っております。

最後に、世界平和と国際理解の委員会ですが、クラブと海外クラブとの友好関係をいつでも斡旋をいただけます。どうか、地区委員長のほうにお問い合わせください。特に2004年には関西の4地区が主になって、大阪ドームをスタートに世界大会をやるということですが、その場合もできるだけ

多くの方にご参加いただけるよう、いろいろとこの委員会にご活躍いただいております。

◆ ロータリー財団部門 ◆

サブリーダー 執行 経世 (枚方)

リーダーの菅生パストガバナーが急用のため、代理でご報告申し上げます。

ロータリー財団には7つの小委員会がございまして、情報・増進・国際親善奨学生・財団学友・GSE、ポリオプラス・人道的援助と扱っております。

柏木インカミングガバナーから、ロータリー財団というのは非常に複雑なので、勉強のため財団セミナーをやろうというご提唱がございまして、本年の10月23日に万博のサンパレスで行う計画です。

増進部門におきましては、去年は地区目標100%を超しましたが、昨年末からロータリーレートの変動の影響や、会員の多少の減少もあり、3月末のデータで89%台になっておりますので、よろしくご配慮を願うわけでごぞいます。

GSE研究グラフ交換について、次年度以降の計画では、現在3名が決定していますが、まだ団長さんが決まっていないのが実情で、今後の課題となっております。

国際親善奨学生の部門では、例年の事ですが、女性の割合が非常に高いので、男性の選出にご協力願います。特に選出しておられないクラブにはご協力をお願いいたします。

財団学友委員会のほうは、元国際親善奨学生とか研究グループ交換チームのメンバーなどの方々が450名余りいらっしゃいます。この方々を、ロータリー財団月間あるいは他の機会に呼んで、いろいろな報告をしてもらえればということでございます。

ポリオプラス委員会については、2005年には世

界からポリオを根絶することをめざしています。2001年はDDFから3万5000ドルを拠出されることが決まっており、1999～2000年度には、ポリオ撲滅のための資金ニーズが最大となることが予想されますので、よろしくご協力を願いたいと言われております。

それから人道的援助委員会からは、各クラブにいろいろなプロジェクトを遂行されるようご要望が出されました。

◆ 米山奨学部門 ◆

討論リーダー パストガバナー 中野 董夫 (大阪阪南)

部門別協議会ではまず、制度の変遷についてのお話がありました。

現在、米山奨学生数は1100名で、昨年からの選考方法が大きく変わりました。これまで当初はロータリークラブのある国、かつてあった国からの留学生に限定していたのが、昨年の選考つまり今年度の留学生からは、そういう制限が一切なくなりまして、すべての国を対象とすることになりました。また、従来は一般募集だったのを大学推薦に改めました。さらに、各地区への割り当てを定める基準学生数について、応募者ではなく在学している留学生の数に比例することになりました。制度の変更で、当地区への割り当ては従来よりも少し減り、今年は最終的には27名になりました。大学推薦で優秀な方だけを推薦していただくことになり、われわれ地区としてはたいへん選考しやすくなりました。

この他、去年から委員長の外に小委員会をつくったのですが、各委員長の方々にそれぞれご担当の部門についての解説をいただきました。その後、質疑応答がございまして、なかなか有益な内容でした。簡単でございますが、以上でございます。

総 括

インカミングガバナー 柏木 尚 (豊中)

午前中の分はさておきまして、先ほどは各部門のたいへん熱心なご討議、あるいはご協議があったことを再確認させていただいたわけです。そこでぜひ申し上げておきたいのは、会員増強につきまして、地区の純増 100 名以上を目標にして頑張っていたきたいということでございます。

私は、この報告をずっと聞いておりまして、2660 地区の幅と奥行きの実感いたしました。当地区の底力を見せていただいたように思います。討論リーダー、ご担当のパストガバナーの皆さま方、吉川ガバナーを含め、またサブリーダーの

方々に厚くお礼を申し上げるところでございます。

きょうの勉強会の総括を一言で申し上げますと、私自身たいへん勉強させていただいたな、ということ。皆さんの中で、私がいちばん勉強になったのではないかなと思っているところです。皆さんの力強さに接して、たいへん頼もしく感じました。私は至らぬ者ですが、皆さま方のお力に支えられて、何とか私も頑張って責務を果たしたいと存じておりますので、よろしくお願い申し上げまして、総括とさせていただきます。

どうも皆さま、ありがとうございました。

所 感

ガバナー 吉川 謹司 (大阪東)

どうも皆さま、本当に長時間、早朝からありがとうございました。さぞお疲れになったことと推察申し上げます。今朝は、柏木インカミングガバナーから、次年度に対する思いのほどを述べていただきまして、私も感動いたしました。そして、本日のこの協議会が無事、大成功のうちに終わったことを心から感謝申し上げます。

これもひとえに、ホストクラブである豊中クラブの田中会長さま、そして実行委員長の橋田さま、また豊中クラブの全会員の皆さま方、委員の皆さま方のおかげでありまして、心から厚く御礼申し上げます。重ねて本日の討論リーダーをお務めいただきましたリーダーの皆さま方、そしてサブリーダーの皆さま方、なによりもこの長時間の協議会にご参加いただきました全ロータリアンの方々に重ねて心から厚く御礼を申し上げます。

いよいよ次年度はロータリー2000「活動は堅実、信望、持続」ということが掲げられました。私が聞いたところによりますと、次年度RI会長は、キンロス会長、そしてレイシー会長と話しかわれて、このようなテーマを決められたようです。言い換えれば、たぶんキンロス会長の「ロータリーの心」、そしてレイシー会長の「ロータリーの夢を追い続けよう」と、いずれも思いやる心が夢を生み、その夢がまた心に活力を与えて、より奉仕活動を活発にするという思いが、今回も込められているのではないかと思います。加えて、堅実といいますが、ロータリーの原点をもう一度見直して、そして勇気をもって修正するところは修正して、世界の方々のロータリーへの信望を高めていき、奉仕の心を継続していきたいという願いがこもって

るのではないだろうかと考えております。

本年度、私の年度はロータリーの夢というものを大切に考え、そして継続し、現実のものにしていくことを願ってまいりました。そして世界のあらゆる社会に、またあらゆる人々に希望の虹をかけることを願ってまいりました。次年度も柏木インカミングガバナーがこれを継承してくださるものと信じております。どうぞ、今後とも皆さま方の温かいご協力を賜りますことを心からお願い申し上げます。本日のお礼の言葉とさせていただきます。どうもありがとうございました。



実行委員会副委員長 一瓢 利男

皆さま方、長時間にわたり熱心に学習されまして、さぞお疲れのことと思います。各クラブにお帰りになりましたら、本日の学習をもとにクラブの運営をしていただくとともに、ロータリークラブの活性化にご尽力をお願いしたいと思います。

今回は、ホストクラブとして豊中ロータリークラブ、コ・ホストクラブとして豊中市内の3クラブが協議会の運営に協力してまいりました。しかし、なにぶん初めての行事でございます。不行き届きの点が多々あったろうかと思いますが、ロータリアンの友情と寛容の精神でご容赦願いたいと思います。本日は長時間ありがとうございました。甚だ簡単でございますが、閉会の辞とさせていただきます。(拍手)

地区協議会

参加者 () R.C.

ガバナー クラブ奉仕部門 リーダー

インカミングガバナー 会長部門 リーダー

ガバナーノミニ

パスト ガバナー

パスト ガバナー

パスト ガバナー

パスト ガバナー

パスト ガバナー

パスト ガバナー

パスト ガバナー

パスト ガバナー

パスト ガバナー ロータリー財団部門 リーダー

パスト ガバナー 国際奉仕部門 リーダー

パスト ガバナー

パスト ガバナー 米山奨学部門 リーダー

パスト ガバナー 幹事部門 リーダー

パスト ガバナー 社会奉仕部門 リーダー

パスト ガバナー 職業奉仕部門 リーダー

会長部門 サブリーダー

会長部門 サブリーダー

幹事部門 サブリーダー

幹事部門 サブリーダー

クラブ奉仕部門 サブリーダー

クラブ奉仕部門 サブリーダー

クラブ奉仕部門 サブリーダー

クラブ奉仕部門 サブリーダー

職業奉仕部門 サブリーダー

職業奉仕部門 サブリーダー

社会奉仕部門 サブリーダー

社会奉仕部門 サブリーダー

社会奉仕部門 サブリーダー

国際奉仕部門 サブリーダー

国際奉仕部門 サブリーダー

国際奉仕部門 サブリーダー

ロータリー財団部門 サブリーダー

ロータリー財団部門 サブリーダー

ロータリー財団部門 サブリーダー

ロータリー財団部門 サブリーダー

ロータリー財団部門 サブリーダー

ロータリー財団部門 サブリーダー

ロータリー財団部門 サブリーダー

米山奨学部門 サブリーダー

米山奨学部門 サブリーダー

米山奨学部門 サブリーダー

米山奨学部門 サブリーダー

米山奨学部門 サブリーダー

吉川 謹司 (東大阪東)

柏木 尚裕 (豊 中)

土井 正裕 (大 阪 北)

伊瀬 芳吉 (池 田)

戸田 孝一 (八 尾)

中村 俊一 (東 大 阪)

坂東 宏 (吹 田)

松本 良諄 (大 阪 東)

古田 敬三 (大 阪)

武尾 敬之助 (大阪西北)

廣瀬 勘一郎 (大阪西南)

菅生 浩三 (大 阪 北)

山中 文和 (大 阪 南)

大森 慈祥 (茨 木)

中野 董夫 (大阪阪南)

熊澤 忠躬 (守 口)

中川 章三 (大阪城南)

近藤 雅臣 (千 里)

青木 禎一郎 (豊 中)

勝本 保 (豊 中)

津江 孝夫 (大 阪 南)

岡村 晃明 (守 口)

多田 昭三 (大阪東南)

新津 敬直 (大 阪 西)

土井 正裕 (大 阪 北)

大川 進一郎 (大 東)

近藤 浩司 (大 阪 南)

松岡 晃一郎 (大阪うつぼ)

矢橋 弘嗣 (千 里)

柳 雄二 (八尾中央)

藤井 武治 (大阪リバーサイド)

坂本 旭 (大阪東淀)

三宅 一嘉 (大阪東南)

笹井 敏之 (大阪イブニング)

執行 経世 (枚 方)

奥 嘉隆 (交 野)

松岡 茂雄 (大阪鶴見)

岡本 健治 (大阪東南)

宮田 宏章 (大 阪 北)

簡 仁一 (茨 木)

大谷 透 (大阪西南)

三好 三郎丸 (大阪天満橋)

平田 啓治郎 (大阪西南)

酒井 宏 (大 阪 南)

小竹 靖二 (大阪中之島)

中澤 章好 (大阪住吉)

地区協議会

参加者 () R.C.

次期地区幹事

青木 禎一郎 (豊 中)	森 山 貞 信 (豊 中)	辻 井 茂 夫 (豊中大阪国際空港)
橋 田 進 (豊 中)	亀 田 八 良 (豊 中 南)	西 山 敏 之 (豊 中)
田 中 勇之祐 (豊 中)	河 崎 守 男 (豊中千里)	児 島 義 介 (豊 中)
加 登 敏 夫 (豊 中)	喜 多 正 夫 (豊 中)	竹 玄 賢 司 (豊 中)
豊 島 了 雄 (豊 中)	中 西 純 造 (豊 中)	森 本 博 明 (豊 中)
飯 田 正 弥 (大 阪 北)		

次期地区財務委員会

委員長 勝 本 保 (豊 中)	
委員 須 崎 洋 一 (東大 阪 東)	杵 田 圭 児 (大 阪 北)
会 計 上 田 利 男 (豊 中)	

次期地区大会委員長

村 司 悠 峰 (豊 中)

次期地区大会幹事

馬 場 一 雄 (豊 中)

次期ロータリーの友地区委員

一 瓢 利 男 (豊 中)

出席者名簿

クラブ名	部門	会長	幹事	クラブ奉仕	職業奉仕	社会奉仕	国際奉仕	ロータリー財団	米山奨学
D	大 東	三田眞作	石丸康一	江原誠三	谷中清孝	大西寛治	樋口秀和	角井吉彦	榎本光博
	大 東 中央	伊泊規子	中島 勤	市川貴一	倉根秀行	樋口光弘	若狭一夫	井上正篤	岩本静江
H	東 大 阪	川口暢彦	河北勝彦	火伏羲純	坂井孝彦	織田宗輔	森本 一	小崎正雄	木室清一
	東大阪中央	山本義朗	原口隆夫	・小林信治	三井大二郎	吉川明宏	・前田實也	湯谷登来男	大畑 斉
	東 大 阪 東	水谷 弘	岡田耕治	城戸義雄	斉藤勝俊	村上雅治	寺西太一	常楽寺喜雄	山田隆教
	東大阪みどり	山本崇雄	味岡 實	岩本 忍	石渡善一	阪口忠士	山片重房	河野剛士	中谷政義
	東 大 阪 西	梅沢喜八郎	石津良行	谷村佳昭	浜広 勲	弓手宏亮	杉山義丈	大西武治	高田富三男
	枚 方	門前武彦	安積曜夫	磯田隆平	・富田 明	水尾祥一	諏訪正美	橋本茂夫	岩阪俊介
	枚方くずは	岡田日出男	泉谷楠夫	平尾公介	中川定雄	宮田 明	中村雄策	川端孝司	・畠仲 聡
	茨 木	野田征夫	金田憲幸	辰巳克平	・村本正義	久保義誓	掛谷建郎	・簡 仁一	高島 健
I	茨 木 東	石川一彦	森田 隆	松尾泰博	高岡賢弘	瀧川理也	西村長比古	西中 務	井上幸一
	茨 木 西	佐々木良高	田村英明	橋本善治	・倉 茂夫	加藤英子	櫻井 彰	佐藤喜代澄	林 重三
	池 田	海邊忠治	北野紀之	柴田安博	・奥村昌也	岸上宏司	山口正之	藤川隆治	原 宜二
	池田くれは	霧山勝弘	福田公二	尾田 豊	林 克彦	・古川 智	貴田信行	藤井保雄	織田重雄
K	門 真	今村洋二	吉村光弘	豊田 峻	・大塚庸行	高橋英雄	丸山安雄	大隈清明	・伏下輝國
	交 野	板井勝富	古神子壽	丸野 務	・河津誠彦	木戸 正	平田至宏	石田俊夫	・有吉雄二郎
M	箕 面	神内絃典	谷川貢二	村田勝彦	藤原敏裕	田村徳郎	桜井眞三	岡内重信	芝野弘三郎
	箕面中央	東 良三	田遠正昭	藏田禎夫	北島清光	・野村正勝	堀川 明	石田博和	・国富信彦
	守 口	楠神 壽	南野久米二	玉井満司	・江端将哲	辻村 弘	小野山攻	・阪口 明	桂田幸三郎
	N 寝 屋 川	前田澄雄	好川照一	藤井 修	森 時頼	梶田周作	紅露政利	木村隆朗	神戸昭典
O	寝 屋 川 東	尾崎幸次	生野史朗	南井一彦	松本 勉	柳沢宏之	浜田博章	北本 明	盛岡建吉
	大 阪	阿部晴彦	早嶋 茂	八木頼夫	吉山文雄	大多一雄	Valentine Morozoff	上田隆三	松田隆明
	大阪阿倍野	村田治彦	渡邊純一	青木憲治	竹川修司	森 哲哉	浦野庸三	大浦浩暢	木船貴由
	大阪ちゃまち	青木民男	小林 孝	藤田宗平	飯村佳夫	谷口晴彦	・水島陸司	檜垣誠次	吉村 修
	大 阪 中央	植村甚久	益田照夫	浜崎悌一	佐古忠司	飯田精三	亀井雄志	谷野利夫	・小林惇三
	大 阪 堂 島	梨本幸男	・竹田秀道	水山 章	道上恵三郎	・福光道太	堀内敏道	北 研次	西野公庸
	大 阪 阪 南	服部四郎	南部高志	古田鶴彦	笠井勝巳	和泉俊治	和田 健	山本研二郎	前田忠蔵
	大 阪 東	若林紀男	丹羽一郎	小中義博	中村 健	溝手敦信	山本武男	・糸岡憲男	青井 隆
	大 阪 東 淀	大津久直	佐々木一幸	玉井三貴男	・北尻金三郎	剣崎伊土樹	高野 隆	西村 實	・吉原光雄
	大 阪 平 野	佐野元英	川上善司	中庭寿朗	友定弘蔵	中野凱一	米田忠由	信根勝一	喜多敏明
	大 阪 本 町	天方義邦	鈴木儀雄	岡野啓治郎	石井基行	・大南勝也	安藤康雄	寺西邦男	細川進太郎
	大阪イブニング	田中義信	山口慶仁	藤江正謹	坂井直博	浦川義輝	廣森達郎	濱村太造	玉井教裕
	大 阪 城	辻中明一	田中俊男	西本晴男	加藤 勉	井上教規	碓井 昭	・長友滋尊	内海浩之
	大 阪 城 南	杉原 茂	栗谷貞義	今井賢二郎	・山下健三	山口 寛	吉岡光雄	野中一彦	岡倉三郎
	大 阪 城 東	藤田幸一	古川信義	上西宏侑	北村 謙	木内健二	片山雅和	田中信守	・富士谷清
	大 阪 柏 原	松原貞一	西岡哲也	・杉原久史	中嶋或郎	古賀省三	山本光勇	岡村政嗣	吉村源逸
	大 阪 北	圓井東一	栗本友和	高月璋介	・鳥飼勢三	黒田恭年	藤田 彬	阪口善雄	大本武雄
	大阪北梅田	山田崇雄	高石英二	越智碩夫	安富國詞	田辺嘉之	大西久晴	熊本武史	・門脇義房
	大 阪 北 淀	安達 研	川上憲広	宮崎信夫	大橋 融	村木 茂	森田雅美	渡辺生児	谷口光夫
	大阪御堂筋	福井恵一郎	中村 博	・祖父江一郎	高嶋秀行	坂田哲男	山田和義	・蔵田隆一	森 真二
	大 阪 南	平岡英信	小倉宏之	大淵 馨	近藤浩司	・室井 誠	前田元夫	國分紀一	菅生清佐衛門
	大阪バーサイド	山本桂三	前田葉子	小出實一	松井素子	江指 助	三木文雄	中村幸盛	奥中克治

・印は代理出席者

会 員 委 員 会 委 員 名 冊

クラブ名	部門	会長	幹事	クラブ奉仕	職業奉仕	社会奉仕	国際奉仕	ロータリー財団	米山奨学
O	大阪中之島	針谷紘一	高野博行	福田忠博	大坂有一郎	山本 肇	下岡陽一郎	志水慶一	辛川順一
	大 阪 難 波	西森喜一	植松一良	吉田尚司	井上正典	井上古雄	北田好文	国分重昭	上山照夫
	大阪なにわ	菅本高美	田中壽秋	諏訪正三	春木洋次	上西康治	小鍛冶雄皓	島崎進一郎	徳岡佑造
	大 阪 南 西	赤井辰藏	吉田和正	光満寛守	小長谷道人	角屋正進	葛城健二	岩本樹雄	南 樹一
	大 阪 西	河西計介	山上和則	岡 豪敏	井手野下秀守	薮野正年	松中修身	秋山圭市	足高達七
	大阪大手前	飯塚久忠	八木 誠	臼井慶勝	板野眞巳	大橋鏑二	田村和之	廣末利男	木田賢治
	大 阪 大 淀	松尾忠治	宮越 昭	杉村章二	杉山宗央	大西洋一郎	島 伸彦	井原悦司	岡本政和
	大 阪 咲 洲	丸山幸夫	太田裕史	竹川公三	成山 肇	前田 功	是永 明	荒石義一郎	本多至成
	大 阪 西 北	桂 直久	近藤治郎	川上伸一	池谷典彦	川原 巧	三村恵造	美馬大道	西村 暁
	大 阪 西 南	弥谷佐兵衛	阿部恭三	露口佳彦	高澤富士子	正田武弘	青木達也	中西順一郎	田中穰二
S	大 阪 船 場	武田 實	甚田隆康	清水 明	井戸公夫	林怡久雄	井上 明	片岡清夫	宮崎信敏
	大阪心斎橋	鴻野精彦	竹田正司	福西幸夫	早川謙一	森 泰輔	大橋寛治	細川永治	脇田貞二
	大 阪 城 北	服部 貢	加藤昭男	西 正中	加納晴彦	加藤昭男	大坪武彦	藤立啓一	川本晴男
	大阪そねざき	岸田種一	井上千明	山田美英江	竹之内 勲	岡本千秋	中 明夫	高木美和子	尾崎 剛
	大阪住之江	西田敦宜	阿知波 毅	沖島阿喜良	乗光孝明	栗田仁宏	高本武男	片山一步	田中成和
	大 阪 住 吉	平井博道	福田幸一	武曾 忠	松村 武	内海郷司	立花幹夫	木曾英次郎	奥田 清
	大阪天満橋	赤木頌一	山本 誠	坂本一民	辻 一郎	永江 溥	徳岡昭七郎	吉澤秀夫	小島円宗
	大阪天王寺	金子 裕	杉本源衛	新屋正富	津留正孝	西原好一	松井隆雄	小林 明	家田成夫
	大 阪 東 南	荒木彰一	奥田 実	三野文男	水沼健男	北田耕一	川端一輝	大山文雄	伊藤武定
	大 阪 鶴 見	西野政治	武市智寿	山田秀雄	宇野 滋	水間頼孝	谷 康平	内田 廣	武内教治
T	大 阪 梅 田	梶谷健二	平山博史	吉田喜一郎	稲本一夫	折寄武士	中西藤和	園 侯一	葛原忠知
	大阪梅田東	山野謹五郎	岸辰辰三	中島英郎	松原倉敏	上田 尚	井上芳治	橋本安雄	池田正英
	大阪うつぼ	天羽邦照	梶元 英	今井忠臣	高田省三	齊藤隆二	堤 昌彦	木下明之	大森 治
	大 阪 淀 川	武田慶之助	青木 高	岡田義昭	福井宏有	西田良平	白方誠彌	中川賢治	田中忠男
	千 里	川瀬甲子雄	矢橋弘嗣	北垣次彦	高野久輝	朝比奈秀夫	藤井克彦	坂口 健	神島博昭
	千里メイプル	西本明文	長井伸一	池田 進	長谷川靖彦	相原正雄	佐伯吉捷	久保 勲	光岡史富
	摂 津	埜口定男	中川廣司	鶴見芳令	樋上幸夫	横田 聡	田中康造	樫村泰信	原田 肇
	四 条 畷	景山隆光	清水勝美	山口愛彦	大平宏美	田村 實	平井 一	木村慎一郎	畑 正廣
	吹 田	佐藤庄治	柴田 仁	成尾紹雄	井上陽二	安封嘉一	足立善信	山本 典	岡 照雄
	吹田江坂	長澤義雄	渡辺忠雄	金ヶ江裕之	岩田正名	杉本英一郎	中山安信	杉本全司	大井 清
Y	吹 田 西	新井 清	平野善次	吉岡五郎	毛利征一郎	玉城 明	澤井正寛	田中慶一	由上時善
	高 槻	花増朝道	大関道磨	尾崎貞親	神田敏男	杉本義弘	吉川晴喜	倉本 進	大隅正純
	高 槻 東	杉岡宗雄	森山鐵男	高木莊輔	辻野暁一	石井清隆	岡本昌夫	村上元昭	瀧井 理
	高 槻 西	菊地祐生	西川知行	早瀬 徹	藤井宗一	和三弘磨呂	坂本信人	高津嘉夫	東 富美雄
	豊 中	西山敏之	枇榔五郎	田中勇之祐	澤木政光	村司辰朗	畑田耕一	近藤俊夫	竹玄賢司
	豊 中 南	坂本英一	吉田日士光	古澤照男	吉田弘孝	國貞眞司	山中久男	大田比登史	中村恵英
	豊中大阪国際空港	行岡義蔵	木本亮介	濱田英機	齊城正之	村井健三	中尾正三	上西利三	武田徹也
	豊中千里	奥村量之	梶本良治	前川好弘	河崎守男	甚田倫弘	樹下行三	森田正治	笹山利雄
	八 尾	高木優一	坂本憲治	小川 寛	後藤孝吉	今川和明	正野 憲	今川憲治	中川 将
	八尾中央	山田正雄	阪口 毅	片岡哲玄	片岡基博	西岡成典	村上楨一	林 明雄	齊藤 茂
	八 尾 東	鈴木 洋	川密 眞	中西義治	福井茂行	吉川日出子	真野鐵生	小山喜弘	萱村信造

・印は代理出席者

1999年 5月 15日

豊中ロータリークラブ (ホストクラブ)

地区協議会実行委員会

委 員 長 橋 田 進
副 委 員 長 一 瓢 利 男
幹 事 馬 場 一 雄

S . A . A . 田 中 勇之祐
ソングリーダー ・ 小 橋 潔
ピ ア ノ 伴 奏 織 田 典 子
ホストクラブ会長 ・ 田 中 正 一

委 員 会	委 員 長	副 委 員 長	委 員
総 務 プログラム	西山 敏之	枇榔 五郎	児島 義介、小橋 潔、近藤 俊夫、南坂 和一、 佐伯 清彦、澤木 政光、田中 正一、次家 信紘
会 場	喜多 正夫	田中勇之祐	古澤 照明、門 宏明、河崎 守男、恵 賢親、 内本 晴夫、矢口 正登、矢野 昭
登 録	豊島 了雄	竹玄 賢司	畑田 耕一、米田 真、小杉 三朗、黒河 洋、 森本 博明、中西 敬次、奈須 正好、小川 修平、 大塚 頼三、島田 一光、山西 洋一、吉川 孝雄
接 待	村司 悠峰	一瓢 利男	橋本 清、亀田 八良、木村 実、中井 稔、 田中 啓次、辻井 茂夫、渡辺 宏道
記 録	加登 敏夫	馬場 一雄	橋本万太郎、宮田 禄大、村司 辰朗
救 護	森山 貞信	中西 純造	千葉 隆造、木村 正治、森本 健二
会 計	上田 利男	勝本 保	中村 勝彦

部門別協議会担当委員

部 門 別	会 場	S. A. A.	記 録	補 佐 役
会 長	ロイヤルホール 3 F	・ 西山 敏之	・ 児島 義介	・ 次家 信紘
幹 事	桂 2 F	・ 馬場 一雄	・ 枇榔 五郎	・ 亀田 八良
ク ラ ブ 奉 仕	桐 2 F	・ 森山 貞信	・ 黒河 洋	・ 一瓢 利男
職 業 奉 仕	牡丹 2 F	・ 中西 純造	・ 澤木 政光	・ 喜多 正夫
社 会 奉 仕	山楽1 2 F	・ 田中勇之祐	・ 村司 辰朗	・ 田中 啓次
国 際 奉 仕	楓 2 F	・ 加登 敏夫	・ 畑田 耕一	・ 辻井 茂夫
ロータリー財団	ダイヤモンドルーム 2 F	・ 橋田 進	・ 近藤 俊夫	・ 森本 博明
米 山 奨 学	山楽2 2 F	・ 村司 悠峰	・ 竹玄 賢司	・ 河崎 守男

1999～2000年度
地区協議会収支報告書

委員長：橋田 進

会 計：上田 利男

項 目		金 額	備 考
収入の部	登 録 料	14,110,000	170,000×83クラブ
	地 区 補 助 費	200,000	
	米山記念奨学会	752,176	
	銀 行 利 息	2,822	
	合 計	15,064,998	
支出の部	会 場 費	4,983,103	
	昼食・飲み物代	3,548,160	
	設 営 費	861,663	
	準 備 会 議 費	171,818	
	印 刷 費	389,880	
	記 録 費	668,617	
	記 録 誌	690,000	
	郵 送 料	74,970	
	雑 費	169,229	
	剰 余 金	3,507,558	
合 計	15,064,998		

※剰余金は地区資金に組み込みました。

地区協議会支那報告書

地区協議会支那報告書

地区協議会支那報告書

地区協議会支那報告書

品名	数量	単価	金額	備考
米	170,000	110,000	18,700,000	地区協議会支那報告書
油	500,000	200,000	100,000,000	地区協議会支那報告書
小麦	180,000	120,000	21,600,000	地区協議会支那報告書
大豆	100,000	150,000	15,000,000	地区協議会支那報告書
雑穀	100,000	100,000	10,000,000	地区協議会支那報告書
野菜	100,000	100,000	10,000,000	地区協議会支那報告書
果物	100,000	100,000	10,000,000	地区協議会支那報告書
肉類	100,000	100,000	10,000,000	地区協議会支那報告書
魚類	100,000	100,000	10,000,000	地区協議会支那報告書
卵類	100,000	100,000	10,000,000	地区協議会支那報告書
乳類	100,000	100,000	10,000,000	地区協議会支那報告書
飲料	100,000	100,000	10,000,000	地区協議会支那報告書
嗜好品	100,000	100,000	10,000,000	地区協議会支那報告書
日用品	100,000	100,000	10,000,000	地区協議会支那報告書
医療費	100,000	100,000	10,000,000	地区協議会支那報告書
教育費	100,000	100,000	10,000,000	地区協議会支那報告書
文化費	100,000	100,000	10,000,000	地区協議会支那報告書
スポーツ費	100,000	100,000	10,000,000	地区協議会支那報告書
その他	100,000	100,000	10,000,000	地区協議会支那報告書
合計	1,700,000	110,000	187,000,000	地区協議会支那報告書

地区協議会支那報告書

この記録は協議会で録音したテープから作成いたしました。

文中、敬称を省略させていただき、また編集や紙面の都合上、要旨のみにとどめたり、省略した部分、また文体の一致しない部分がありますが、よろしくご寛恕のほどお願い申し上げます。なお、テープはホストクラブに保管してありますので、必要な場合は申し出てください。

地区協議会記録委員

